



高知大学  
Kochi University

2010



# 大学での学びとは一体何だろう。

たとえば、誰かが何かをしてくれるのを待つのではなく  
自ら積極的に行動を起こすこと。

たとえば、これまで当たり前だと思ってきた事柄でも  
疑問を持って真っ白な頭で考えてみること。

たとえば、多くの人と出会い、友情や信頼を育みながら  
自分とは違うものの見方や考え方を知ること。

そうやって自分らしさを磨き、  
いずれ誰かの役に立てるような技術や能力、精神力を養うこと——

それが大学における学びの姿ではないだろうか。

あなたがあなたらしく生きていくために必要な力。  
社会の一員として、よりよい未来を創っていくための力。

それを得るための第一歩が、今はじまろうとしている。



## わたしたちが目指すもの

### [高知大学の理念]

本学は、教育基本法に則り、国民的合意の下に、地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問研究の充実・発展を推進する。

### [高知大学の目的]

- 1 豊かな教養と高度な専門性を目指す教育の実現
- 2 高度で実際的な学術研究の推進
- 3 地域社会との連携の強化
- 4 国際社会への貢献の推進
- 5 活力ある大学の運営

## わたしたちの姿

### [高知大学の特色]

高知大学は、地方にある国立大学として、地方文化や産業の進展に貢献するとともに、質の高い教育活動を展開し、地域から世界に発信できる高度な学術研究を推進する。統合を機に行う改革は、次の事項について実施する。

- 1 教育における先進大学を目指して、教養教育の充実と専門教育の高度化を達成する。
- 2 規模の拡大による研究基盤の強化と活性化、諸学の融合による新しい研究領域の開拓を図り、地域から世界に発信する高度な学術研究を展開する。
- 3 地域から世界へ発信する個性的な大学であるとともに、地域に開かれた大学としてその役割を果たす。

## 何を果たすか

### [高知大学の目標]

高知大学は南国土佐の自然と風土に学び、未来を展望した知の創造と学術の継承・発展を通して、人類の持続的発展と地域社会へ貢献することを使命として、以下の目標を掲げます。

#### <人材の育成>

21世紀の知識創造社会で活躍できる人材の育成を進めます。そのため学部では総合的学識と深い専門的学識を身につけ、かつ人間性や社会性に富んだ活力ある人材の育成に努めます。大学院では日本や世界が必要とする高度専門職業人の養成をはかるとともに、特定の分野において世界の学術研究をリードできる研究者を養成します。

#### <社会貢献>

基礎科学と応用科学の領域横断的研究を通じて社会に貢献します。地域の中核的総合大学として、総合的な学術研究基盤を維持発展させるとともに自然、文化などの地域特性を活かした研究を推進し、「資源探索・開拓」、「先端材料開発」、「人類環境共生科学」、「海洋コア」、「先端医療と高齢者医学」、「黒潮圏科学」及び「フィールドサイエンス」の各研究に特化した先端的で国際的な教育研究拠点を形成します。

#### <地域連携>

地域における国立大学として、若い世代や国民のための斬新で魅力的な高等教育機会を提供しつつ、地域社会との産官学連携研究を推進・発展させることにより、持続的な地域社会の発展のための研究成果及び専門性に富む人材の供給基盤としての役割を果たします。

#### <国際貢献>

アジア・太平洋地域をはじめ世界の国々、特に発展途上国との教育研究協力活動を推進します。これらの国々の大学との研究交流、学生交流活動を推進する中で、世界の文化の発展に貢献します。

# Contents

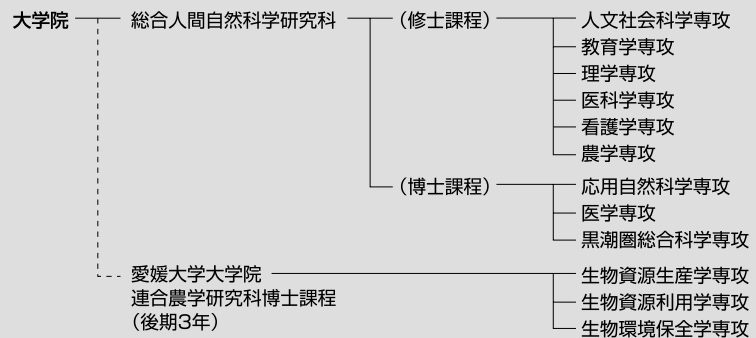
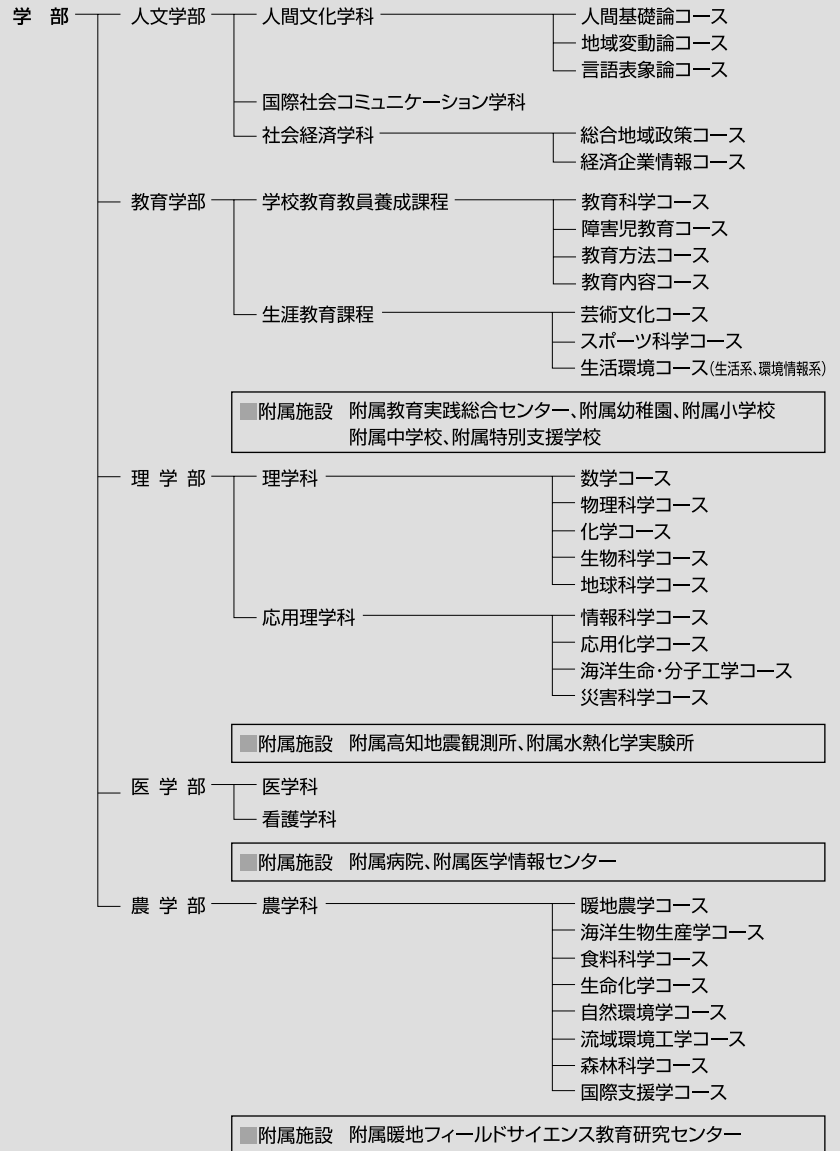
- 組織図 ————— 3
- 学びのフィールド ————— 4
- 学士課程 ————— 13
- 学部紹介
- 人文学部 ————— 19
- 教育学部 ————— 23
- 理学部 ————— 27
- 医学部 ————— 31
- 農学部 ————— 35
- クローズアップ ————— 39
- 教員紹介 ————— 47
- 大学院 ————— 53
- 国際交流 ————— 55
- 就職活動支援 ————— 59
- 研究プロジェクト ————— 65
- 施設紹介 ————— 67
- キャンパスライフ ————— 73
- 学長からのメッセージ — 81
- 入試データ ————— 82
- 入試課からのお知らせ — 85
- 地図・アクセス ————— 87

## 学 章



未来に向かって飛躍する希望に満ちた高知大学のイニシャル「K」をモチーフに、太平洋の波濤と黒潮を青色、若者の可能性と大空とを空色でそれぞれイメージ。躍動感溢れた「高知大学」を表現しています。

## 組織図



よさこい祭り



南風祭(みなかぜさい)



黒潮祭(くろしおさい)



物部キャンパス一日公開



## 学年歴

(平成21年度)



# 学びのフィールド

大学とは、人と人、あるいは興味と学問との出会いの「場」であり、  
様々な経験と省察を繰り返す「時間」であり、  
新たな視点や発見を得る「機会」です。

この「場」、「時間」、「機会」を支えているのが、学びのフィールド。  
多様な環境に恵まれ、フィールドの宝庫といわれる高知大学。  
ここでしかできない学びが、あなたを待っています。



## 【Field フィールド】

「野原・田畑」や「競技場」の他、「分野」や「領域」という意味を持つが、特に学術分野においては「(研究などの)現場」という解釈をもって広く使われる。



# 未開拓を開拓するおもしろさ

人文学部「考古学実習～朝倉古墳発掘調査～」からのレポート



■人文学部 人間文化学科 地域変動論コース 清家 章教授  
主な研究テーマ…高知古墳研究、古代家族の研究、埴輪研究など

■人文学部 人間文化学科 地域変動論コース 3年 渡邊 早苗 高知県立清水高校出身

**清家** 朝倉古墳は、古墳時代終末期620～630年頃に築造された古墳です。墳丘部分は現在は失われ、中核となる石室の石組みがむき出しになっています。県内では2番目に大きい石室を持ちますが、これまで正式に調査されたことはなく、2004年に我々が入ったのが最初です。その時は墳形や規模を調べる測量と石室の実測調査を行い、2008・2009年は、2年計画で発掘調査が進行しています(写真1、2)。

**渡邊** 私は遺跡や古墳に関わる研究がしくて高知大学に入学しましたが、学生時代からこれだけ立派な古墳を掘ったり、本格的な調査に参加できるのは思っていませんでした。

**清家** 考古学は現場あつての学問です。実際に現場を体験することで学生は大きく成長します。ですから生だけでなく、希望があれば1・2年生も受け入れて一緒に現場に入ります。高知には本格的な研究がなされていない古墳がまだ多く残されています。まさに未開拓のフィールドといえましょう。

**渡邊** 2008年の調査では、石室内の玄室から須

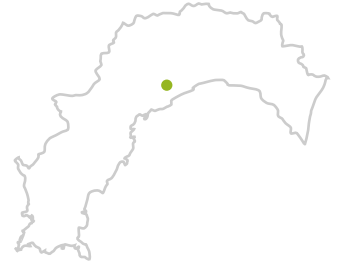
恵器などのかけら100点以上が出土しました(写真3)。全て自分たちの手で掘り出したものです。発掘調査は先生と大学院生の計画・指導のもと、学生たち自身で考え、判断しながら進めていきます。現場で土の色や粒を見ながらどこまで掘り下げるか考えるのはとても勉強になったし、自分の掘り出したものが成果につながった時は本当に嬉しかったですね。

**清家** 学生によりフィールドを提供していくことは、僕たち教員のひとつの責務だと思っています。しかし、研究はフィールドだけで終わるものではありません。発掘が終わると、図面を描いたり写真をまとめたりと地道な作業が待っています。発見したことを資料化し報告するまでが一連のプロセス。それをやり遂げる力——情熱や責任感、将来社会に出て求められる力だと思います。

**渡邊** 私も調査に参加してたくさんを学びました。大切なのは、とにかく積極的に何でも自分から飛び込んでいって経験すること。その中からきっと自分の道が見えてくると信じています。

## 朝倉古墳

高知大学朝倉キャンパスから車で5分ほどの赤鬼山中腹にある古墳で、岡豊キャンパス近くの小蓮古墳などとともに「土佐三大古墳」に数えられている。高知県指定史跡。



発掘の際は土のベルトで地区を分割し、断面と床面の土を見比べながら掘り下げていく。今回の調査では、土の違いから古い盗掘の跡も確認された。



図面を描くための基準線を設定する割り付けを行い、石室内を図面に描きとっていく。こういった作業経験を学生のうちに経験できる場所は少ない。



出土した副葬品の一部。これらの破片から築造年代などが推測できる。





## スポーツを通じて社会を変える

教育学部「スポーツ(自然科学)演習～サッカー～」からのレポート

■教育学部 生涯教育課程 スポーツ科学コース 野地 照樹教授  
主な研究テーマ…スポーツ指導論、コーチング論など

■教育学部 生涯教育課程 スポーツ科学コース 4年 上野 正太 島根県立益田高校出身



### 少年サッカー教室

毎週月曜と水曜の夕方、大学のグラウンドで行われるボランティアのサッカー教室。地域から100名近い小学生が集まってくる。指導スタッフは教育学部生を中心に15人ほど。JFC※のカリキュラムと高知大独自の楽しい工夫を凝らした練習が行われている。

※日本サッカー協会

導を与えることが必要なのです。そのためにもしっかりとした観察力が求められます。

**上野** 先生のふだんの指導は、まさにその実践という感じです。厳しい時は厳しいけれど、プレーでも、ああしろこうしろというような命令は全くありません。そのかわり「考える」とよく言われます。

**野地** 選手自身、あるいは子どもたち自身の人間性やプライオリティ(優先順位)を尊重した指導が大切なのです。これはスポーツ文化に限らず、日本の教育、ひいては日本の社会そのものに必要な視点です。スポーツ界だけでなく日本の教育、社会を変えられるような一流の選手、指導者を育成できるフィールドを、これからも提供していきたいと思いますね。

**野地** 大学における多くの学問がそうであるように、スポーツもまた、これが正解という答えはありません。高知大学が特徴的だといわれるのは、高度な競技力と指導力をあわせ持つ人材を育成するために行っている独自の取り組み——学生に対し、まずコーチング論などの授業を通して指導する、次に選手としてグラウンドで指導し、さらに今度は学生自身が教える側にまわって日々地域の子どもたちを指導する、という試みです。正解がない世界だからこそ、学生自身が「自立的に」「考える」ことのできる場を多くつくるようにしています。

**上野** 僕も授業や選手として自分を鍛える部活動と平行して、1年から3年までの3年間、毎週1回地元

の小学生を対象にしたサッカー教室でボランティア指導を続けてきました。自分の知識やプレーをもう一度理解しておいて子どもたちに教えるのは、実はすごく難しい。でも子どもたちを見ていて逆に自分の課題が見えてきたり、あらためて気づいたこともたくさんありました。

**野地** 競技力を向上させることでよい指導者になれる。そして同時に指導を経験することで競技力はレベルアップします。指導の原点は観察力。子どもを観察することが、自分のプレーの状況判断につながったりもします。また、これまでの日本のスポーツ指導ではうまくできない子を叱ることが多かったのですが、それは違います。うまくきた時に誉めてあげることが大切で、できない時はヒントになるような指

少年サッカー教室では、教育学部のカリキュラムを受講して「日本サッカー協会公認C級コーチ」を取得した学生たちが中心となって指導を行う。「すごい!」と思う技術を目の前で見てあげられるのは、現役選手である大学生だからこそ。子どもたちはそれを模倣し、上達していく(写真1、2)。また、県内の幼稚園や小学校にも出向き、子どもたちにサッカーの楽しさを教えている(写真3)。



# Field.3

## 唐の浜層群

安芸市の海岸段丘に見られる鮮新世の地層。黒潮やテクトニクスを探る上で貴重な浅海域の情報をもたらす。高知にはこの他にも過去の黒潮圏を記録した貴重な堆積物が広く分布・露出している。



# 世界随一のフィールドで、地球の未来を考える

理学部「古環境学～黒潮圏の過去を探る～」からのレポート



■理学部 理学科 地球科学コース 岩井 雅夫准教授 (写真右)

主な研究テーマ…新生代の珪藻化石層序と古海洋・南極氷床発達史、変動帯海洋生態系の成立とその進化など

■総合人間自然科学研究科 理学専攻 1年 北 重太 愛知県立名古屋西高校出身、理学部理学科から進学

**岩井** 地質学的視点で高知を見ると、実は世界有数のすばらしいフィールドです。高知は「日本の地質学発祥の地」といわれており、野外観察の場に恵まれています。また海洋コア研究※1の分野では、高知大学はアメリカ・A&M大学、ドイツ・ブレーメン大学と並ぶ世界3大拠点のひとつ。研究機材はもちろん国内外から一流の研究者が集まってくるという恵まれた環境の中で、学生は好きな研究に没頭することができます。

**北** 私も高知コアセンター※2で、地球の古環境について研究を行っています。近年温暖化問題がクローズアップされていますが、将来の気候変動を考えるには過去の環境変化の事例を多く見て、地球の特性を知ることが大切です。これまで地球は寒冷な時期(氷期)と温暖な時期(間氷期)とを一定のサイクルで繰り返してきました。その変動の過程で何が起こっていたのか確かめるため、環境変化に敏感だといわれる黒潮圏の過去を堆積物から解読しています。

**岩井** 私と北くんは同じテーマに対して違う方向からアプローチをしています。私は化石分析から、彼は化学分析から。私のフィールドは県東南部の「唐の浜層群」という地層。唐の浜層群は今から約200

万年から300万年前、地球がそれまでの温暖な時期から急激に寒冷化していった時代に当時の大陸棚に堆積したものが地殻変動で隆起し、陸上に露出したものです。ここから掘削したコアを様々な角度から分析し、気候変動の年代を従来よりもずっと高精度で特定したり、当時の黒潮の様相やその変化に対する生物の対応などを調べたりしています。

**北** 私は非常に小さな微小化石を拾い出してその化学成分を調べたり、目に見えない有機物の性質を調べたり…。気候変動に影響される黒潮の流路の変化についても追うことができたと思っています。

**岩井** ローカルな試料を緻密に分析してグローバルに考える。それが大切です。当面の課題は日本の気候や環境変動のメカニズムの解明ですが、その

先には未来社会への貢献があります。過去のできごとをいろいろと調べることは、未来社会のリスクを考えその対応策のヒントを探ることにつながると考えています。恵まれた環境を活かして、高知から世界にどんな情報発信していきたいと思っています。

※1

コアとは堆積物や岩石を円柱形に掘り抜いたもの。地球の過去の様々な情報が記録されている。特に海底を掘削したものを海底コアと呼ぶ。

※2

JAMSTEC (独)海洋研究開発機構)と共同運営の研究施設で、コア保管冷蔵庫や最新の研究機器を備える。日本、米国、欧州諸国が進めているIODP (統合国際深海掘削計画)の中核拠点でもある。

■地球科学コースのHP

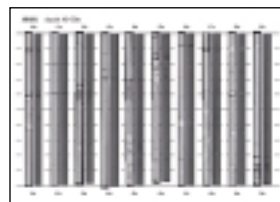
<http://sc1.cc.kochi-u.ac.jp/~geosci/>



氷期-間氷期変動を記録した唐の浜層群穴内層の露頭。



サンプリング風景。(高知コアセンター)



穴内層掘削コアのCT画像。



## 患者と医師が心を通わせ合う医療を

医学部「家庭医療学～家庭医道場～」からのレポート



### 家庭医道場

中山間に位置する栲原町、馬路村、離島の沖の島でこれまで4回開催。地域を知るためのフィールドワークや意見交換会、健康教室の開催、専門スタッフとの医療実習などを行う。医学科、看護学科の学生をはじめ、他大学からの参加希望も多い。



学生がフィールドワークで撮影した写真。上は地元の高中生(中央の2人)の廃品回収を手伝う様子。下は山あいで暮らしの様子。(家庭医道場2008 in 栲原)



様々な機会を通じて地域を知る。上はそば作り体験。下は津野山神楽。(家庭医道場2008 in 栲原)



地域の方に鍼灸マッサージをプレゼント。(家庭医道場2008 in 沖の島)



■医学部 医学科 家庭医療学講座 阿波谷 敏英教授  
主な研究テーマ…地域における医学教育、プライマリ・ケアの医療経済的な意義など

■医学部 医学科 2年 森田 志穂 高知県 私立土佐高校出身

**阿波谷** 家庭医とは、患者さんのことを家族や生活も含めてよく知った上で、その人の抱える健康問題に幅広く対応し、長期的に支えていける医師のことを意味します。わかりやすい言葉でいうと、かかりつけ医。患者さんのいちばん身近にいる医師です。

**森田** 私は小児科医になりたいと思って高知大学に入学しましたが、家庭医という存在に興味を持ち、1年生の春休みに初めて家庭医道場に参加しました。

**阿波谷** 家庭医道場は、いわゆるへき地と呼ばれる過疎・高齢化地域に出向き、そこで暮らす人々と交流することで医療の受け手側の状況を知ってもらうこと、家庭医の実際を感じてもらうことを目的としています。私自身が医師として長く勤めた栲原町などをフィールドに開催してきました。

**森田** 高知の人たちは本当にオープンなんです。フィールドワークで集落を回って気になったものを写真に撮ったり、出会った方にお話を聞いたりした時も、みなさん初対面なのにすぐ受け入れてくれて、お土産まで持たせてくれました。行く前は、地形が険しいとか買い物不便とかへき地に対してマイナスイメージが強かったのですが、人と人のつながりや自然への感謝などたくさんの方のプラスの面に気づくことができました。こういう温かいつながりの中で医師として働くのも「あり」だなあと感じました。あと、道場の夜に聞いた先生の体験談がとても心に残っています。患者さ

んと花火のお話なのですが…。

**阿波谷** — 栲原でのことですね。ガンが再発して余命数ヶ月となった男性の患者さんがいらっしゃいました。どう話そうかいろいろ考えて、栲原では毎年8月15日に祭りで花火が上がるのですが、その花火まで頑張ろう、私も応援するからねとお話しました。そして、病院に1室だけあった花火が見られる部屋に部屋替えをして、亡くなる少し前にご家族みんなで花火をご覧になりました。毎年その時期が来ると、奥さんと『あの時、お父さんすごくいい顔してたよね』『奥さんもがんばってたよね』と話をします。そういうのが家庭医の役割かなと僕自身は考えています。

**森田** 医師と患者さんが心を通わせ合い、体験を共有できる医療…。すばらしいなと思いました。私もそういう医師になりたいと思いました。

**阿波谷** 家庭医というのは、野球でいうと1番バッターです。大きなホームランは打てないけれど、とにかく塁に出て次につなぐ。対して、難易度の高い手術を次々と成功させるというような専門医は4番バッター。そういうような人たちがバランスよく配置されたチームの方が、きっといいはずなんです。家庭医は患者さんに寄り添いながら日々の相談にのり、必要があれば速やかに専門医に引き継いでいく。今の日本が抱える医療の問題も、こういった役割分担で解決につながるのではないかと考えています。



## 学生ので、地域を元気に

農学部「企業と学生のコラボ企画～四国MOTゼミ～」からのレポート

### 四国MOTゼミ

サークルKサンクスが展開中の地域の余剰作物や流通規格外作物などを食材としたお弁当・惣菜作り企画「MOTプロジェクト」と、高知大学農学部・人文学部との協働企画。学生力を活かして企画開発されたお弁当が2009年2月から3月にかけて大々的に店頭販売された。



**受田** 「四国MOTゼミ」とは、学生たちが業界の第一線で活躍する企業の方々と協働して高知の食材を使ったお弁当を開発し、それを実際に四国全域で発売しようという、サークルKサンクスさんと高知大学とのコラボレーション企画です。ゼミの中ではマーケティングや食品化学などの授業、食品加工や流通の現場見学、地域経済を体感するフィールドワークなど様々な学びを取り入れ、本学の農学部、人文学部の学生が3チームに分かれて約4ヶ月の間、コンセプト立案から食材探し、レシピ作り、試作までトータルに取り組みました。

**金子** 私たちのチームは当初、今までにないおもしろいものを作ろうと、高知らしさたっぷりのおつまみとお酒のセットを考案しました。でも、店頭でものを販売するには法律があり、お弁当の売り場にお酒を置くことはできないことを企業の方に指摘され、断念。

他にもお茶漬げや、見た目重視のお菓子のようなお弁当などを企画しましたが、どれも問題があって進めることはできませんでした。試行錯誤を繰り返して、今回提案した豚キムチ、鰹の竜田揚げ、香り米を中心としたお弁当を完成させました。

**久保田** 僕たちのチームは30代から40代のサラリーマンをターゲットに「男のブリ大根丼」を作りたいと考えました。自分たちで何とか高知県内でブリを調達できる先を探し出したものの、結局価格が合わずブリを鰹に変更することに…。しかし鰹に含まれるアンセリンという機能成分が疲労を抑える働きがあることから、ターゲット層に対して健康効果をアピールできること、また、バイヤーの方々からいただいた味や容器、価格などについての厳しい意見を取り入れて改良を重ねたことで、最終的にはコンセプト通りのおいしいお弁当に仕上がったと満足しています。

■農学部 農学科 食料科学コース 受田 浩之教授  
主な研究テーマ…食品の成分間相互作用に関する研究、食品の生体調節機能に関する研究など

■農学部 農学科 食料科学コース  
3年 久保田 裕樹 奈良県立北大和高校出身  
3年 金子 寧夏 愛媛県立今治西高校出身

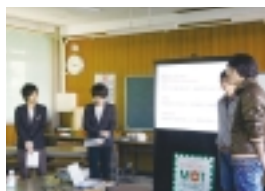
**受田** 学生たちは自分の専門性を活かし、農学部  
の学生は食材の中の成分や健康という面に、人文学部の学生は地域性や食材の魅力に重きを置いてお弁当をプロデュースしてきました。それぞれの工程で何度もトライアンドエラーを繰り返し、見えないところにもかなりの時間を費やしたはずですが。

**金子** 私たちは、チーム内で考えがまとまらなかった時、実際に買う人の意見を聞いてみようという街頭アンケートを行いました。取っかかりは良かったけれど、消費者の声を聞いたことで自分たちの自信にもつながりました。

**受田** こういったチャレンジを設定することで、学生は驚くほど大きく成長します。今後でもできるだけ多くの学びの機会を提供していきたいと考えています。



試作品に対してバイヤーの面々から容赦ない指摘が入る。



プレゼンテーションも真剣勝負。



最終評価の様子。コンセプト、ネーミング、見た目、味など様々な角度から審査が行われた。



最終評価で1位を獲得したお弁当から、順次店頭発売された。

# Field.6～15

他にも様々なフィールドで、個性的な取り組みや活動が展開されています。

## 6 小学校英語活動を研究・支援する学生の会

担当教員：人文学部 国際社会コミュニケーション学科 村端 五郎教授



小学校への英語教育全面導入を2年後に控え、その準備が急がれています。この研究会は、「今、自分たちにできることはないか?」と自ら考えた学生たちが発足させたもの。毎週1回のゼミでの勉強会の傍ら、県内6つの小学校に直接出向き授業参観や研究活動を行って、現場の抱える課題を肌で感じ、今後の小学校英語の方向性を探求しています。

人文学部

## 7 地域協働プロジェクト～キャンドルフェスタ～

担当教員：人文学部 社会経済学科 中澤 純治准教授、石筒 寛准教授



地域資源を発掘する目的で行われた演習のワークショップ。それをきっかけに生まれた交流がその後も大切に育まれ、学生と地域住民とが協働して様々な地域おこしイベントを開催するまでに発展しました。美しいろうそくの火が棚田に揺らめくキャンドルフェスタをはじめ、18年ぶりに地域の七夕祭りを復活させるなど、地域おこしのモデル例として注目を浴びています。

人文学部

## 8 環境教育～名野川小学校そばづくりプロジェクト～

担当教員：教育学部 学校教員養成課程 藤田 詠司教授、小島 郷子教授、内田 純一教授、岡谷 英明准教授



教育学部1年生が2グループに分かれ、それぞれ中山間地域などの小規模校で学校行事や放課後行事の支援に取り組みながら、児童や現場の教員、地域の人たちと交流します。名野川小学校では「そばづくり」を中心に、畑作りから種まき、収穫、そば打ちを体験するもみじ祭りや運動会など年6回ほどの行事に参加。学生も児童とともに大きく成長します。

教育学部

## 9 環境教育～田野小学校もちづくりプロジェクト～

担当教員：教育学部 学校教員養成課程 小島 郷子教授、藤田 詠司教授、内田 純一教授、岡谷 英明准教授

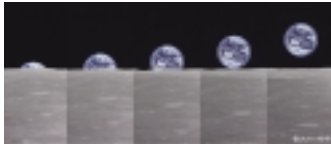


学校行事支援プロジェクト対象校のもう一校がこの田野小学校。ここでは「もちづくり」を中心に、田植えから刈り取り、もちつき大会への参加の他、運動会などに出向いて、行事支援や交流活動を行います。これらの活動は省察のために学生たちがビデオやレポートにまとめており、教育学部のHPからその中身を見ることができると、ぜひチェックしてみてください!

教育学部

## 10 「月から見た地球」撮像支援

担当教員：理学部 応用理学科 情報科学コース 本田 理恵准教授



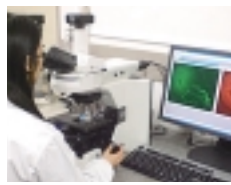
© JAXA/NHK

2008年、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の月周回衛星「かぐや」のNHKのハイビジョンカメラ(HDTV)が世界初の「満地球」の撮影に成功しました。満地球とは地球から見た満月のように、月周回軌道上の「かぐや」から見た欠けのない地球の姿で、その出・入りを撮影できるのは半年に1日、1回あたり40秒間というわずかな時間のみです。これを高い時間高精度で撮影できるように計画立案したのが理学部で開発したソフトウェアシステムです。今後もデータ解析などで協力していく予定です。

理学部

## 11 ホヤの幹細胞研究プロジェクト

担当教員：理学部 応用理学科 海洋生命・分子工学コース 細胞分子工学研究室 砂長 毅助教



雄大な太平洋を間近に望む恵まれた地の利を活かし、海の生物が魅せる多様な生命現象にスポットライトを当てた研究に取り組んでいます。そのひとつが「ホヤの幹細胞研究」。卵と精子を生み出す幹細胞や体の再生に使われる幹細胞、ホヤはとてもユニークな細胞をもつ動物です。遺伝子やタンパク質の機能を調べ、細胞が分化する仕組みを分子レベルで解明がします。

理学部

## 12 広汎性発達障害児を対象とするイルカ介在療法

活動主体：高知大学 Mental Health Care Club(MHCC)



心に関して学ぶサークル「MHCC」では、日々カウンセリングや精神医学について学びながら、習得した知識を様々な課外活動において実践しています。そのひとつが、NPO法人 室戸ドルフィンプロジェクトと協力して行っているイルカセラピー。将来、患者さんやご家族の気持ちに配慮できる医療者になることを目指し、活動を続けています。

医学部

## 13 保育所実習を通して学ぶ子どもの能力と可能性

担当教員：教育研究部 医療学系 医学部 臨床看護学講座 小児看護学 尾原 喜美子教授、川島 美保講師



看護学科3年生での小児看護学実習の一環として、3日間の保育所実習を行っています。1歳～5歳までの子どもたちと過ごす中で、教科書で学んだ乳幼児期の身体的・精神的・社会的発達を目で、耳で、頭で、そして心で感じられるようになります。その喜びは、一人ひとりの子どもの個性すなわち能力と可能性を見つけ、関わることの大切さを教えてくれます。

医学部

## 14 FSC認証の森における学生活動

活動主体：農学部 農学科 森林科学コースの学生



適正な森林管理が行われていることの証、「FSC認証」を持つ精原の森とその材木を広くアピールしようと始まった学生活動。今年で3年目をむかえ、1年目は「ツリーハウス」を、2年目は木くずと土で作ったレンガ造りの家「ブリックハット」を地元の人たちと深く関わり合いながら現地の森に建築しました。多くの人にこの豊かな森を訪れてほしいというのが願いです。

農学部

## 15 物部川、奈半利川流域での学生ボランティア活動

担当教員：農学部 農学科 流域環境工学コース 藤原 拓教授



現場主義をモットーとする農学部では、日頃から地域に入り込んで様々な授業や研究活動を行っています。そのつながりから、水路の清掃や河川流域で行われるイベントへの協力など、ボランティア活動も盛ん。特に、毎年秋に行われる「舟入川ウォーキング」では、地元の小学生と一緒にいかだで用水路を下ったり、生物調査のパネル展示を行ったりして、地域とともに流域環境の保全に取り組んでいます。

農学部

# 学士課程



高知大学は未来を展望した知の創造と学術の継承・発展の場となるべく、以下のキャッチフレーズのもと、独自の先進的な教育システムを展開しています。

高知大学のキャッチフレーズ

**「5つの能力で社会の力に!  
4つのCで高知から世界へ!!」**

**Chance** …………… 好機

人間関係を作る力など社会性の不足や権利と責任のバランスの喪失、規範意識の希薄化、あるいは他人への思いやりの不足が叫ばれている中、自らの能力向上にむけ、たゆまぬ努力を惜しまない人材を育成します。

**Challenge** …………… 挑戦

人間性、社会性に富み、活力のある人材の育成を目指します。

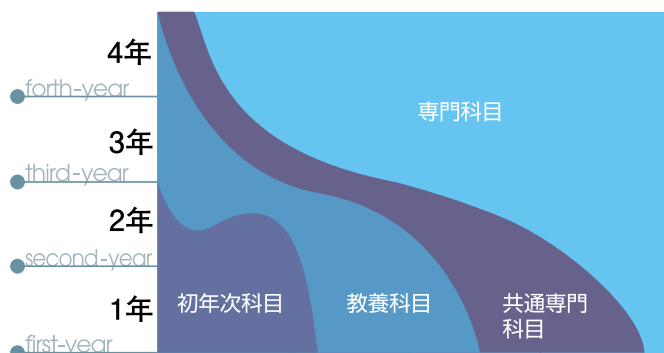
**Change** …………… 変革

教養教育、専門教育や正課外教育あるいはインターンシップを通じて5つの能力(表現力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、異文化理解能力、情報活用能力)を身につかせます。

**Create** …………… 創造

21世紀の知識創造社会で活躍できる人材を輩出します。

本学では、在学する4年間(医学部医学科は6年間)を一貫した学士課程としてとらえ、特に充実した初年次科目を設定し、幅広い教養と深い専門性を身につけ、総合的な判断と柔軟な発想に基づく課題解決能力を修得できる新たな教育課程を編成しています。教育課程は全学共通の4つの教育科目に区分し、学部・学科・課程ごとの系統的なカリキュラムで構成されます。初年次科目、教養科目、共通専門科目を共通教育、専門科目を専門教育として区分します。なお、授業科目の履修年次は概ね右表の通りです。



共通教育

**初年次科目**

「学びの転換」「基礎的スキルの修得」「学問への動機づけ」「キャリア形成支援」を柱に、入学後すぐに学びの転換をはかり、自分で考え行動できる力、他者とコミュニケーションできる力、表現できる力を修得します。また、早い段階からキャリア形成への動機づけをはかることで、4年間(医学部医学科は6年間)の学士課程における自律的な学修を支えます。

**教養科目**

生活や人生を豊かにする幅広い教養と、それを身につけるための学習力を修得します。学生が自らの興味や関心に基づき、現実世界を理解し自己の世界観や生き方を学ぶために、多様な学術分野に触れるとともに現代的な課題に目を開く機会となることを目指します。

**共通専門科目**

基礎科目及びキャリア形成支援を目的とした科目を学びます。基礎科目は、各学部の専門的学習に向かうために必要とされる基礎的な授業科目です。キャリア形成支援科目は、就業に必要な諸能力の修得支援や資格取得支援、専門教育と連携した支援に関する授業科目です。

**専門科目**

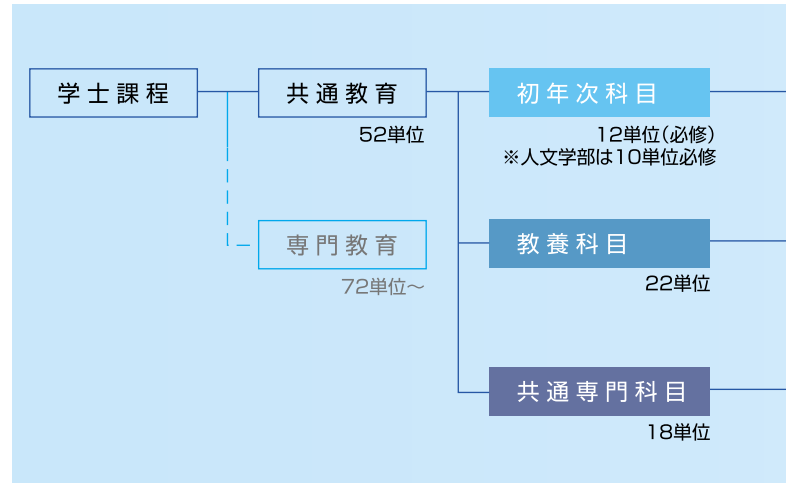
各学部における教育の目的に対応し、高度な専門性を持った授業内容を展開します。専門科目は各学部が責任を持って開講する授業科目ですが、他学部学生の受講もできます。



本学は、平成19年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した大学機関別認証評価において、大学評価基準を満たしていると認定されました。

# 共通教育

共通教育は「人間と世界についてしっかりとした考え方をくり上げ人格の完成をはかること」を目的とし、初年次科目、教養科目、共通専門科目の3科目群から構成されています。授業は講義形式から体験型まで多様なテーマが用意されており、学生は実践の中で自分自身の幅を広げながら教育コース決定へのプロセスを踏むことができます。



## 初年次科目

初年次科目として、次の6つの授業を開設します。

「大学基礎論」と「課題探求実践セミナー」は、少人数演習を中心とする多様な授業形態を取り入れ、学びの転換と能動的・主体的学びの展開をはかることを主体に、キャリア形成や様々な素養の修得を目指します。

「大学英語入門」「英会話」「情報処理」は、習熟度別クラス編成などにより基礎的スキルの修得とそのレベルの向上を目指します。

「学問基礎論」は、専門教育への導入教育として学問への興味関心を高め、学問への動機づけをはかるとともにコミュニケーション能力や表現力、さらに日本語技法の修得を目指します。

### ■ 大学基礎論

学習支援に加えマインド支援を重視した以下のような授業を展開します。

- (1) 大学で学ぶことの意義や目的の理解を通じて、「教わる」から「学びとる」への学びの姿勢の転換をはかります。初年次の早い段階で、学びのモチベーションの向上を促します。
- (2) 卒業時または卒業後の自分の将来像についての意識づけをはかり、キャリアデザイン、ライフデザインの重要性を学んでいきます。卒業時に自分がどうなっていたいか、どのような能力をつけているべきかを考えます。
- (3) 社会における大学や学問の位置づけ、高知における高知大学の存在意義についての理解を深めます。大学での学問や知識と社会との関連性に気づくことで、高知大学へのアイデンティティを育てていきます。
- (4) グループ・ワーク(演習)を通じて、相手の話をよく聞き理解し、自分の考えをわかり易く伝えるという基本的双方向コミュニケーション能力の向上をはかります。同時に、議論の基本的な進行方法と合意形成手法を修得します。

### ■ 課題探求実践セミナー

「大学基礎論」での学びの転換を受けて、それと連動して開講される課題探求型の授業科目です。この授業では、学生の能動的・主体的な学習を促進・展開し、少人数グループでの学習を取り入れて、課題探求能力や社会性、コミュニケーション能力を育成することを目的としています。また、互いの意見の相違や異なるものの見方を理解することを通じて現在の自分を知り、自己の課題を見いだすことも重視します。到達目標としては、各分野における諸課題を理解すること、また少人数グループにおけるコミュニケーションの意義や方法を理解できるようになることが設定されています。



### ■ 大学英語入門 及び 英会話

入学までに修得した社会文化的知識や基礎的な英語運用能力、異文化に対する知識などを土台に、広い知見、豊かな人間性、自らの社会的・実践的課題を把握できる知力を養いながら、以下の能力を身につけることを目指します。

- (1) 専門教育での学究や国際交流、社会生活で使える4技能(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)のバランスが取れた大学生にふさわしい実践的英語力。
- (2) 授業内外において自発的、計画的、持続的に英語学習に取り組むことのできる自律的英語学習能力。
- (3) 英語の学習を通じて自他の生活や文化についての理解をいっそう深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重することのできる国際共生力。



### ■ 情報処理

パソコン必携のもと、「コンピュータの扱い方」「電子メールとインターネット利用法」「情報化社会の倫理」など、現代の情報化社会における基礎的知識・スキルの修得を目指します。



### ■ 学問基礎論

各学部がその専門性に対応して必要な科目数を開講します。初年次科目の教育目標を達成するため、以下の実施要領に基づいています。

- (1) 専門教育に向けての導入教育となります。
- (2) 専門教育(学問)に対する学びの展望を持たせ、モチベーションを引き出します。
- (3) 学部・学科へのアイデンティティを確認します。
- (4) 演習でのグループワークを通じて学生のコミュニケーション能力や論理的思考力を培います。
- (5) 演習での振り返り(要約)やプレゼンテーションを通じて日本語技法を修得します。



授業題目等

大学基礎論	大学英語入門	情報処理
課題探求実践セミナー	英会話	学問基礎論
人文分野	生命・医療分野	外国語分野
社会分野	自然分野	3分野以上必修
基礎科目(含む補習科目)	キャリア形成支援科目	選択必修

※履修規則は、各学部ごとに定められています。

教養科目

授業題目は、4分野(人文、社会、生命・医療、自然)と外国語分野(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語)に区分して開設します。履修については、特定の分野に偏ることのないよう外国語分野を含めた5分野の中から3分野以上を選択履修とします。

■ 外国語分野

英語と初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語)に分けて、それぞれ教育目標を設定しています。

(1) 英語

共通教育における英語教育のねらいにそって、初年次科目の英語で身につけた知識や能力をさらに伸長することを前提に、主に英語を専攻としない学生を対象として開講します。

(2) 初修外国語

国際化のための外国語能力の修得と、外国語学習を通じての異文化理解の促進にねらいを置いています。初修外国語Iでは、基礎的な音声と文法知識の修得を目指し、初修外国語IIでは、初修外国語Iで学んだ知識をさらに確かなものにします。

■ 共通専門科目

基礎科目とキャリア形成支援科目に区分して開設します。

■ 基礎科目

各学部の専門的学習に向かうために必要とされる基礎的な授業科目を開講します。他学部からの履修も上限を設けて認めており、転学部・学科の際の負担を軽減できます。なお、補習教育のための授業は基礎科目の中を含めます。

■ キャリア形成支援科目

以下の目標を達成するため、全学開講または学部開講などによる授業群を開講します。

- (1) 就業に必要な諸能力(社会人基礎力、進路決定力、就職活動力など)の修得支援
- (2) 資格取得(教職など)支援
- (3) 専門教育と連携したキャリア形成支援

初年次科目

学びの転換・キャリア形成

大学基礎論

課題探求実践セミナー

- 自律協働入門
- 地域協働入門
- 自由探求学習
- 学びを創る
- 国際協力入門
- 各学部開講セミナー

基礎的スキル

大学英語入門

英会話

情報処理

学問への動機づけ

学問基礎論

# 学生支援の多様な取り組み

大学教育は学生の自主性があるはじめて成り立ちます。学生一人ひとりが自主・自立的に充実した学習ができるよう、高知大学では様々な教育システムを導入しています。

また学生の興味にそった多様な授業を用意するため2学期制を実施するなど、積極的にそのシステムの改革をはかっています。

## 学生アンケート・授業評価

毎年、授業や教育環境についての学生アンケートを行い、結果を公表するとともに、問題点の改善に努めています。

## アドバイザー教員制度とオフィス・アワー

一人ひとりの学生に対してきめ細やかな指導ができるよう、アドバイザー教員制度をとっています。1年次から卒業まで学生全員にアドバイザー教員がつかます。アドバイザー教員は、入学から卒業までの学習計画、履修指導、生活や就職まで、多岐にわたる相談役を務めます。また、これらの相談のためにオフィスアワー制度があります。学生はオフィスアワーの時間にあらゆる相談や質問ができます。

## 2学期制とシラバス

学生は1年間同じ授業に縛られることなく、年に2回受講登録ができ、より自由な履修計画を立てることができます。シラバス(授業ガイド)で授業内容をあらかじめ知り、授業計画の目安にすることができます。また、週に複数回授業を行う集中授業方式を外国語教育で採用し、教育効果の向上をはかっています。

## 高知女子大学・高知工科大学・放送大学・高知高専との単位互換

各々の大学等の授業を受講し、単位を修得した場合、高知大学で修得した授業科目として、認定を受けることができます。

## 補習教育

高等学校の教育内容の多様化や専門高校からの入学者のために、英語(大学英語入門S)・自然分野(例えば物理学の基礎)など補習教育を実施しています。



## 情報教育環境の利用

学生は、必携のノートパソコンで、自由に利用できる情報コンセント室(41室等、2054口)から、インターネットへの接続や電子メールの送受信ができます。なお、岡豊地区は無線LAN環境も整っています。

## 早期卒業

優秀な成績で卒業に必要な授業科目の単位を修得した学生に対しては、その優れた才能の一層の伸長をはかるため、希望により3年で卒業できる「早期卒業」の制度を導入しています。

## 学生の海外派遣

国際交流の一環として、カリフォルニア州立大学(アメリカ)、クイーンズランド大学(オーストラリア)、中国やタイなどの大学に学生を派遣しています。

留学先の大学で修得した授業の単位は、高知大学で修得した授業科目として認定しています。

## ティーチング・アシスタント

共通教育の実験科目や演習科目では、授業時間中、大学院生によるティーチング・アシスタントをおき、学生の理解をサポートしています。



## 現代的教育のニーズに対応した教育プログラム **高知大学発、日本初! 自律協働入門授業とCBI授業**

この2つの授業は、高知大学が開発し学外の組織や個人と協働して実施する日本で初の授業です。これまでのいわゆる“知識”だけではなく、“生き方や学ぶ意義”を学べるのがこれらの授業の特長です。

自律協働入門授業は、1年生1学期にしか受講できません。これは入学生の皆さんに、より早い段階で輝く社会人と出会い、その後の大学生活をできるだけ充実したものに

してほしいという思いから。そしてCBI授業では、日本初の長期の社会協働型インターンシップを授業に組み入れることで、自律協働入門授業で培った“生き方や学ぶ意義”をさらに実践的に高めていくことができます。また、この2つの授業後も、高知大学独自の様々な教育プログラムによって、社会で活躍できる自分になるための手助けがしっかり行われています。

### 生き方や学ぶ意義を学ぶ! 自律協働入門授業

#### Point 1 輝く社会人と出会い、生き方に感動!

授業の講師は、首都圏や県内から招聘した熱い思いを持つ社会人18名の方々。“インタビュー”という方法を通じて、輝く社会人の前向きな心を知ろう!

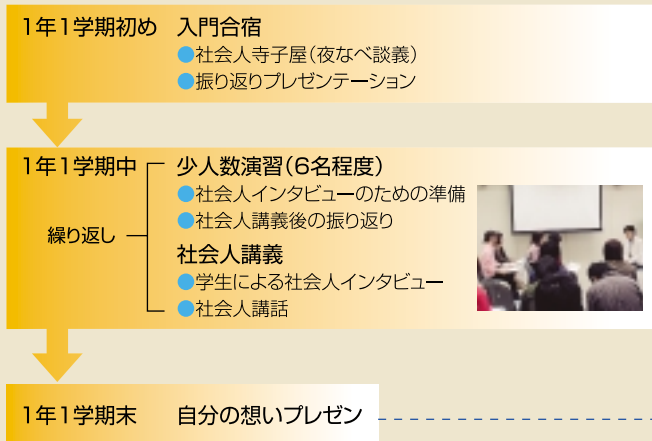
#### Point 2 自分を直視し、成長を喜ぶ

自分自身と深く向き合うことの繰り返しによって、人間的成長は促されます。授業では、自分の活動を振り返る時間をつくり、成長へとつなげていきます。

#### Point 3 チームで学び、想いを分かち合う

受講生6名程度と担当教員とでチーム(演習)を組み、半年間(1学期間)活動を共にします。少人数制だからこそチームワークが身につく、教員の丁寧なバックアップを受けることもできるのです。また、学生ファシリテーター(議論の促進役)として上級生もサポートします。

#### ■ 自律協働入門授業の流れ



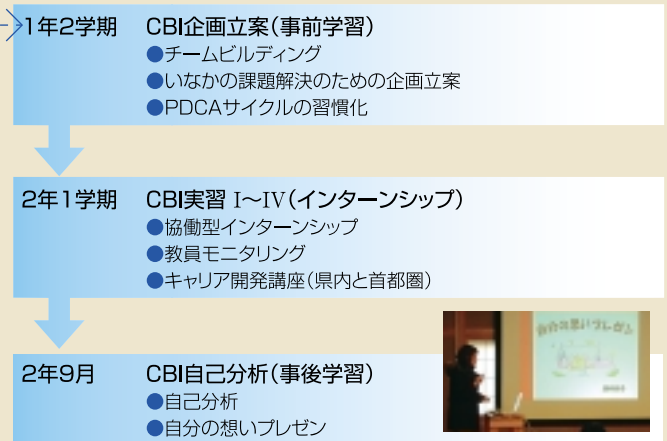
### 長期インターンシップに挑む! CBI授業

**CBI = Collaboration based Internship**

CBI授業とは、首都圏や大阪などのベンチャー企業及び高知県嶺北地域などで最長4ヶ月間の長期間、協働型のインターンシップを組み入れた授業で、最大14単位が修得可能です。授業はCBI企画立案(事前学習)とCBI実習(インターンシップ)、CBI自己分析(事後学習)の大きく3つから構成されています。

CBIの授業は1年生2学期から2年生1学期にかけて行い、21世紀社会で活躍する人に必要とされる“謙虚さ”や“社会性”について学べるのが特長です。なお、CBI企画立案の受講後は、CBI実習を“原則”履修することとめています。それは、この授業が“自分なりのこれから進むべき道を見つけること”に主目的を置いているためであり、多様な学生に対応できる柔軟性を持ったシステムとなっています。

#### ■ CBI授業の流れ



## 平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」採択

キモチをカタチに、キモチをチカラに変えるプログラム。

高知大学では、社会が求める「自律型人材(自ら主体的に考え行動する人)」の養成を目指し、新しいカタチの学生支援をはじめます。このプログラムは、正課の授業ではなく、正課外の活動支援プログラムです。高知大学に入学後、様々な授業や課外活動を経験して何かしたいというキモチが皆さんの中に芽生えた時に、そのキモチをカタチにできる場をつくりました。具体的には、グループで社会的課題に取り組む「コラボ考房」や、個人の能力・資質の向上を目指す「ファシリテーション力養成道場」と「企画立案力養成道場」があります。コラボ考房や二つの道場で様々なチカラを身につけることによって、その後の大学生活における正課の授業や正課外の活動に、より意欲的に取り組み充実した学生生活を送ることができるでしょう。

**■ コラボ考房** 学生・教員・社会人などがコラボレーション(協働)して、アイデアを生み出し実践する場=考房です。

**Point** 人を幸せにしたいという思いを持って活躍している社会人が、皆さんのプロジェクトを師匠としてサポートしてくれます!!



## コラボ考房と2つの道場が育む自律型人材

#### Step1 プロジェクトの立ち上げ

何かしたいというキモチが芽生えたら、仲間を集めてプロジェクトを立ち上げよう。支援してほしいという先生を見つけたら、支援教員になってもらおう。

#### Step2 コラボ考房プロジェクトに応募

テーマは社会的課題。コラボ考房プロジェクトに応募しよう。

#### Step3 採択! 条件は、新しいチームであること、新しいプロジェクトであること。

#### Step4 プロジェクトの実践!!

- 社会人師匠の選択

大学が持つ社会人師匠ネットワークから、希望の社会人を師匠として紹介してもらおう。

# 人文学部 Faculty of Humanities and Economics

## 世界最大の謎である「人間」に挑戦する

### 求める学生像 Admission Policy

人文学部は人文科学と社会科学の総合学部です。「人間」という存在を総合的に把握できる、「国際化」と「情報化」の時代に対応できる、「地域社会」の問題を理解し地域に貢献できる、そんな人材を育てたいと考えています。人間と人間がつくる文化や社会について旺盛な好奇心を持ち、課題に果敢に挑むスピリットにあふれた学生を求めます。

#### 人間文化学科

哲学・心理学・言語学・史学・地理学・文学・語学などの人文諸科学に関心があり、人間それ自体や人間をめぐる歴史的・文化的環境、さらには多様化する現代の文化現象に興味を持ち、批判的な精神と創造的な力を涵養したいと考える学生を求めます。

#### 国際社会コミュニケーション学科

グローバル社会に関心を持ち、広い視野と柔軟性を身につけたいと考える人、異文化理解のために必要なコミュニケーション能力を身につけたいと考える人、地域社会の多様な問題をグローバルな視点から理解したいと考える人、世界の様々な地域の人々と積極的に連携したいと考える人、そんな学生を求めます。

#### 社会経済学科

経済学・法学・経営学・会計学・政治学・社会学などの社会諸科学に関心がある学生、地域社会に関心があり、地域の総合的發展に貢献したいと考えている学生、企業とその環境に関心があり、情報収集・分析・処理能力を身につけたいと思っている学生、商業・会計・簿記・情報処理などの実務能力を専門的に身につけたいと思っている学生を求めます。



#### 学科名

##### ■人間文化学科

- 人間基礎論コース
- 地域変動論コース
- 言語表象論コース

##### ■国際社会コミュニケーション学科

##### ■社会経済学科

- 総合地域政策コース
- 経済企業情報コース

#### 取得できる資格

##### ■人間文化学科

- 中学校教諭一種免許状(国語・社会・英語)
- 高等学校教諭一種免許状(国語・地理歴史・公民・英語)
- 認定心理士
- 日本語教員
- 学芸員

##### ■国際社会コミュニケーション学科

- 中学校教諭一種免許状(社会・英語)
- 高等学校教諭一種免許状(公民・英語)
- 日本語教員
- 学芸員

##### ■社会経済学科

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(公民・商業)
- 学芸員

## 変革の時代に道を切り拓くアクティブな「人間の学」

情報化・国際化の進展に伴い、21世紀の日本は、あらゆる場面で大きな変革を迫られています。

混迷と激動の時代にあって求められるのは、問題に対して既成の準拠枠にとらわれることなく、柔軟かつ迅速に的確な判断を下しうる能力です。

本学科は、言語・文学・思想・行動や、環境・歴史など、人間に関わる事象万般にわたる複眼的アプローチによって、

人間についての総合的な理解を深める教育を推し進め、そのことを通じて、現代社会の中で生じてくる様々な課題に対処し、

より善い将来を自らの手で築きうる、活きた知恵と知性とを備えた「人」を育てます。

### ●人間基礎論コース

社会生活が複雑さを増すほど、人間の本質への省察もまた必要となります。哲学・倫理学・宗教学・心理学・言語学などの分野を学びながら、人間の精神活動・言語・認知・思想・行動に関する認識を深め、文化をつくると同時に文化によってつくられる人間存在をトータルにとらえる洞察力の育成をはかります。

### ●地域変動論コース

世界の各地域に生成・変動する社会・文化の特質や構造を歴史的な視点から理解するとともに、人間が生活する場としての地域が持つ固有の産業・方言・自然などの文化的環境について学習し、人間の「生」の重層的な把握を目指します。主として、日本史学・考古学・東洋史学・西洋史学・地理学・方言学などの分野を学ぶことができます。

### ●言語表象論コース

文化のエッセンスは言語表象にあらわれます。日本文学・日本語学・中国文学・イギリス文学・アメリカ文学・フランス文学など、各地域固有の言語文化を学ぶとともに、それらの比較対照によって文化現象を相対的にとらえる視点の獲得に努め、そのことを通じて、多様な文化事象を総合的に把握できる、創造的な知性と豊かな感性の育成を目指します。



## 国際社会コミュニケーション学科

Department of International Studies

## 「異文化」と「グローバル社会」にアプローチする

今、グローバル社会の波が大きく押し寄せています。

この学科は、従来の学問・教育の枠組みを超え、「言語」「社会」「情報」をベースに、多角的な観点から「グローバル社会」にアプローチし、

外国語の会得、異文化への深い理解、グローバル社会に対する批判的考察を通じて、

幅広い問題意識と視野を持った人間の育成を目指しています。

異文化を学ぶ、現代社会における様々な問題を研究する、そして外国語の力を伸ばす。国際社会コミュニケーション学科では、これら結びつけて多面的に学んでいこうとする学生が育ってほしいと思っています。そのために用意されているのが、「プログラム」と「ゼミナール」です。

まず、「何を学ぶのか」を明確に意識した複数の「プログラム」を軸に授業は構成されています。このプログラムには、<「言語やコミュニケーション」の理論や実践を学ぶ>、<「文化」を多面から総合的に学ぶ>、そして<「グローバル社会」の中での人・モノ・情報などの動きとそれに関する問題を学ぶ>という三つの核が用意されています。さらにそのもとで、「ヨーロッパ」、「南北アメリカ」、そして「アジア・オセアニア」といった地域を絞った勉強もできます。

また、この「プログラム」制を支えるのが少人数での「ゼミナール」です。2年生になると皆さんは各教員の「ゼミナール」に所属します。このゼミナールの学生数は一学年平均で5～6名程度です。卒業まで所属することになるゼミ

ナールでは、卒業論文の制作を視野に入れた上で、学生一人ひとりの必要に応じた、長期的かつ綿密な指導を行います。



## 幅広い教養を身につけた即戦力となる社会人を養成する

世界経済、日本経済、地域経済は21世紀、大きな変動に直面しています。

社会経済学科では新しいこれらの社会的諸問題に対して、

その解決策を企画・立案・実行できる専門的職業人を養成することを目指しています。

特に、成熟化・高齢化・少子化社会、高度情報化している状況を踏まえて、

日本と地域社会の問題を真正面から学習することを目指しています。

### ●総合地域政策コース

総合地域政策コースでは、地域社会に関する政策立案能力を持った学生を養成します。今日の地域経済は、国内的にも国際的にも直接相互に関連し合う主体性を持った地域に生まれ変わることが求められています。また、21世紀は地方分権の時代とも言われています。このような時代に、経済学、社会学、財政学、法学等の諸科学を総合し、地域の総合的な政策を勉強します。

### ●経済企業情報コース

経済企業情報コースでは、高度情報化社会に対応した企業活動・経済環境に関する教育研究を行います。高度情報化社会では、経済、企業活動に新しいルール、課題が生まれています。そしてこのコースではこうした新しい時代に対応した、企業経営の分析や、経済分析を行う人材を養成します。



### 人間文化学科

#### カリキュラム例

##### ■人間基礎論コース

西洋近現代哲学、倫理学、東洋思想、西洋思想史、宗教学、言語学、意味論、文法論、社会心理学、認知心理学、発達心理学、感情心理学

##### ■地域変動論コース

日本中世史、日本近世史、日本近代史、考古学、中国古代史、中国近世史、西洋近現代史、人文地理学、自然地理学、方言学

##### ■言語表象論コース

平安朝文学、日本中世文学、日本近代文学、日本語学、中国文学・文化、イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学

#### 卒業後の進路

教職や公務員をはじめ、大学院進学など、進路は多種多様です。民間への主な就職先としては、流通サービス業、金融・保険機関、旅行代理店、情報処理関連企業のほか、新聞社、テレビ局、広告業などのマスコミ関係があげられます。

### 国際社会コミュニケーション学科

#### カリキュラム例

異文化間コミュニケーション論、比較文化論(日英米独仏中)、文化史、文化論、オーラルコミュニケーション、文章作成研究、第二言語習得論、日本語教育法、英語音声学、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、社会言語学、メディア文化論、社会文化交流論、国際関係論、社会思想史、比較日本文化論、アメリカ文化論、ヨーロッパ文化論、中国経済社会論、大衆文化論、日本文化表現法、世界経済論、西洋経済史

#### 卒業後の進路

教職や公務員をはじめ、さらに大学院への進学など、進路は多種多様です。民間企業では、商社や流通業界、各製造業界、銀行、証券会社、保険会社、旅行会社のほか、テレビ局や新聞社、広告業界などのマスコミ関係があります。また、国際機関の職員、さらに日本語教師への道もあります。

### 社会経済学科

#### カリキュラム例

##### ■総合地域政策コース

経済政策、財政学、地方財政論、地域経済論、労働経済論、福祉経済論、環境経済学、公益事業論、国際経済論、開発経済論、比較経済社会論、地域社会学、憲法、民法、刑法、自治行政法、経済法、政治学、地域生活と政策、地域ジャーナリズム論

##### ■経済企業情報コース

ミクロ経済学、マクロ経済学、資本主義システム論、統計学、計量経済学、金融論、国際金融論、流通経済論、日本経済史、経営学、経営管理論、会計学原理、原価計算論、簿記原理、商法、企業情報システム論

#### 卒業後の進路

社会経済学科は幅広い教養を身につけた即戦力となる社会人・企業人を養成します。民間企業をはじめ公務員、教員への就職の道があります。また近年は大学院に進学する人も増えています。

# 人文学部 平成22年度 入学者選抜の実施教科・科目等について

## 一般入試

学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等
人間文化学科	前期日程	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経 数I、数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、 情報 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学I 英、独、仏、中、韓から1 〔3教科3科目〕	国 外	国語総合※・現代文・古典※ 英(英I・英II・リーディング・ライティング)
	後期日程				個別学力検査等は課さない
国際社会 コミュニケーション学科	前期日程	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経 数I、数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、 情報 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学I 英、独、仏、中、韓から1 〔3教科3科目〕	そ 他	小論文
	後期日程				面接
社会経済学科	前期日程	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理Bから1 現社、倫、政経から1 数I、数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 〔6教科6科目〕	そ 他	小論文
	後期日程				個別学力検査等は課さない
	AO (第1次) (第2次)		大学入試センター試験は課さない	そ 他	講義及び講義理解力試験 ゼミナール活動適性試験、作文、 面接

①[大学入試センター試験の利用教科・科目名]欄について

「数学」の教科について『工業数理基礎』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校において、これらの科目(ただし、『情報関係基礎』については、普通教科及び学校設定科目以外の『情報に関する科目』)を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限る。利用教科・科目の中で、指定された教科・科目数を超えて受験している場合には、選択となる各教科・科目において、高得点の科目の成績を用いる。「英語」については、リスニングを含む。

②[個別学力検査等]欄について

※「国語総合」及び「古典」では「漢文」は出題範囲としない。

## 推薦入試

学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等
人間文化学科	推薦入試I		大学入試センター試験は課さない	そ 他	面 接
国際社会 コミュニケーション学科	推薦入試I (A選抜) (B選抜)		大学入試センター試験は課さない	そ 他	面 接
社会経済学科	推薦入試I (一般推薦) (専門推薦)		大学入試センター試験は課さない	そ 他	面 接

[大学入試センター試験の利用教科・科目名]欄については、上記①を参照のこと。

# 教育学部 Faculty of Education

## 「人が人らしく生きる」場面に深く関わり合う

### 求める学生像 Admission Policy

教育学部は、地域社会との連携を通じた自由で創造的な研究・教育を基本とし、学部の特長として子どもと触れ合い、子どもの心がわかる教員の養成を目指しています。

また、日本有数の高齢化県である高知県に立地する学部の特長として、これからの長寿社会における豊かな生活環境の創造のために貢献できる人材の育成を目指します。



#### 学校教育教員養成課程

豊かな生活や遊びに関する体験を持ち、積極的に地域や子どもと触れ合い、仲間づくりを通してコミュニケーションを高めることができる学生を求めます。また、教員希望の学生として、幅広く、そして深い知識・技能を身につけるために適切な努力ができ、進んで教育の真の意義を見いだせる力を持った人を求めます。

#### 生涯教育課程

これからの社会にふさわしい高度の専門性を身につけて、文化や芸術・スポーツの創造発展を目指し、社会環境や人間生活の向上に寄与しようとする意欲のある学生を求めます。

##### ●芸術文化コース

自由な発想や新鮮なアイデアによる音楽や美術に関わる表現活動や文化の創造発展を目指し、芸術・文化環境の向上のために努力できる学生を求めます。

##### ●スポーツ科学コース

これからの長寿社会の中で、スポーツの創造発展や、スポーツを通じて健康で充実した人間生活の実現に寄与できる学生を求めます。

##### ●生活環境コース

変化する生活環境や発達した情報化社会にふさわしい専門性を通して、社会環境や人間生活の向上に寄与できる学生を求めます。

#### 課程名

##### ■学校教育教員養成課程

- 教育科学コース
- 障害児教育コース
- 教育方法コース
- 教育内容コース

##### ■生涯教育課程

- 芸術文化コース
- スポーツ科学コース
- 生活環境コース  
(生活系、環境情報系)

#### 取得できる資格

##### ■学校教育教員養成課程

- 小学校教諭一種免許状
  - 中学校教諭一種免許状  
(教科)国語・社会・数学・理科・音楽・美術  
保健体育・技術・家庭・英語
  - 高等学校教諭一種免許状  
(教科)国語・地理歴史・公民・数学・理科  
音楽・美術・書道・保健体育・家庭  
英語
  - 特別支援学校教諭一種免許状
  - 幼稚園教諭一種免許状
  - 学芸員
- ※ 卒業要件に含まれる免許状  
小学校教諭一種免許状、中学校教諭二種免許状または特別支援学校教諭一種免許状

- ※ 履修の仕方によって取得可能な免許状  
幼稚園教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状

##### ■生涯教育課程

- ##### ■芸術文化コース
- 中学校教諭一種免許状(音楽・美術)
  - 高等学校教諭一種免許状(音楽・美術  
工芸)
  - 学芸員

##### ■スポーツ科学コース

- 中学校教諭一種免許状(保健体育)
- 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
- 学芸員

##### ■生活環境コース

- 中学校教諭一種免許状(家庭・理科)
- 高等学校教諭一種免許状(家庭・理科)
- 学芸員

- ※ 履修の仕方によって取得可能な免許状  
中学校教諭一種免許状(音楽・美術・保健体育・家庭・理科)、高等学校教諭一種免許状(音楽・美術・工芸・保健体育・家庭・理科)

## こどもたちに豊かな人間教育を

小学校及び中学校(あるいは特別支援学校)の教員養成を一体的に行うことを特色としています。

4年間一貫した実習系授業を履修する中で子どもたちや教職員・地域の方々と関わりながら、教育に必要なコミュニケーション能力や実践的指導力を身につけることができます。

そして、幅広い教養科目と教育学や心理学などの教職の基本に関する科目、各教科に関連する科目を学習することで、それらの力を高めることができます。2年次より、4つのコースに分かれて学習と研究を深めます。

本課程では、小学校一種免許に加えて、中学校二種または特別支援学校一種免許の取得が必要です。

### ●教育科学コース

本コースは、小学校・中学校教員となるために必要な教員免許取得のほかに、教育学や心理学に関する専門的な学習と研究を深め、理論と実践の両面を視野に入れた教員養成を目指します。2年生から、教育学あるいは心理学担当教員の指導のもとに、演習や卒業論文作成などを通して学習と研究を深めます。

### ●障害児教育コース

本コースは、主に知的障害の子ども、肢体不自由の子ども、病弱の子どもを教育する教員の育成を目的としています。また視覚障害や聴覚障害、重度・重複障害、発達障害についても学びます。学校は大きく変わり、盲・聾・養護学校が特別支援学校に移行するなど「特別支援教育」が導入されました。通常学級においても特定の学習だけが著しく遅れていたり、授業が始まって10分もしないうちに席を離れてしまったり、こだわりがあったりなどの理由で、一斉指導では教えることが難しい児童生徒に、その子にあった適切な指導をする「個別的教育支援」ができる仕組みが整えられ、全教員が関わることとなります。これらの動向を踏まえて本コースでは、学習や生活上の困難を正確に理解するための理論や、児童生徒に応じた適切な指導法を学びます。

### ●教育方法コース

本コースは、小学校・中学校教員となるために必要な教員免許取得のほかに、各教科の目標、新しい教材づくり、授業設計・構築及び学習指導法などについての専門的な理論と実践を学び、教科指導にすぐれた実践力を持った学校教員の養成を目指します。教科教育学は、各教科のどのような教材をどのようなすれば児童・生徒にわかりやすく、興味を持って、確かに学ばせることができるかを研究する学問です。2年生から、各教科の教科教育学の教員のもとで、そのような理論と実践の研究を深め、確かな実践力を養成します。

### ●教育内容コース

本コースは、小学校、中学校、及び高等学校の教員となるために必要な教員免許取得のほかに、広い視野に立って、個別教科(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)の内容を深く掘り下げ、高度な能力と豊かな知識を身につけた教員養成を目指します。2年生からそれぞれの教科の専門の教員のもとで学習と研究を深めます。



4年間一貫した実習系授業

1年次 フレンドシップ

2年次 介護体験、観察実習

3年次 教育実習、障害児教育実習(障害児教育コース)

4年次 教育実習(障害児教育コース)、インターンシップ、応用実習、幼稚園実習

### カリキュラム例

#### ■教職に関する科目

教職入門、同和教育論、道徳教育、特別活動指導法、教育の方法・技術、生徒指導、教育相談、各教科初等指導法、各教科中等指導法、教育実習(小・中・高・幼)

#### ■小学校教科に関する科目

小学国語、初等社会科、初等数学、初等理科、こどもの生活と環境、初等音楽、初等図工、家庭科概論、小学校体育

#### ■中学校教科に関する科目

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語(英語)の各教科に関する科目

#### ■特殊教育に関する科目

特別支援教育学概論、知的障害心理学、知的障害生理・病理学、肢体不自由等心理・生理・病理、病弱等心理・生理・病理、知的障害教育課程論、知的障害教育の理論と実際、肢体不自由教育指導法、病弱教育指導法、障害児教育基礎演習、障害児教育特講、障害児教育実習

#### ■課程共通科目

情報教育I、人権教育、障害児者問題入門、高知県の教育、児童英語、教育哲学、日本教育史、西洋教育史、教育行政学、教育社会学、教育評価、パーソナリティ論、学校カウンセリング、認知心理学、生涯学習概論、社会教育計画、応用実習、インターンシップ、課題探求実践セミナー(フレンドシップ)

### 卒業後の進路

小学校、中学校、特別支援学校、高等学校の教員となる場合がほとんどですが、最近では公務員、あるいは教育関連産業をはじめ、一般企業への就職者が増えています。また、学部の課程で興味を抱いた専門領域をさらに深く学習・研究するために大学院総合人間自然科学研究科教育学専攻(修士課程)へ進学することも可能です。

## 幅広い教養と総合的な知識を育み、社会のニーズに応える

生涯学習社会、情報化社会を迎えて多くの課題があります。

また、芸術・スポーツ活動による健康で文化的な生活の確立、地球環境、生活環境をめぐるいろいろな問題にも直面しています。

豊かな感性と人間的交流と諸科学の学習をもとにした幅広い教養と柔軟な思考力と

高度な技術力を身につけた人材が求められています。

本課程では、このような社会的な要請に応えるために3つのコースを設けました。

教員の養成を目的とするものではありませんが、履修の仕方によっては、教員免許状を取得することができます。

### ●芸術文化コース

本コースは、美術工芸と音楽を中心とした芸術表現に関わる領域を幅広く学んだ上で、主として芸術家と芸術文化に関する社会教育の指導者などを養成するコースです。1・2年生ではコース共通の基礎や専門の授業科目が用意されていますので、総合的に芸術全般にわたっての知識や技術を身につけることができます。

### ●スポーツ科学コース

本コースは、競技力を支えるコーチ、トレーナー、そしてマネジメントに関する指導者と生涯・健康スポーツの指導者を養成します。まず基本的な実技と自然科学や社会科学に基づくスポーツ諸科学を学び、学年の進行とともに少人数体制のもとで各人の関心や興味を深め、スポーツの専門家としての教育・研究能力を高めます。

### ●生活環境コース

本コースでは、生活環境問題を多角的に学び、新たな時代にふさわしい生活環境の創造に必要な知識・技術を学びます。2年次より「生活系」と「環境情報系」に分かれます。「生活系」では現代の生活環境問題を、生活科学及び社会科学の視点から分析的・総合的に学びます。「環境情報系」では環境を科学・技術的側面からとらえ、私たちがとりまく自然界に目を向け、さらに私たちの生活を便利・安全にするための工夫について学びます。



### カリキュラム例

#### ■芸術文化コース

サウンドクラフト、デッサン、グラフィックス、造形、音楽基礎論、ソルフェージュ、音楽実技、中国芸術・文化、書道、西洋画、デザイン、木材工芸、彫刻、美術理論、民族音楽・文化、日本音楽・文化、声楽、器楽、合奏、合唱

#### ■スポーツ科学コース

生涯スポーツ論、スポーツ運動学、スポーツ生理学、スポーツ栄養学、スポーツ指導論、スポーツ健康論、スポーツマネジメント論、スポーツ社会史、スポーツ心理学、スポーツ社会学、身体表現論、トレーニング論、救急処置法、健康生活論、身体発達論、スポーツ実技(個人・対人・集団)、キャンプ実習、海浜スポーツ実習、スキー実習

#### ■生活環境コース

被服管理学、住環境学、食生活論、生活環境教育論、地域社会学概論、社会調査法、環境技術概論、環境情報、生物環境学、計算機言語、被服学概論、被服心理学、住生活学、住環境計画論、食物学概論、調理実習、生活機器論、家庭経営学、都市地理学、政治学、社会学、経済学、物理学概論、化学概論、生物学概論、動物学概論、地学概論、地球電磁気学、栽培、数値計算法、応用数値計算、計算機実験学、画像情報処理

### 卒業後の進路

芸術文化コースでは、各種デザイン、印刷関連、企画会社などの一般企業や美術館学芸員、文化施設・公民館職員などがあります。また、スポーツ科学コースでは、公共スポーツ施設や福祉厚生施設、及び商業スポーツ施設の指導員などがあり、生活環境コースでは、衣食住関連企業もしくは情報関連企業、環境・地域計画コンサルタント、消費生活・ファッションアドバイザーなどがあります。そして、各コース共通の進路として、教員や公務員があげられます。また、学部の課程で興味を抱いた専門領域をさらに深く学習、研究したい場合には大学院総合人間自然科学研究科教育学専攻(修士課程)へ進学することも可能です。



# 教育学部 平成22年度 入学者選抜の実施教科・科目等について

## 一般入試

学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等	
学校教育 教員養成課程	前期日程	国 地歴 公民 数理 外	国語 世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B 現社、倫、政経 数I、数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、情報から1又は2 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1又は2 英、独、仏、中、韓から1	から 3教科 5科目 又は 4教科 5科目	数理 数II・数B※1 物I・物II 化I・化II 生I・生II 地学I・地学II 英(英I・英II・リーディング・ライティング) 小論文	※5 から1
	後期日程		[5教科7科目又は6教科7科目]		個別学力検査等は課さない	
生涯教育課程	芸術文化 コース	前期日程	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経 数I、数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、情報 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学I 英、独、仏、中、韓から1	から1	その他	実技※2
		後期日程		[3教科3科目]	その他	実技※3
	スポーツ 科学 コース	前期日程	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経 数I、数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1	から1	その他	実技※4
		後期日程		[5教科5科目]	その他	面接
生活環境 コース	前期日程	国語 世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B 現社、倫、政経 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1又は2 数I、数I・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 英、独、仏、中、韓から1	から 2教科 3科目 又は 3教科 3科目	数理 数II・数B※1 物I・物II 化I・化II 生I・生II 地学I・地学II 英(英I・英II・リーディング・ライティング) 小論文	※5 から1	
	後期日程		[5教科7科目又は6教科7科目]	その他	個別学力検査等は課さない	

### ①[大学入試センター試験の利用教科・科目名]欄について

「数学」の教科について「工業数理基礎」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校において、これらの科目(ただし、「情報関係基礎」については、普通教科及び学校設定科目以外の「情報に関する科目」)を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限る。  
 利用教科・科目の中で、指定された教科・科目数を超過して受験している場合には、選択となる各教科・科目において、高得点の科目の成績を用いる。  
 「英語」については、リスニングを含む。

### ②[個別学力検査等]欄について

- ※1 「数B」の出題範囲は、次の通りとする。(数列、ベクトル)
- ※2 次のA～Fのうちいずれか一つを選択する。 A: デッサン・平面構成、B: デッサン・立体構成、C: デッサン・水彩画、D: 西洋クラシック音楽の演奏(独唱・ピアノ・管弦打楽器のうち一つ)、E: D以外の演奏・演技(一種類)例… 箏・三味線・尺八・民謡(唄)・太鼓・琵琶・民俗芸能・シタール・リコーダー・ギターなど、F: 西洋クラシック音楽の作曲(与えられたいくつかのモチーフから一つを選択し、それをもとにピアノ独奏曲を作曲する)
- ※3 次のA～Dのうちいずれか一つを選択する。 A: 鉛筆淡彩画、B: 西洋クラシック音楽の演奏(独唱・ピアノ・管弦打楽器のうち一つ)、C: B以外の演奏・演技(一種類)例… 箏・三味線・尺八・民謡(唄)・太鼓・琵琶・民俗芸能・シタール・リコーダー・ギターなど、D: 西洋クラシック音楽の作曲(与えられたいくつかのモチーフから一つを選択し、それをもとにピアノ独奏曲を作曲する)
- ※4 次の(A)、(イ)の実技検査を受ける。(A)基礎的運動能力検査 (イ)特技検査: 次の種目のうち一つを選択する。体操競技、陸上競技(専門とする一種目)、水泳競技(専門とする一種目)、柔道、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、硬式野球、硬式テニス、卓球、バドミントン、ダンス
- ※5 「物理II」では「物質と原子(原子、電子と物質の性質)」及び「原子と原子核(原子の構造、原子核と素粒子)」は出題範囲としない。「化学II」では「生命と物質」は出題範囲としない。「生物II」では「生物の分類と進化」及び「生物の集団」を出題範囲に含む。「地学II」では「宇宙の探求」は出題範囲としない。

## 推薦入試

学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等	
学校教育 教員養成課程	推薦入試II	国 地歴 公民 数理 外	国語 世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B 現社、倫、政経 数I、数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、情報から1又は2 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1又は2 英、独、仏、中、韓から1	から 3教科 5科目 又は 4教科 5科目	その他 小論文 面接	
生涯教育課程	芸術文化 コース	推薦入試I	大学入試センター試験は課さない	その他	小論文、実技、面接	
	スポーツ 科学 コース	推薦入試I	大学入試センター試験は課さない	その他	小論文、実技、面接	
	生活環境 コース	推薦入試I	大学入試センター試験は課さない	その他	小論文、面接	

[大学入試センター試験の利用教科・科目名]欄については、上記①を参照のこと。

## 壮大なスケールの世界を基礎から応用まで解き明かす

### 求める学生像 Admission Policy

理学部は数学的思考力・英語力・情報処理能力を土台にして、情報・材料・生命・環境・海洋・資源などの広範な分野で専門教育を実施し、地域国際社会に通用する専門職業人を養成します。数学と理科学目が好きで、自然に対する好奇心と探究心を持つ学生を求めます。



#### 理学科

理学科は、正しい自然観や倫理観を学びたい学生を受け入れます。自然現象や生命活動の探求を通して知的文化の創造に寄与し、バランスの取れた自然観に基づいて、適切な課題設定と課題解決ができる理学士を養成します。

##### ●数学コース

数学に興味を持ち、数学を一生の仕事あるいは友としたい学生、数学の基本的な思考法と技術を身につけて他分野へ進みたい学生、教員になって中学・高校で数学を教えたいと考えている学生を求めます。

##### ●物理科学コース

自然現象の本質的法則に興味を持ち、その理解に意欲的な学生、物理や化学の実験が好きで、データ解析やものづくりに熱中することのできる学生、また、物理や化学の基礎を学び、将来、物質開発研究、教員などの職業に活かしたいと考えている学生を求めます。

##### ●化学コース

物質の反応メカニズム、無機・有機化合物の合成や物理化学的性質、さらに分析化学的手法などについて興味があり、化学物質の本質的理解と応用価値についての専門性を高めたいと考えている学生、また、グローバルな視野に立って将来の化学及び化学技術の発展に貢献したいと考えている学生を求めます。

##### ●生物科学コース

生物の多様な存在様式や活動及びそれらを支えている生命機構に関して、分子・細胞レベルから個体や集団レベルに至る総合的学習を目指す学生、環境と生物の関わり合いに興味を持ち、さらなる専門性を身につけたいと考えている学生を求めます。

##### ●地球科学コース

地球科学分野に向学心を持ち、地球史46億年をひも解く知的好奇心を持つ学生、自然と人間の関わり合い(地球環境)を理解しようという意欲を持つ学生を求めます。

#### 応用理学科

応用理学科は、応用的な知的活動を通して社会に寄与し、国際的視野・豊かな創造力・積極的な行動力を身につけた、応用力に秀でた理学士の養成を目指しています。情報・材料工学・生命・防災などを学びたい意欲のある学生を受け入れます。

##### ●情報科学コース

情報通信技術(IT)に興味を持ち、コンピュータに関する基礎的理解から柔軟な応用力を会得したい学生、情報科学という広範な学問分野のさらなる開拓と新しい応用分野の創造に参加したい学生を求めます。

##### ●応用化学コース

分子レベルでの物質の構造・性質、合成及び反応性に興味を持ち、人々の生活に深く関わる機能性材料、医薬材料などを系統的に理解したい学生、資源・生命・地球環境問題の解決などに興味があり、国際的な研究者・技術者を目指す学生を求めます。

##### ●海洋生命・分子工学コース

生命現象を分子レベルで解き明かそうとする強い熱意を持った学生、生物学と化学に強い関心を持つ学生、“どうしてだろう…”“何故だろう…”と探求心が旺盛な学生、実験が好きな学生、チャレンジ精神の旺盛な学生を求めます。

##### ●災害科学コース

地球諸科学に底流する理学的思考と方法を基礎に、各地域の特性を熟知した上で防災という工学的課題の解決にチャレンジしたい学生、また、大気現象に関心があり、未知への探究・解明に取り組める学生を求めます。

#### 学科名

##### ●理学科

- 数学コース
- 物理科学コース
- 化学コース
- 生物科学コース
- 地球科学コース

##### ●応用理学科

- 情報科学コース
- 応用化学コース
- 海洋生命・分子工学コース
- 災害科学コース

#### 取得できる資格

##### ●数学・情報系

- 中学校教諭一種免許状(数学)
- 高等学校教諭一種免許状(数学)
- 高等学校教諭一種免許状(情報)
- 情報処理技術者[要試験]

##### ●物理系

- 中学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(理科)

##### ●化学系

- 毒物劇物取扱責任者[資格審査有]
- 危険物取扱者(甲種または乙種)[要試験]
- 環境計量士[要試験]
- 有機溶剤作業主任者[要試験]
- 特定化学物質取扱責任者[要試験]
- 中学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(理科)

##### ●生物系

- 学芸員
- 生物分類技能検定[要試験]
- 中学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(理科)

##### ●海洋生命・分子工学系

- 毒物劇物取扱責任者[資格審査有]
- 危険物取扱者(甲種または乙種)[要試験]
- 中級バイオ技術者[要試験]
- 上級バイオ技術者[要試験]
- 中学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(理科)

##### ●地学・防災科学系

- 学芸員
- 測量士補[要試験]
- 技術士補[要試験]
- 防災士[要試験]
- 中学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(理科)

## 知的文化の創造と人類進歩を目指して

理学科は、自然現象や生命活動の探求という純粋理学的な営みについて、数学的思考を基礎にとらえ、

物理・化学・生物科学・地球科学の諸分野の英知を結集してその教育と研究に挑みます。

知的文化の創造と人類の調和ある進歩に供することを理念として掲げ、そのことを通して正しい自然観と生命観を備え、

そして、課題設定及び課題解決ができる職業人の養成を目指します。

### ●数学コース

数学的である、あるいは論理的であることは全ての科学に携わる人々に必然的に求められています。しかし、数学を的確に活用するためには、正確な数学的知識の習得と十分な数学的・論理的訓練が必要です。数学コースでは、それらを可能にする環境を提供します。高校で学んだ基礎の上に、解析学、幾何学、代数学、統計数学などの基礎的な概念をまずは学習・獲得し、広範な応用を視野に入れたさらに深い内容へと進み、総仕上げとしての卒業研究に至るまでの数学教育を行います。

### ●物理科学コース

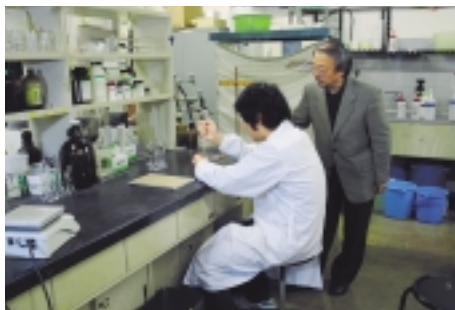
素粒子から原子核、原子、分子及びその集合体まで、物質がその階層に応じて示す基本法則、現象、性質などを取り扱います。これには、従来の理論物理、量子物理、物性物理、物理化学などの分野が含まれています。具体的には、素粒子やハドロン・原子核の基礎理論、素粒子間の相互作用や電磁的非線形現象、固体の電気・磁気・光・熱的諸性質、物質の持つ物理化学的諸性質(物質合成法、構造解析法、結晶構造と物性との相関など)などの理論を学び、実験によって確実な知識を習得できる教育を行います。

### ●化学コース

化学は、100種あまりの元素の組み合わせからなる物質の性質ならびに物質間の相互作用と変化を探求する学問分野です。本コースでは、これら様々な物質の反応メカニズム、無機・有機化合物の合成や物理化学的性質、さらには分析化学的手法などについて、原子・分子という基本的要素から複雑な先端化学物質までを対象として体系的に教育し、研究を行います。このことにより、化学物質の本質的理解と応用価値についての専門性を高めるとともに、グローバルな視野に立って将来の化学及び化学技術の発展に貢献できる人材の育成を目指します。

### ●生物科学コース

原動物や藻類の細胞生物学及び分子生理学、昆虫や魚類の行動生理学、魚類や無脊椎動物を対象にした分類学と生態学、こけ類と地衣類を対象とした分類学、河川、草原、里山などの植物生態学、堆積花粉の分析による古生態学、有用海藻類を対象とした海洋植物学などの教育と研究を行います。さらに、他コース生物系講義題目も加え、分子レベルから集団レベルに至る幅広い領域をカバーできるような充実した講義メニューを提供し、豊かな科学的素養と独創的専門性を備えた人材の育成を目指します。



### ●地球科学コース

地球科学コースでは、地球表層システム、とりわけ岩石圏、水圏の相互関係の理解を進めています。固体地球の分野では、火成岩や変成岩の成因論や、地殻・マンタルの形成及び発達過程の解明を目指しており、また、地球環境の分野では、堆積相や化石の解析から過去の地球の様子を、海洋底堆積物の解析から海洋環境変遷などを研究し、教育しています。幅広い地球科学現象の学習を通して、地球環境の諸問題を地球科学の視点から理解する力を備えた学生の養成を目指します。



### カリキュラム例

#### ■数学コース

数学概論、線形代数学、解析学、幾何学、代数学、統計学

#### ■物理科学コース

力学、電磁気学、熱力学、物理化学、統計力学、量子力学

#### ■化学コース

有機化学、無機化学、分析化学、物理化学

#### ■生物科学コース

動物生理学、細胞生物学、植物分類学、動物分類学、生態学

#### ■地球科学コース

地球史環境科学、造岩鉱物学、資源地学、海洋地質学、古生物学

### 卒業後の進路

国家・地方公務員、中学・高等学校教員、情報・通信サービス業、金融機関、コンピュータ関連企業、製造業、流通・販売業、サービス業、環境アセスメント関連企業、環境・地質コンサルタント関連企業、高知大学ならびに他大学大学院

## グローバルな視点と豊かな発想での挑戦

本学科は、情報、材料化学、生命、防災にそれぞれ対応した、他に類を見ないユニークな4コースで構成されています。各教育コースは、従来の学問分野にとらわれない応用面を強調した新しい融合型の教育と研究を行うばかりではなく、コース間で相互に連携を保ちつつ有機的な教育・研究を実践することも目標としています。これらにより、21世紀に活躍しうるグローバルな視点・豊かな創造力・積極的な行動力を身につけた人材の育成を目指します。

### ●情報科学コース

本コースは、コンピュータに基づくソフトウェアやアルゴリズムの基礎から応用までの習得にとどまらず、コンピュータは何ができるのか、どのようにして動くのか、どうすればより良い計算システムが構築できるかを講義を通して指導し、学生はコンピュータサイエンスの基礎と応用を学びます。情報科学の研究成果は多くの研究分野で活用されており、また、新しい学問の創出にも貢献しています。情報科学コースは、コンピュータの理論から広範な応用までを担うものとして、高度情報化社会の確かな担い手となる人材の育成を目指します。

### ●災害科学コース

人間生活に多大な被害をもたらす自然災害に対し、効果的な防災対策を立案し災害の軽減をはかるには、自然現象の発生メカニズムを正しく理解し、次に人間生活を考慮した将来の予測を立てることが重要です。災害科学コースでは、地盤災害・気象災害・地震災害を主な対象とし、大気科学、地球物理学、地盤科学、地震地質学などの講義・実験・野外調査を通じて、地球の営みとそれを解明するための調査手法を研究し、教育します。これにより、問題解決の能力を持ち、自然災害に対する実務や啓発活動の主体となる人材の育成を目指します。



### ●応用化学コース

応用化学コースでは、分子レベルで物質の構造・性質及び反応性を明らかにするとともに、新しい物質の創造や機能材料の開発を目指した教育と研究を行うことで、食料、衣料、医薬品から家電製品に至る広い範囲にわたって人々の生活に深く関わる化学物質を系統的に理解し、さらに資源・生命・地球環境問題の解決などに向けた産業創出に関する先導的学問領域の構築を目指します。このことにより、幅広い専門知識や高度な技術力に加え、豊かな人間性や崇高な倫理観をあわせ持った国際的な研究者・技術者の育成を目指します。



### ●海洋生命・分子工学コース

海洋生命・分子工学コースは、理学部の生命・海洋・物質の分野で中心的な役割を果たし、個性豊かな科学的教養を体得した専門職業人の養成を目指します。本コースは海洋生物などを対象とした遺伝子工学、発生病学、タンパク質・酵素工学、分子工学などの領域で教育と研究を行い、21世紀に活躍する人材の育成を目指します。本コースには、分子生物学、生化学、天然物化学、有機合成化学などの分野が含まれています。

### カリキュラム例

#### ■情報科学コース

計算機システム学、プログラム言語論、オペレーティングシステム論、情報ネットワーク論、人工知能論

#### ■応用化学コース

有機化学、無機化学、分析化学、機能材料化学、量子化学

#### ■海洋生命・分子工学コース

生化学、発生病学、有機化学、分子生物学、進化生物学

#### ■災害科学コース

地球惑星科学、防災科学、地球観測学、連続体力学、地震地質学

### 卒業後の進路

国家・地方公務員、中学・高等学校教員、情報・通信サービス業、コンピュータ関連企業、化学・機械・電気・鉄鋼・建設・食品・薬品・遺伝子関連企業、製造業、環境・地質コンサルタント関連企業、高知大学ならびに他大学大学院

# 理学部 平成22年度 入学者選抜の実施教科・科目等について

## 一般入試

学科等名		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
			教科	科目名等	教科等	科目名等
理学科・応用理学科	〈数学受験コース〉	前期日程	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経 から1 数I・数A 数II・数B 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから2 英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]	数	数I・数II・数III・数A・数B※1 数C※2
		前期日程	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経 から1 数I、数II・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから2 英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]	理	物I・物II、化I・化II、生I・生II、 地学I・地学IIから1※3
	後期日程	国 数 理 外	国語 数I、数II・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科5科目]		個別学力検査等は課さない	

### ① [大学入試センター試験の利用教科・科目名] 欄について

「数学」の教科について『工業数理基礎』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校もしくは中等教育学校において、これらの科目(ただし、『情報関係基礎』については、普通教科及び学校設定科目以外の『情報に関する科目』)を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限る。利用教科・科目の中で、指定された教科・科目数を超えて受験している場合には、選択となる各教科・科目において、高得点の科目の成績を用いる。「英語」については、リスニングを含む。

### ② [個別学力検査等] 欄について

※1 「数B」の出題範囲は、次の通りとする。(数列、ベクトル)

※2 「数C」の出題範囲は、次の通りとする。(行列とその応用、式と曲線)

※3 「物理II」では「物質と原子(原子、電子と物質の性質)」及び「原子と原子核(原子の構造、原子核と素粒子)」は出題範囲としない。「化学II」では「生命と物質」は出題範囲としない。「生物II」では「生物の分類と進化」及び「生物の集団」を出題範囲に含む。「地学II」では「宇宙の探求」は出題範囲としない。

## 推薦入試

学科等名		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
			教科	科目名等	教科等	科目名等
理学科・応用理学科	数学分野	推薦入試I		大学入試センター試験は課さない	その他	口頭試問を含む面接
	理科分野					
	情報分野					

[大学入試センター試験の利用教科・科目名] 欄については、上記①を参照のこと。

## 人間とその病態の中に真理を見いだす

### 求める学生像 Admission Policy

近年におけるサイエンスとしての医療の飛躍的な進展は、国際社会に様々な衝撃を与え続けており、こうした社会情勢における多様な価値観の変動に的確に対処するためには、各医療人が自ら自分自身の「倫理体系」を構築することが求められます。高知大学医学部では、倫理体系構築の基盤となる資質としての、「強靱な論理的思考能力」「バランス感覚に支えられた多面的な考察力」「共感的能力」及び「問題解決能力」を有する人材を求めます。



#### 医学科

医師には、患者さんとの良好な関係を築く技能、多岐にわたる医療スタッフとの円滑なコミュニケーション技法、情報収集能力、総合判断力などが強く求められます。

医学科では、種々の学際的領域における幅広い知識・学力に加えて、医学・医療に対する強い意欲、高い倫理観、使命感、および思考の柔軟性を有し、自らの力で問題を見つけ解決する能力を中心とした医療人に不可欠な諸能力、態度・適性、communication能力ならびにcollaboration資質を具備した、活きみなぎる人材を求めます。

#### 看護学科

看護学科では、人間に興味があり、命と生活を支援する「ライフサポーター」を目指す、「人間力」溢れる人材を求めます。

看護学科が考える「人間力」とは、次のような能力です。

- 豊かな倫理的感性を持つ
- 生命の尊厳を理解し、人権を尊重する
- 問題解決に向かって積極的に取り組む
- チームワーク達成に尽力できる
- 基本的生活習慣を身につけ、自己管理できる

#### 学科名

- 医学科
- 看護学科

#### 取得できる資格

- 医学科
  - 医師国家試験受験資格
- 看護学科
  - 看護師及び保健師の国家試験受験資格
  - ※ 助産師の国家試験受験資格は得られません。
  - 高等学校教諭一種免許状(看護)
  - 養護教諭一種免許状
  - ※ ただし、高等学校教諭一種免許状(看護)と養護教諭一種免許状は、在学中に必要な単位を修得した者に限り取得できます。また、保健師免許取得後は、本人の申請により養護教諭二種免許状、及び第一種衛生管理者免許状が取得できます。

## 新しき医学の真理ひたに極めん

### 【教育理念】

医学部医学科は、その前身の旧高知医科大学の建学の精神である「敬天愛人」と「真理の探究」即ち「自然の摂理を敬い、常に謙虚であり、何よりも個々の人間を大切にする大学人を目指しつつ、人間とその病態の中に真理を見いだす」人材を育成することを教育理念として掲げています。

### 【教育目的】

- (1)豊かな人間性と裾野の広い価値観を有し、自己の人間形成を目指す医師及び医学研究者を育成します。
- (2)医師としての使命に徹し、生命の尊厳と医の倫理をわきまえた医師を育成します。
- (3)国際的視野に立った上で、地域住民の健康と福祉に十分貢献しうる意欲と能力を有する医師を育成します。
- (4)プライマリ・ケアを身につけ、患者第一に徹する医師を育成します。
- (5)高度の知識・技能を身につけ、高度専門医療の発展及び医学・医療の推進に十分寄与しうる医師及び医学研究者を育成します。
- (6)社会の変化と時代の要請に対応可能な高度な情報収集・分析能力及び自己課題設定・自己問題解決能力を有する医師、医学研究者及び医学教育者を育成します。
- (7)医療現場での問題を真理解明の糸口とし、生命科学の発展及び医学・医療の推進に十分寄与しうる医師及び医学研究者を育成します。
- (8)上記の目的達成のために、学生が勉学や人間形成活動に励める環境を整備します。

### 【教育目標】

医学部医学科の教育目標は、上記の目的達成のために総合的な医学を徹底的に身につけさせることにあります。即ち、人間の生命をあずかる医師の養成を柱とし、医の倫理を身につけた人間性豊かで、高度の知識技能を身につけた臨床医ならびに医学研究者として、時代の要請に応じうる「心を診る医師」を養成することを目指しています。



医学部医学科の講座は、以下の3系、各講座より編成されています。

#### ● 基礎医学系

解剖学、病理学、生理学、生化学、遺伝子機能解析学、生体分子構造学、薬理学、微生物学、寄生虫学、免疫学

#### ● 社会医学系

法医学、医療学(人間医療学分野、予防医学・地域医療学分野、医療管理学分野)

#### ● 臨床医学系

消化器内科学、内分泌代謝・腎臓内科学、血液・呼吸器内科学、老年病・循環器・神経内科学、皮膚科学、小児思春期医学、産科婦人科学、神経精神科学、外科学(外科1)(外科2)、整形外科、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、脳神経外科学、放射線医学、麻酔科学、歯科口腔外科学、病態情報診断学、家庭医療学、附属病院・病院診断部と薬剤部



### カリキュラム例

■6年一貫の医学教育を目指して高知大学医学部独自のKMSコアカリキュラムを実施している。

カリキュラムの構成と学年配置は、共通教育科目(1~2年)、専門科目I [コア準備](1~4年)、専門科目II [コア科目基礎系](1~4年)、専門科目III [コア科目臨床系](3~4年)、専門科目IV [臨床実習・統合医学](5・6年)。

さらに専門科目II~IVの授業科目はコアカリキュラムの区分に従い、A 基本事項、B 医学一般、C 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療、D 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療、E 診療の基本、F 医学・医療と社会、G 臨床実習・統合医学に分類される。

### 卒業後の進路

医師国家試験に合格し、卒業後2年間の臨床研修医となる場合と大学院に進学する場合があります。

## 新しい時代をリードする、グローバルな視点を持った看護専門職者の育成をめざす

### 【教育理念】

医学部看護学科は豊かな人間性と高い倫理観に裏づけられた感性を持ち、看護をグローバルな視点からとらえ、人々の健康生活上のために援助し、看護学の発展に貢献しうる創造力を有する人材を育成します。

### 【教育目的】

- (1) 生命の尊厳に基づく倫理観を備え、人間を総合的に理解し、医療人としての能力を養います。
- (2) 豊かな人間性を身につけ、相手の立場に立って、物事を判断できる人材を育成します。
- (3) 学際的視野に立ち、自ら人々の健康問題を発見し、解決できる能力を養います。
- (4) 国際社会において、活躍できる人材を育成します。
- (5) 看護の実践・教育・研究者として、保健・医療・福祉に関連する他の職種とチームを組み、看護専門職としての役割を有効に発揮できる基礎的能力を養います。

### 【教育目標】

医学部看護学科の教育目標は、人々の健康状態の向上を目指して、生活や環境との関係で専門的立場での確に判断し、人々の主体性や価値観を尊重する資質の高い看護実践者を育成し、あわせて将来の研究者・教育者及び指導者につながる教育を行います。

医学部看護科の講座は、以下の3講座より編成されています。

- 基礎看護学講座
- 臨床看護学講座
- 地域看護学講座



### カリキュラム例

■ 看護学科のカリキュラムは、共通教育科目と専門教育科目の2つの領域を基に構成されている。

#### 1) 共通教育

大学基礎論、学問基礎論、課題探求セミナー、生命倫理学、大学英語入門、看護情報論など、ひととして・大学生として・看護専門職として必要な基礎的・基本的人間力の育成

#### 2) 専門教育

- [1] 専門基礎：身体のおしき、身体のおんき、栄養と代謝、薬のおん用と看護
- [2] 看護学：基礎看護学、臨床看護学、地域看護学、総合看護学の4領域(36教科目)をとおして、看護専門職として必要な知識・技術・態度を修得

### 卒業後の進路

看護師及び保健師の国家試験に合格した後、本学医学部附属病院を含む医療機関や保健所、保健福祉センター、官公庁、福祉施設、訪問看護ステーション、一般企業などに勤務することができます。さらに、大学院に進学して、教員や研究者、看護管理者として進むこともできます。また、高等学校教諭(看護)、養護教諭として小・中・高等学校に勤務することもできます。(在学中に教員免許状を取得した場合)



# 医学部 平成22年度 入学者選抜の実施教科・科目等について

## 一般入試

学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜
医学科	前期日程	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B <input type="checkbox"/> から1 現社、倫、政経 <input type="checkbox"/> 数I・数A、 数II・数B 物I、化I、生Iから2 英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]	その他	問題解決能力試験 面接	募集人員の 7倍
	後期日程	実施しません				
	AO (第1次) (第2次)		大学入試センター試験は課さない	その他	小論文、総合問題 態度・習慣領域評価 面接	
看護学科	前期日程	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B <input type="checkbox"/> から1 現社、倫、政経 <input type="checkbox"/> 数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、情報から1 物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [5教科5科目]	その他	面接	
	後期日程			その他	総合問題 面接	

①大学入試センター試験の利用教科・科目名欄について

「数学」の教科について「工業数理基礎」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校において、これらの科目(ただし、「情報関係基礎」については、普通教科及び学校設定科目以外の『情報に関する科目』)を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限る。利用教科・科目の中で、指定された教科・科目数を超過して受験している場合には、選択となる各教科・科目において、高得点の科目の成績を用いる。「英語」については、リスニングを含む。

## 推薦入試

学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等
医学科	推薦入試II	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B、日B、地理B <input type="checkbox"/> から1 現社、倫、政経 <input type="checkbox"/> 数I・数A、 数II・数B 物I、化I、生Iから2 英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]	その他	小論文、面接
看護学科	推薦入試I		大学入試センター試験は課さない	その他	総合問題、面接

[大学入試センター試験の利用教科・科目名]欄については、上記①を参照のこと。

## 人と自然が共存していく道を探求する

### 求める学生像 Admission Policy

21世紀における農学の使命は、安全な食料の確保、環境の保全、生物資源の有効利用などを通して、地域社会の健全な振興に貢献することと考えます。高知大学農学部は、農学の使命を理解し、自由闊達な創造力と行動力を持って実践しうる人材を育成したいと願っています。農学の使命に対する強い志を、進路設計の中にしっかりと位置づけ、高知の豊かな自然と伸びやかな風土をフィールドにして、自ら積極的に学ぶ学生を求めます。

#### 農学科

##### ●暖地農学コース

- 西南暖地における農業生産の発展に貢献できる技術者・農業者
- 食と農の発展を志す積極性のある学生
- 環境との調和のもと、食料生産、施設園芸技術の研究に興味を持ち、意欲的に取り組む学生
- バイオサイエンスやバイオテクノロジーに関心の高い学生

##### ●海洋生物生産学コース

魚介類をはじめとした生物資源を、美しい海や川を保ちながら持続的に生産・利用するためにどうすればよいかについて学び研究しませんか？海洋生物生産学コースでは、以下のような元気で熱意のある学生を求めます。

- 海洋生物の多様性を維持しながら、その資源を人間がどのように有効利用できるか考えたい学生
- 海洋生物が棲みよい環境をどのように保つか考えたい学生
- 海洋生物資源の持続的な生産・利用するためにはどうすればよいかを考え、日本や世界が抱える食料問題の解決に貢献したいと考える学生

##### ●食料科学コース

安心、安全な「食」の実現と「生活の質」の向上につながる付加価値の高い食品の開発を目指しています。そのため以下のような学生を求めます。

- 食料生産に関わる自然環境の理解と保全修復に取り組みたい学生
- 食品及び食品成分が生体に与える機能を食品化学的ならびに生化学的に解明したい学生
- 機能性の高い食品やバイオテクノロジーを応用して食に関連する機能材料を生み出したい学生

##### ●生命化学コース

動植物、微生物の生命活動の基礎を学び、生理現象のメカニズムを化学的に解き明かすとともに、われわれの生活に役立つ実用技術に結びつけることを目指しています。そのために以下のような学生を求めます。

- 動植物、微生物の生命現象を遺伝子、タンパク質、生理活性物質など目に見えない分子レベルで解明したい学生
- 生態系に興味を持ち、土壌や動植物が果たす役割について理解したい学生
- 生物資源や農産物の新たな利用に取り組みたい学生

##### ●自然環境学コース

活力に満ちあふれ、動植物とのふれ合いに喜びを見いだし、また日々の小さな取り組みにも前向きにとらえられる資質を持っている学生を求めます。そしてその中でも、「自然環境」や「自然環境の保全」に興味があって、自然環境を地球規模からミクロレベルまでの様々なスケールで総合的に理解したい学生、またそれに立脚して生態系と気圏・地圏・水圏より構成される自然環境と人間との共生に関する知識・技術を身につけたい学生を求めます。

##### ●流域環境工学コース

河川そして水によってつながる森林・農地・市街地から沿岸域までをひとつの「流域」と呼ぶことにしましょう。当コースでは、「流域」の中に存在する自然と人間の共存のあり方について深い知識を求め、探究心が旺盛で、行動力やチャレンジ精神に富み、仲間とともに勉強に取り組みたいと前向きに考える資質を持つ学生、そして、これらの資質を身につけた上で、日本に留まらず世界的な視点から自然や環境と人間をつなぐ技術者として社会に貢献したいと考える学生を求めます。

##### ●森林科学コース

森林が環境保全に果たす役割を重視する視点に立ち、森林資源の育成・管理とその高度利用を目指します。そのため、基礎学力を備え、真摯に取り組む姿勢を持ち、自然環境に関心のある人、自然と調和した森林の利用を考えたい人、森林の育成・管理に携わる後継者あるいは指導者として地域社会及び国際社会の発展に貢献しようとする人を求めています。

##### ●国際支援学コース

21世紀は食料、人口、環境、資源の世紀といわれ、世界的に増加し続ける人類に必要な食料を、環境や資源との調和を保ちながら生産していく必要があります。このような問題は先進国に比べて熱帯・亜熱帯域の発展途上国で深刻であり、問題の解決に向けた先進国の支援に期待が寄せられています。国際支援学コースでは熱帯・亜熱帯域の食料、人口、環境、資源の諸問題を解決できる人材の育成を目指しており、熱意と元気のある以下のような学生を求めています。

- 東南アジア、東アジアを中心とした熱帯・亜熱帯域の農林水産業を支援することを志し、そのために必要な技術や知識を習得したいと考えている学生
- 今後ますます重要となるであろう、食料、人口、環境、資

#### 学科名

##### ■農学科

- 暖地農学コース
- 海洋生物生産学コース
- 食料科学コース
- 生命化学コース
- 自然環境学コース
- 流域環境工学コース
- 森林科学コース
- 国際支援学コース

#### 取得できる資格

##### ■農学科

- 樹木医補
- 森林情報士2級
- 測量士補
- 測量士[受験資格]
- 気象予報士[受験資格]
- JABEE認定修習技術者(技術士補相当)
- 中学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(農業)
- 高等学校教諭一種免許状(水産)
- 食品衛生監視員
- 食品衛生管理者
- 学芸員
- 土木施工管理技士[受験資格]
- 中級バイオ技術認定
- 上級バイオ技術認定
- 家畜人工受精師[受験資格]
- 林業改良普及員[受験資格]
- 水産業改良普及員[受験資格]
- 甲種危険物取扱者[受験資格]

源の問題に関心を持ち、その解決に実践的に取り組みたいと考えている学生

- 海外の大学との国際交流活動を通じて歴史や文化の違いを体感し、幅広い視野と国際感覚豊かな人間性を身につけたいと考えている学生

## 「循環」「持続」「調和」をキーワードに、未来への課題を解決する

食料問題、資源問題及び環境問題は、ますます複雑に絡み合い現代社会の大きな課題となっています。

農学は、これらの問題を調和的に解決し、人類の未来を切り開く総合科学。

海・山・川・農地が近接する恵まれたフィールドを活かし、徹底した現場主義のもと

地域社会、国際社会に貢献できる新たな価値創造と先端技術に関する研究教育を行っています。

### ● 暖地農学コース

資源の少ない国といわれる日本。でもここ高知には360度広がる大きな空があり、豊富な光、暖かい気候があります。これら西南暖地の貴重な資源を最大限に活用し、循環型農業を実現するため、様々な農産物の生産管理や高度な環境調節、遺伝的改良など最先端の研究が行われています。

### ● 海洋生物生産学コース

海に取り囲まれた日本では、食料自給率を上げるためにも、海洋生物資源(魚介類)の生産と利用が今後ますます重要になります。本コースでは、海洋生物資源ならびにそれを育む海洋環境の重要性を認識し、その持続的生産・環境保全・有効利用に関して広く基礎知識を習得します。講義とともに、豊富な実験・実習を通じて応用力を身につけることにより、未来につながる海洋生物資源の保全と利用に関する思考力を備えた人材育成に努めています。

### ● 食料科学コース

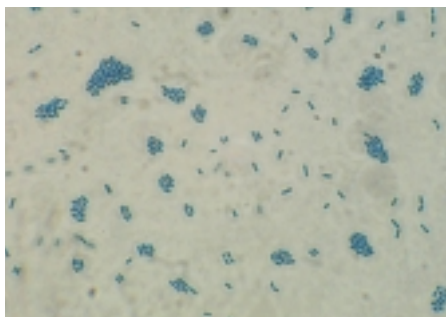
未来志向の豊かな「食」づくり!

食料生産に関わる自然環境の理解と保全・修復、食品及び食品成分が生体に与える機能の食品化学的及び生化学的解明、付加価値の高い食品やバイオテクノロジーを応用した機能材料の開発など、食の科学に立脚した教育・研究を行うとともに、安心、安全な「食」の実現と「生活の質」の向上につながる食品の開発に貢献できる人材の養成を目指しています。

### ● 生命化学コース

化学で生命を探る

私たちの生きるこの世界は、つきつめればすべて元素記号の組み合わせ=化学物質で成り立っています。生物もその例外ではなく、植物は根から様々な化学物質を吸収し自分の体を作りあげます。また、昆虫は化学物質を使って仲間を認識し、植物も体内で作りあげた化学物質で病原菌や害虫を牽制します。それら動植物・微生物の生命現象を個体レベルから分子レベルまで解析し、実用化への道を探る先端研究を行います。



### ●自然環境学コース

自然界における化学、物理学、生物学、地学の諸法則を基礎とした自然環境の総合的な理解に立脚した、人間活動と自然環境との相互の影響と依存性を認識した人材や、それに立脚して持続可能な人間活動のための自然環境の制御と保全、及び環境との共生のために責任感を持って具体的に行動できる知識と能力を持った人材を育成します。

### ●流域環境工学コース

流域環境工学コースは川でつながる森林・農地・市街地そして沿岸域までをフィールドとします。山地・里山の保全、水環境の保全、水の利用、水災害の防止、農村・都市での生活環境の改善などに関する教育・研究を通じて、流域に暮らす人間が水とうまく付き合い自然と共存するための理論と技術を学びます。当コースでは日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けた教育プログラムを展開しています。そのため、卒業生全員が技術士補相当の資格を取得でき、技術者にとって最も重要な資格である「技術士」の一次試験が免除されます。

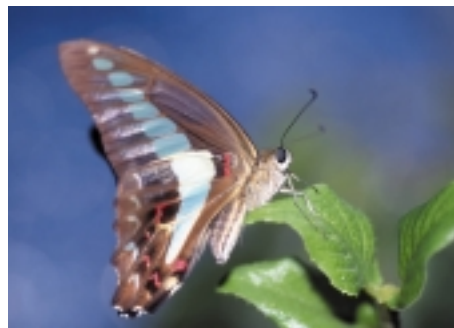


### ●森林科学コース

森林は環境を保全するとともに、様々な恵みを与えてくれます。地球環境に果たす森林の役割が理解されるようになってきましたが、自然環境の保全と循環型の資源利用システムの構築が重要な課題となってきました。森林の公益的機能と生態系を理解し、健全な森林の育成・管理、森林資源の高度利用を目指します。亜熱帯から亜寒帯までの多様な森林植生を抱える恵まれた高知県のフィールドで、現場主義に基づいた実践的な教育研究を行います。森林と環境及び人間との関わりを総合的に研究するのが森林科学コースです。

### ●国際支援学コース

熱帯・亜熱帯諸国を中心に、地域の環境保全を意識した持続的農林水産業の生産性の向上とそれに関わる資源管理についての問題の発掘、それらの解決に向けての技術開発ならびに技術移転を実践的に担う人材の育成を行います。そのために、本県の立地条件を活かして熱帯・亜熱帯の環境を再現した条件下での実習・実験に重きを置いた教育を実施するとともに、海外の大学間・学部間協定校との交流を促進し、現地での実習や卒業論文研究などを実施します。また国際舞台で活躍するための英語教育を行います。



## カリキュラム例

#### ■暖地農学コース

栽培学、植物生理学、農業気象学、農場実習Ⅰ・Ⅱ、食用作物学、植物育種学、家畜管理学、蔬菜園芸学、園芸管理学、花卉園芸学、果樹園芸学、熱帯園芸学、農業経営学、食品流通論、施設生産学、植物・環境計測学、作物学実験、植物育種学実験、蔬菜花卉園芸学実験、果樹園芸学実験、農業経営学演習、施設生産学実験

#### ■海洋生物生産学コース

水族遺伝・育種学、魚類生態学、海洋基礎生態学、水族環境学、水質学、魚病学、魚類防疫学、魚類栄養飼料学、魚類生理学、水産物利用学、水産物品質管理学など

#### ■食料科学コース

無機化学、土壤環境科学、生物化学、食品製造学、食品化学、食品衛生学、栄養化学、食品分析学などの科目を受講します。また、食料科学実験、生命化学実験を通じて、本コースで学ぶための実験基礎を修得します。4年生の卒業論文では、土壤環境学、植物栄養学、生物資源利用化学、応用生物化学、生物工学、応用微生物学などの分野の研究に取り組みます。

#### ■生命科学コース

植物生育環境学、応用微生物学、生理活性物質化学、生物有機化学、動物生理学、動物生産・繁殖学、植物感染病学、細菌学などの科目を受講します。また、生命化学実験、食料科学実験を通じて、化学実験、生物学実験の基礎を修得します。4年生の卒業論文では、植物生育環境学、生理活性物質化学、応用微生物学、植物工学、動物生殖学などの分野の研究に取り組みます。

#### ■自然環境学コース

昆虫学概論、生物環境システム学、山地環境学、自然エネルギー利用学、遺伝子多様性管理学、農業気象学、海洋基礎生態学、人間・環境相互影響論、水科学、魚類生態学、生物多様性管理学、動物生態学などの講義。実験・実習として自然環境学実習Ⅰ～Ⅳ、自然環境学実験Ⅰ・Ⅱ、昆虫学実験があります。

#### ■流域環境工学コース

水資源学、流域計画学、施設工学、景観デザイン、流域水環境保全学、農地環境工学、環境評価学、環境管理計画学、科学・技術の倫理、流域環境学、環境情報学、土壌環境物理学、環境水質学、フィールドでの実験・実習、卒業論文など

#### ■森林科学コース

森林育成学、森林生産機械学、森林測定学、森林経済学、木材物理学、木質成分化学、森林科学実習、森林統計学、測量学、測量学実習、森林環境政策学、山地測量設計実習、森林生産技術実習、森林科学専門実習、樹病学、樹物学実験、バイオマスエネルギー利用学、木質資源材料学など

#### ■国際支援学コース

熱帯農業論、熱帯林業論、熱帯水産業論、熱帯環境論、海外フィールドサイエンス実習、海外課題研究、実用英会話、実用英作文、沿岸環境学、栽培学、測量学、国際農林水産業開発協力論、国際農林水産物市場論、樹木学実習、森林生産技術実習、養魚実習、農場実習など

## 卒業後の進路

国家公務員、地方公務員、試験研究機関、大学院、各種団体(農業関係団体、森林・林業関係団体、水産業関係団体)、民間企業(農業機械・施設関連、食品関連業界、木材産業、木材流通、建設コンサルタント業界、環境アセスメント企業、測量・設計関連、土木・建設関連、情報関連業界、バイオ技術関連企業、食品・医療業界、魚介類養殖業界)

# 農学部 平成22年度 入学者選抜の実施教科・科目等について

## 一般入試

学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等
農学科	前期日程	国 数	国語 数I、数I・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科5科目]	その他	小論文
	後期日程	理 外		その他	小論文

### ①[大学入試センター試験の利用教科・科目名]欄について

「数学」の教科について「工業数理基礎」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校において、これらの科目(ただし、「情報関係基礎」については、普通教科及び学校設定科目以外の「情報に関する科目」)を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限る。  
利用教科・科目の中で、指定された教科・科目数を超過して受験している場合には、選択となる各教科・科目において、高得点の科目の成績を用いる。  
「英語」については、リスニングを含む。

## 推薦入試

学科等名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		
		教科	科目名等	教科等	科目名等	
農学科	暖地農学コース	推薦入試II (一般推薦) (専門推薦)	国 数 理 外 国語 数I、数I・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科5科目]	その他	小論文、面接	
	海洋生物生産学コース	推薦入試II (一般推薦) (専門推薦)	国 数 理 外 国語 数I、数I・数A、数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科4科目]	その他	小論文、面接	
	食料科学コース	推薦入試II	国 数 外 理 国語 数I、数I・数Aから1と数II、数II・数B、 工、簿、情報から1の計2科目 英、独、仏、中、韓から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 [3教科3科目又は3教科4科目]	その他	小論文、面接	
	生命化学コース	推薦入試II	国 数 外 理 国語 数I、数I・数Aから1と数II、数II・数B、 工、簿、情報から1の計2科目 英、独、仏、中、韓から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 [3教科3科目又は3教科4科目]	その他	小論文、面接	
	自然環境学コース	推薦入試II	国 数 理 外 国語 数I、数I・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科5科目]	その他	小論文、面接	
	流域環境工学コース	推薦入試I		大学入試センター試験は課さない	その他	口頭試験を含む面接
		推薦入試II (一般推薦) (専門推薦)	国 数 理 外 国語 数I、数I・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科5科目]		その他	小論文、面接
	森林科学コース	推薦入試I		大学入試センター試験は課さない	その他	面接
		推薦入試II (一般推薦) (専門推薦)	国 数 理 外 国語 数I、数I・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科5科目]		その他	小論文、面接
	国際支援学コース	推薦入試II (一般推薦) (専門推薦)	国 数 理 外 国語 数I、数I・数Aから1 数II、数II・数B、工、簿、情報から1 理総A、理総B、物I、化I、生I、地学Iから1 英、独、仏、中、韓から1 [4教科5科目]		その他	小論文、面接

[大学入試センター試験の利用教科・科目名]欄については、上記①を参照のこと。

# クローズアップ Kochi Univ.

自由度が高く、進取の気性に富む高知大学。

その精神は、ユニークで独創的な取り組みや研究にもよくあらわれています。

その一部をご紹介します。

## 教育学部

# ともに学び、ともに育つ。

CASE

1

1年次から教育の現場に入り、子どもたちとふれ合う

### フレンドシップ事業 ～共通教育科目「課題探求実践セミナー」～

プロジェクト長 上野 行一教授(美術教育)

子どもをよく知った上で、  
専門的な学びにつなげます

#### 教えられる側から、教える側に。 その最初の意識の転換

フレンドシップ事業とは、教員養成を行う大学・学部で教職を志す学生が、教員としての実践的な指導力を身につけるために実施されている文部科学省の事業です。教育委員会や地域の人々の協力を得ながら学生と子どもたちがふれ合う活動を行っており、高知大学では平成10年度から導入されています。教育の現場の中で、その対象となる子どもとは一体どんな存在なのかを体験的に学ぶことを目的としており、同時にこの間まで高校生だった学生たちが「教える側」という全く逆の立場を目指していく上で、その意識の転換をはかる最初のきっかけともなっています。

#### フレンドシップ事業は学生が主体。 現場の教師らと連携して

フレンドシップ事業は学生主体で進められていきます。学生たちは約10人のチームに分かれ、各チームに1人指導教員がつかます。そしてチームごとに連携先となる学校の教員や青少年育成協議会・教育委員会のメンバーと意見交換をしたり役割を確認したりしながら、子どもたちが楽しみながら学べる活動の実施に向けて準備を進めていきます。そのプロセスの中で、一人ひとりが教えられる立場ではなく、教える立場からやるべきことを考え行動できるようになっていくのです。実は、1年次からこのような学びを取り入れることは、素晴らしい教育効果につながります。直に子どもたちとふれ合いその反応を肌で感じる機会を多く積み重ねることで、教員としての資質が育まれるからです。現在、フレンドシップ事業を教員養成課程1年生の必修授業としているのは、全国でも高知大学だけではないでしょうか。学生のやる気を受け入れてくれる「地域」の存在が、フレンドシップ事業を支えてくれています。

#### 子どもを理解すること。 それが教育の土台

教員が教える教科そのものについていえば、深い専門性や指導方法は重要です。しかし授業というのは、その場その場での子どもの感じ方、考え方を教員が敏感にキャッチし、子どもの実態に合った対応をしていかないと成り立ちません。子どもの心の中で今、何が起きているのかを感じ取る力が必要なのです。高知大学が力を注ぐのはこの部分。だからこそ体験型の学びを中心に、4年一貫の人材育成を行っています。1年次にはフレンドシップ事業で子どもと出会い、子どもを理解する。2年次には授業観察を通して学校での子どもの動きを知る。その上で3年次に教育実習を行い、4年次はそれを応用するかたちで学びを検証し、深めていきます。高知大学でしかできない特徴的なプログラムなのです。



#### フレンドシップのキーワード

##### 「子ども理解」

教育活動は子どもを知ることからはじまる。実際に子どもたちと出会い、ともに遊び、様々な活動を通して体験的に子どもを知ることが大切となる。

##### 「実践力」

大学で学ぶということは、ただ頭の中に知識を入れることだけではない。考えたこと、発想したことを具体化し実践していくことが求められる。

高知大学の大きな特徴のひとつが、地域とのつながり。その地域との絆をベースに独自の取り組みを進める教育学部では、学生、大学、地域がともに学び、ともに育つことを学部教育の柱として掲げ、いろいろなかたちで実践し続けています。その学びと育ちの実際をレポートします。

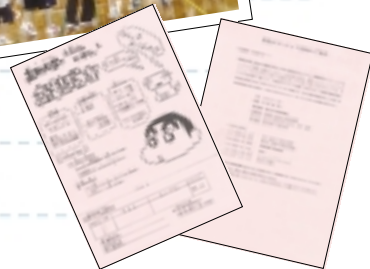
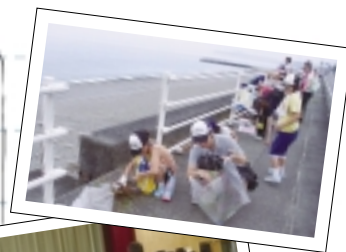


### レポート1-1

#### 「環境ボランティア活動」より、 浦戸小学校での活動報告

1年生の前期に取り組むフレンドシップ最初の活動、「環境ボランティア活動」。2008年度は県内6つの小学校で、それぞれ学校周辺や通学路などの清掃活動を実施しました。

高知市立浦戸小学校は、この環境ボランティア活動を学校行事の一環と位置づけ毎年楽しみにしている協力校のひとつ。ここには2チーム約20人の学生が参加し、活動内容の協議から参加申込書(案内チラシ)の作成、回収、班分けやタイムスケジュールの作成などを約1ヶ月半かけて準備していきました。そして当日は学校前の海岸沿いを約1時間かけてごみ拾い。子どもたちと一緒にたくさんのごみを拾った後は、体育館でレクリエーション(ゲーム)を楽しみました。学生たちは子どもたちと接する中で様々な気づきや反省、喜びなどを得た様子で、あらためて教師への憧れが強くなったという声も多く聞かれました。



### レポート1-2

#### 「地域・学校ボランティア活動」より “高知大学のお兄さんお姉さんと楽しく遊ぼう♪” 活動報告

1年生の後期に取り組むのは「地域・学校ボランティア活動」。これは、地域の青少年育成協議会と大学とが共同で開催する小学生を対象にしたイベント「高知大学のお兄さんお姉さんと楽しく遊ぼう♪」の中で、遊びやもの作りのブースを企画し、やって来た子どもたちと一緒に楽しむというもの。イベント開催の準備から、当日の進行管理、各ブースの運営まで、青少年育成協議会の方々の指導や協力をいただきながら学生たちが主体となって行いました。イベント当日は、「シャボン玉の中に入れてみよう」「ガラス玉で万華鏡を作ろう!」などといった楽しい遊びを総勢400人の子どもたちと一緒に満喫。学生たちも大きな達成感を得ることができました。



CASE  
2

異年齢間交流の場で、互いの理解を深める

中高大連携宿泊研修 ~教育ルネッサンスの取り組み~

実行委員長 蒲生 啓司教授(理科教育・化学)

みんなでやることの意義にも  
気づくんですよ



中学生、高校生、大学生が  
一緒に3泊4日?!

この研修が通常の研修と異なるのは、中学生、高校生、大学生という全く違った年齢が一緒になって3泊4日を過ごすという点です。研修では食育を中心とした生活指導やスポーツ指導、そして個別教科ごとの学習指導を取り入れた複合型の学びを、大学生が先生となって指導していきます。全体のプログラムやそれぞれの授業の中身を考えるのは、もちろん大学生自身。自分の専門としている科目で、異年齢の混合クラス相手にどれだけ楽しい授業、惹きつける授業をできるか、数ヶ月前から模擬授業などで試行錯誤しながら、自分たちの手で作りあげていくのです。

子どもたちの気持ちが  
ストレートに伝わってくる場

研修の中で毎年みんなが楽しみにしているのが、3日目の夜に行う「しゃべり場」です。今年のテーマは「親って何だろう」。人のまねではなく自分の意見を話すこと、相手の意見も否定せずに聞くことなどという基本ルールの中で、みんなが自分の本音をス

トレートに話し合いました。中高生たちにとっても大学生にとっても、なかなかない機会。違う年齢の人と理解し合う、あるいは別の考え方を知る、いいきっかけになっていると思います。

子どもを理解すること。  
それが教育の土台

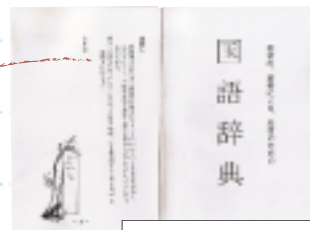
このプログラムのもう一つの目的は、ものごとを成し遂げようとした時にどういう段取りが必要で、自分がどんな役割を果たさなくてはならないか学び取ることにあります。その中では当然、思考力や判断力、コミュニケーション力も培われます。総合的にいうならマネージメント力。これは、教員になるために必要な力であり、社会人としても必要な力。もっとさかのぼって言えば、生きていくこと自体に必要な力です。授業スキルのアップ、子どもたちとの相互理解、そしてマネージメント力の向上。この3つをトータルに体験できるのが、連携宿泊研修のいいところなのです。

レポート2

宿泊研修での開講授業

国語「オリジナル辞書を作ろう」

国語っておもしろい!と感じてもらえるよう、今の中高生がふだん使っている若者言葉にスポットを当てて班単位でグループワークを実施。発表を「ミニ国語辞典」にまとめました。



理科「光の性質を理解しよう」

日頃見ている光が実はいろいろな色の光の集まりであることを知ってもらうため、分光器を制作しスペクトルを観察しました。その上で光の性質や光による現象について考え、理解を深めました。



家庭科「自分の食習慣をふり返ろう!」

料理初心者でも気軽に作れる食事のレシピを用意し、合宿中の4食を当番制で調理。食事後に、朝食の大切さや食事バランス、魚離れの問題など食育に関する講話も行いました。





CASE

3

下校時間を毎日パトロール

高知子ども守り隊 守るんジャー ~学生ボランティア活動~

4代目代表 上田 将弘(学校教員養成課程 教育方法コース3年)

学生の手で子どもたちを守る!

「守るんジャー」は2005年、当時全国で頻発した小学生を狙った事件をきっかけに結成されたボランティアグループです。以降、地域の子どもの交通安全指導と犯罪予防のための活動を続けてきました。その思いは他大学の学生たちにも広がり、今では香川、岡山、愛知、京都、福岡の計6府県で子ども守り隊が結成され、それぞれ活動を行っています。

大学生が地域の一員に

活動開始当初は「大学生は信頼できるのか?」という率直な疑問の声もあったと聞いています。でも地道に活動を続けていく中で、地域の方や子どもたちから「ありがとう」「がんばってね」と声を掛けてもらえるようになり、今では地域の行事にぜひ来てほしいとご招待いただくまでになっています。それが何よりうれしい、活動の原動力ですね。

活動を通じて自分も成長

活動の中では、子どもとのいろいろな接し方を学びました。特に感じたのは叱られるからルールを守るのではなく、自分の身が危険だからルールを守ると教えていかなければならないということ。動機づけの部分が大切なのです。それは将来、教員と

なった時の授業でも同じです。「守るんジャー」の活動が、貴重な学びの場にもなっていることを実感する毎日です。

レポート3

守るんジャーの日々

現在、隊員は約50人。その半数以上が1年生です。毎週月曜から金曜まで雨の日以外は毎日、子どもたちの下校時刻に合わせて通学路での安全指導と見回りを行っています。2008年には高知県公安委員会から感謝状も贈られました。



コラム 地域の元気を応援!

column 1

子どもの生活リズムを改善しよう 「早ね、早おき、朝ごはん」運動

原田 哲夫准教授(理科教育・生物学)

子どもの睡眠習慣改善や食育を推進する高知県の「早ね早おき朝ごはん運動」。これを先導するのが高知大学教育学部です。「朝の光を浴びて体内時計をリセットしよう」「塾は夜8時まで。早起きでの“朝勉”が効果的」といった朝型生活リズムに改善するための9ヵ条も提案。その検証のために教育学部の学生をモニターに、朝食の栄養バランスとその効果を調べる実験も進行中です。高知の子どもの生活習慣と学力アップを応援しているのです。



column 2

音楽が結ぶ、心と心 特別養護老人ホーム ふれあいコンサート

脇岡 総一教授(音楽教育・器楽)

心をこめて演奏された音色は、人の心を癒し和ませてくれます。生涯教育課程を中心とする学生たちが管楽器の合奏をプレゼントしようと集まったのは、高知市内にある特別養護老人ホーム。学生の1人がこのホームで実習を受けたことがきっかけで実現したスペシャル企画でした。他にも、県内の高校生たちの競演の場をプロデュースする「スーパープラス」や、“本物”の音楽と出会う機会を届ける「ジョイフルコンサート」など、音楽を通じた様々な活動が展開されています。



農学部

# 未来への鍵、 「人と地球の処方箋」

人と地球の処方箋  
導入編

まずは人と地球との関係を知ること。多様な現場とそのつながりを学ぶ

## フィールドサイエンス実習

尾形 凡生教授(暖地農学コース)

### 生態系のつながりを体感する。 それが全てのはじまり

農学部に入学した学生が初めて現場に触れる機会、それがフィールドサイエンス実習(FS実習)です。農・林・水産業の営みや関わり合いを体験的に学ぶだけでなく、山から河川の流域、農耕地を通して海へとつながる生態系の循環そのものを実感してもらうことを目的としています。実はこの実習、学部の全学生を対象にこれだけ大規模に実施しているのは全国的にも非常に珍しく、海、川、山の全てのフィールドが揃う高知大学だからこそできる取り組み。人と地球の関係を考える貴重な第一歩となっているのです。

### いつ頃行われるの?

1年生の5~7月を中心とする前期、平日の時間割に影響しないよう、土日を利用して行われます。いくつかのチームに分かれて順番に、様々なフィールドを体験していきます。

### どんな内容なの?

実習は、「農場」「森林/河川」「海洋」「応用/生物科学」の4つの現場からなっています。用意された実習メニューはどれも研究のツボを楽しく学べるものばかりです。

### 楽しく学べる4つの現場

農場



森林/河川



海洋



応用/生物科学



[実習内容例]

農場分野	森林 / 河川分野
苗とり・田植え・施肥方法、土佐褐牛の管理、耕地生態系の昆虫の多様性の調査、農業生産活動の経済的視点、農業機械実習、野菜・花卉の収穫と管理、果樹の摘果、炊飯実習・試食	演習林散策、樹木観察、除・間伐体験、溪流・河川の流速・流量・水質の測定と地形の測量

複雑に絡み合う現代社会の課題——

それらを調和的に解決するため、様々な角度から問題の本質に迫り、あらゆる手法を駆使して具体的な解決策を提案するのが農学の使命です。つまり農学とは、人と地球のための「処方箋」を生み出す学問。

真に豊かな未来を築くために存在しているのです。



3



4

物部キャンパスは、南国フィールド(農場)を含めて広さがなんと東京ドームの約7倍。こんな広大な現場がラボに隣接している大学は数少ない!

1. 田植え実習。泥の中に裸足で入る感触が忘れられなくなる?!
2. 大型農業機械の試乗
3. 昼食は、竹筒を使って自分たちで炊いた農場米をいただく!
4. 観賞植物のメイクアップ作業を体験



3



4

森林率が84%と日本一の高知県は、全国で初めて森林環境税が導入された環境先進県。森、川、海の関係がみっちり学べます!

1. 嶺北フィールド(演習林)やその周辺の河川で実習を行う
2. 水辺に棲む小さな生き物に思わず心も癒される
3. はじめは手探りでも、一步一步、教員とともに学ぶことで成長する
4. 様々な道具を駆使して川を知る。自然を知るためには、自然の中にまず入ることが大切だ



2

水産業はもちろん、黒潮、海洋深層水、地球温暖化など様々なテーマを持つのが高知大学の特徴。太平洋という現場を持つ強みです!

1. 磯の生物採集。様々な海洋生物を見つけて観察する
2. 実習船に乗って浦ノ内湾の海洋環境をモニタリング。いろいろな深さの海水からプランクトンを採取!



3



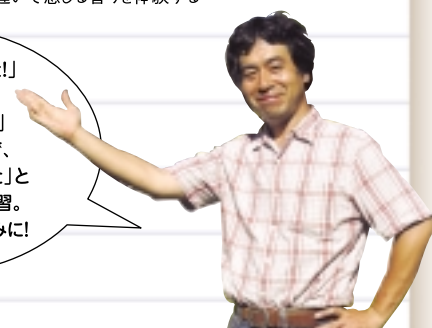
4

分子から遺伝子レベルまでのラボワークが可能な最新設備に、活発な企業や研究機関との共同研究。その一端にも触れられます!

1. 地元酒造会社の見学。酒母室ですばらしい酵母の秘密を聞く
2. 無菌状態を保つ装置を使ったバイオ実験を体験
3. 白衣をはおって、いざ実験。研究への第一歩をここで踏み出す?!
4. 香りは化学成分。成分の質と量の違いで感じる香りを体験する

海洋分野	応用 / 生物科学分野
磯の生物採集、海中観察(スノーケリングによる観察)、海洋観測(水質調査)、魚の血液による環境汚染調査、魚市場及び水産会社見学、食品団地の水産食品工場見学	食品製造工程・品質管理の紹介、香りの合成、プロトプラストの観察、野菜中の硝酸態窒素の測定、植物の染色体観察、高知が誇る酵母・ヒト・技が支える微生物産業、食品加工業における有機農法と環境保全、細胞の凍結保存、農産食品と酵素

「とにかく楽しかった!」  
「その後のコース選択の参考材料になった」  
「入学したての頃で、友達づくりに役立った」と毎年大好評のFS実習。皆さんもぜひお楽しみに!



新たな価値を創造。これが未来を救う処方箋だ!

## 高知から生まれた「未来価値」

微生物のDNAから有効成分の設計図を取り出す

処方箋名：**メタゲノム**

キーワード：未利用生物資源の利用、遺伝資源、遺伝子資源

大西 浩平教授(総合研究センター 生命・機能物質部門)

微生物の作り出す有効成分は、古くから我々人間の暮らしには欠かせない資源として活躍してきました。太古なお酒、最近だと洗剤のバイオ酵素やサプリメント、抗生物質などがその代表的な例です。

しかしこの微生物、実はその99%以上が現在の技術では分離や培養が不可能で、研究を進めることができない「未知の資源」。そこでその秘められた可能性を解明し有効利用するために、近年注目を集めているのが「メタゲノム」です。

「ゲノム」とは**遺伝子資源**、つまりDNAのこと。従来のゲノム解析では単一の微生物を分離・培養することが必須でしたが、メタゲノム解析ではこの工程を経ることなく、採取したサンプル中の様々な微生物集団

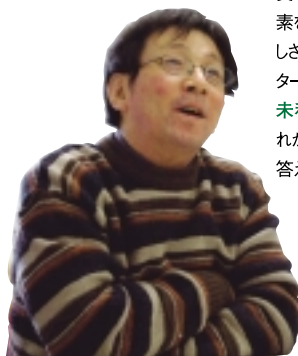


試験管の中には海底から採取してきた微生物が何百種類も混じり合った状態で入っている。こういった先端研究は、設備と現場、そして熱意あふれる人材が鍵となる。

の中から直接DNAを抽出し、クローン化します。たくさんのが混んでいるという意味で「メタ(高次の)ゲノム」。微生物を取り出さずとも、目的の有効成分を作る**設計図＝遺伝子情報**を直接手に入れられればよいというわけです。

またこの手法によって、これまであまり解明されていなかった**海洋の微生物**の研究も進展しています。特に高知大学は目の前が海という好立地。例えばこれまで陸生放線菌から作られてきた抗生物質に新たな展開をもたらす海洋放線菌の研究や、より低コストのバイオ燃料を実現する新たなセルロース分解酵素を海から探す研究など、高知大らしさを活かした取り組みがどんどんスタートしているのです。

**未利用生物資源の有効利用**。これが次世代への課題を解決する、答えのひとつとなるはずですよ。



マリンバイオ

遺伝子資源

遺伝資源

未利用生物資源の利用

生理活性物質

微生物類

生殖細胞の凍結保存に大きな転換! ガラス化技術のトップランナー

処方箋名：**生物種の保存**

キーワード：生殖細胞、凍結保存、低温生物学、ガラス化

葛西 孫三郎教授、枝重 圭祐教授(生命化学コース)

生殖細胞の凍結保存は、**バイオサイエンス**の分野において重要な技術のひとつです。この細胞凍結保存の際に大切なのは、細胞の中を凍らせないこと。中の水分が凍って氷晶ができる細胞は死んでしまいます。従来は**緩慢凍結法**という方法でそれを回避していましたが、近年それに変わる新たな技術として確立されたのが「**ガラス化凍結法**」です。私たちの生活に身近なガラスは、液体が冷やされて流動性を失い固まった状態のもので、結晶を形成していません。細胞もこれと同じ様に結晶を作らないガラス状の固体にすること(ガラス化)で、**半永久的な保存が可能**です。

このガラス化をスムーズに行うための保存液「**EFS液**(エチレングリコール・フィコール・スクロース液)」を開発したのが生命化学コースの葛西先生。EFS液を使用したガラス化凍結法によって、より短時間で低コストの細胞凍結が可能になりました。しかも生存率が非常に高く、21世紀の新たな**バイオテクノロジー**として世界中で導入がはじまっています。現在、基礎研究の分野では**実験動物の系統保存**や**遺伝資源の保存**に、畜産業界においては家畜の**改良・増殖**などに使

れているほか、**不妊治療**など先端医療の現場でも導入され多くの女性の負担を軽減しているこの技術。今後の目標は、凍結保存をより多くの動物種に広げていくことと凍結細胞の輸送手段の確立だそう。研究室の挑戦は、まだまだ続きます。



EFS液の開発には、研究室の学生たちも大きな役割を果たした。先生について世界的な研究に関われるのも、理系分野の魅力のひとつだ。



枝重 圭祐教授



葛西 孫三郎教授

ガラス化

生殖細胞

低温生物学

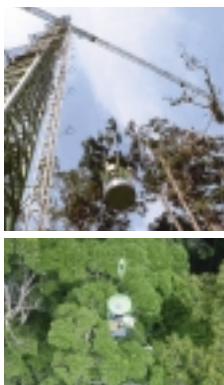
バイオセンサー

Save the Earth — その鍵を握る  
熱帯・亜熱帯地域の生態系を解明!

処方箋名：**生物の多様性**

キーワード：地球温暖化、生態系修復・再生、国際支援

市栄 智明准教授(国際支援学コース)



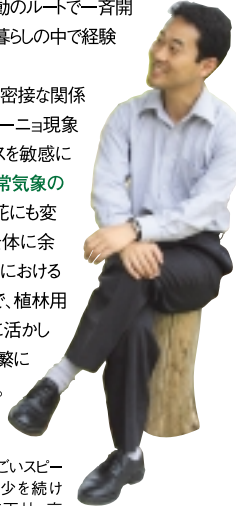
林冠の研究は大型クレーンで行われる。検証実験が進行中のため、現在は長期にわたって高知大院生が交代でボルネオ島に常駐する。

私たちが生きるこの地球に、夜空に光る月よりも解明が進んでいない場所があることを知っていますか？それが熱帯雨林の樹上部分、「林冠」と呼ばれる約40m以上の層です。ここは、生い茂った葉が太陽光を受けて盛んに光合成を行い、花や実ができ、昆虫や動物など様々な生物が集まってくる生命の営みの場。生態系の破壊が著しい熱帯・亜熱帯地域の森林において、再生への鍵を握るのがこの林冠だといわれています。高知大学がフィールドとするのは、世界で最も樹木の種類が豊富だと報告されているマレーシア・ボルネオ島の国立公園。ここで、林冠層で4～5年に一度、樹木が一斉に花を咲かせる「一斉開花」の研究を行っています。一斉開花は多様性の高い生物の集まる熱帯雨林特有の現象。昔から「普段は森にはいないイチが一斉開花の年だけそれを察知して森の中にたくさん巣を作る」とか、「インシシが異常に繁殖するので、インシシの大移動のルートで一斉開花がわかる」というように、現地の人々の暮らしの中で経験的に知られていました。

最近の研究では、一斉開花は大乾燥と密接な関係にあることがわかってきています。エルニーニョ現象などが起こった時に、木々がそのストレスを敏感に感じて開花するというのが、異常気象の続く近年の地球。その影響か、一斉開花にも変動が見られ、熱帯・亜熱帯の生態系全体に余波が及びはじめています。私たちは林冠における生理生態のメカニズムを解明することで、植林用の苗木を確保し生態系の修復・再生に活かしていくことを目指して、現地と大学とを頻りに行き来しながら研究を進めています。



ものすごいスピードで減少を続ける熱帯雨林。高知大学は、再生のためのマングローブの植林など、定期的な支援活動を続けている。



昆虫の食物連鎖を利用した  
人にも地球にもやさしい農のかたち

処方箋名：**天敵農業**

キーワード：環境保全型農業、地産地消、食の安心・安全

荒川 良教授(自然環境学コース)

食の安心・安全の実現や地球環境への配慮は、今や農業が直面する最大の課題のひとつ。そんな中、環境保全型農業の新たなホープとして注目を集めているのが、天敵を利用した害虫防除＝天敵農業です。その仕組みはこう。「害虫の天敵となる昆虫を投入する→天敵が害虫を捕食し、その増殖を抑制する→化学農薬を使わない、または散布回数を減らす」——そしてその結果、安心・安全な農産物を生産できるだけでなく、土壌の保全や修復にも貢献し、高齢化の進む農家の労力軽減や経費削減にもつながるとい、一石二鳥も三鳥もの価値を生むシステムなのです。

実は高知は、日本における天敵農業発祥の地。しかも、外来種ではなく地域に生息する土着天敵を利用した「地産地消型」の天敵農業研究の先進地です。現在、施設園芸が盛んな安芸郡芸西村で、実践的研究の拠点となる地域と大学との連携交流拠点施設が稼働中。さらに、2008年に高知大学が内閣官房に提案した、増殖した土着天敵を農業登録なしで利用できることを認める高知県天敵特区案がきっかけとなって、増殖した土着天敵を採取地と同一都道府県内に限り登録なし



ナスなどの害虫「タバコナジラミ」の天敵である「クロヒョウタンカスミカメ」。日本の代表的な土着天敵のひとつだ。

で利用を認める通達ですが、農水省・環境省によって2009年3月に発出されました。これにより土着天敵の利用は一気に加速する見込みです。環境に配慮した新たな農業のかたちが、高知から生まれているのです。



連携交流拠点施設は天敵農業の“移動研究室”。地元農家と連携してフィールドワークを行ったり、現場での取り組みを支える。



食糧自給

生態系修復・再生

地球温暖化

国際支援

水圏の物質循環

木質バイオマス

成長ホルモン

環境保全型農業

地産地消

食の安心・安全

省エネルギー

機能性食品

環境制御

# 教員紹介

人文学部 人間文化学科 人間基礎論コース		
教授	池田 和夫	人間の認知過程および家族構造の認知に関する研究
教授	加藤 勉	英語の複数構文と総称表現を中心とした、言語の意味論的研究
教授	塩坪 いく子	空間認知の発達・言語獲得
教授	角 忍	カント哲学の本質を最高善の問題という観点から解明する
教授	高橋 克己	ドイツ思想詩:古代ギリシアと西欧:プラトーン主義と教父
教授	武藤 整司	西洋近世哲学史、倫理学、生涯学習論を研究中
教授	安藤 恵崇	近現代の哲学思想・宗教哲学、宗教思想・神話学
准教授	西尾 美穂	統語範疇とは何か、またそれはどのように変化するのか
准教授	増田 匡裕	様々な対人関係の発達・解消過程のコミュニケーション
講師	日比野 桂	社会心理学・感情心理学(主に、対人関係における怒り)

人文学部 人間文化学科 地域変動論コース		
教授	上野 智子	日本語方言・四国地方方言・高知県方言の研究と海岸部地名の研究
教授	大槲 敦弘	戦国秦漢時代を中心とする中国古代史
教授	萩 慎一郎	日本近世社会史の研究、日本近世鉱山史、「浦」社会史
教授	杉谷 隆	環境問題を地域や自然観・倫理観の問題として考察すること
教授	清家 章	弥生時代～古墳時代を中心とした日本考古学
教授	津野 倫明	朝鮮出兵・大名長宗我部氏・南海路の研究
教授	吉尾 寛	明清期の民衆運動と地域社会、台湾における黒潮認知の歴史
准教授	小幡 尚	行刑史などを中心とする近代日本刑事政策史研究
准教授	川本 真浩	イギリスおよびイギリス帝国の近代史にみる地域イベント
准教授	後藤 拓也	アグリビジネスの地理学的研究

人文学部 人間文化学科 言語表象論コース		
教授	大西 宗夫	フランス文学・思想、特にラカンの精神分析の研究
教授	福島 尚	日本中世文学研究、古典文学における「説話」関連領域の研究
教授	藤吉 清次郎	19世紀アメリカ小説、アメリカ映像文化
教授	山本 秀人	漢文訓読、漢字の訓、古辞書(漢和辞書等)に関わる史的 research
准教授	鈴木 隆司	平安朝文学における作品の成立と享受
准教授	宗 洋	19世紀末からモダニズムの時期にかけての英文学
准教授	高橋 俊	近現代中国の社会・文化研究
准教授	田鎖 数馬	谷崎潤一郎研究、大正期文芸思潮研究

人文学部 国際社会コミュニケーション学科		
教授	岩佐 和幸	グローバル化とアジア地域の構造変動に関する政治経済学的研究
教授	岡本 克人	フランス語・日本語・英語の比較対照研究
教授	奥村 訓代	デジタル化時代にふさわしい外国語としての日本語教授法研究
教授	小澤 萬記	進化論の日本への影響、比較日本文化論
教授	小澤 照彦	現代英米哲学、応用倫理学
教授	上岡 克己	アメリカの自然・環境と文化・文学とのかかわりについて
教授	周 雲喬	異文化間のコミュニケーション、比較文化、中国唐代の漢詩
教授	中森 健二	中国の古代・中世文学、おもに詩文学と詩論の研究
教授	丸井 一郎	言語相互行為研究、特に異文化間対照、比較文化学
教授	村端 五郎	第二言語習得のメカニズム・土佐の英学史・小中連携の英語教育
教授	山下 興作	大衆文化論、演劇論、アート・マネジメント
教授	吉門 牧雄	イギリス言語文化、特にブラウニングの英詩研究
教授	LINGLEY, Darren Scott	異文化間コミュニケーション、英語教授法
准教授	古閑 恭子	アカン語(ガーナ)の記述研究、ガーナの言語状況の研究
准教授	斎藤 昌人	19世紀末から20世紀初頭にかけてのウィーン
准教授	佐野 健太郎	輸出主導型から内需主導型への経済構造転換における日中比較
准教授	佐野 由紀子	現代日本語の文法、特に程度表現に関する研究
准教授	塩原 俊彦	ロシアをめぐる諸問題
准教授	遠山 茂樹	情報通信技術(ICT)を利用した地域づくりに関する研究
准教授	中西 三紀	ラテンアメリカ地域の社会・経済構造の変動に関する研究
准教授	藤崎 好子	音声の自然性・第3言語習得・日中連関圏の言語政策と英語教育
准教授	持尾 伸二	英独の伝承文学、とくにパロッドについて
准教授	DOYLE, Howard	言説とジャンル、リテラシー教育、外国語(第二言語)の研究
准教授	HARE, Joanna Dorothy	和英翻訳や解説(四国に関するテーマ・深沢七郎の文学等)
講師	森 直人	十八世紀ブリテンの政治・経済思想についての研究
講師	HUG Stefan	ドイツ語の文法、文法の教え方、外来語
講師	OTLOWSKI, Marcus George	英作文教授法、英語教授法

人文学部 社会経済学科 総合地域政策学コース		
教授	青木 宏治	基本的な人権とローカル・ルール、公教育における権利のあり方
教授	上田 健作	保健医療NPOに関する日米比較研究
教授	大石 達良	日本企業の海外活動とくに欧州域内における活動の研究

教授	鈴木 啓之	現代日本の財政政策、地域経済と地域政策、公信用論
教授	横川 和博	日本独占禁止法制・英国独占禁止法制・国際経済法
准教授	石筒 覚	工業団地政策、マレーシアにおける地域政策・産業政策
准教授	稲田 朗子	医事刑法
准教授	上神 貴佳	現代日本における選挙や政党の研究
准教授	緒方 賢一	地域・農業・農村・環境問題に関する法社会学的研究
准教授	岡村 和明	雇用、所得分配のメカニズムに関する実証研究
准教授	肖 紅燕	青蔵高原ムスリム研究、中国農村家族、日本農村家族、土佐酒造史・茶業史
准教授	田中 康一	企業の本社等の立地メカニズムに関する研究
准教授	松本 充郎	行政法・環境法・法哲学、日米水法の総合的研究
准教授	霜田 博史	ドイツ統一後の連邦財政調整制度
講師	西島 文香	高知県における高齢者医療の現状と課題

人文学部 社会経済学科 経済企業情報学コース		
教授	池田 啓実	自律創発型組織の構造特性及びその社会基盤に関する分析
教授	伊丹 清	金融商品会計、減損会計、公正価値会計
教授	紀国 正典	金融の公共性・国際公共性と国際金融システムについての研究
教授	頭川 博	高度な生産力形成と富の拡大という資本主義の二大特色を研究
教授	田村 安興	流通経済史の研究、日本思想史、地域・国際経済の研究
教授	中川 香代	人事労務管理を中心とした企業経営管理の日英比較研究
准教授	円谷 友英	データのあいまいさに着目した区間解析に関する研究
准教授	中澤 純治	産業連関分析を中心とした地域経済の数量分析
准教授	堀井 智明	商法(会社法、保険法、手形・小切手法)に関する研究
准教授	山内 高太郎	国際会計基準、米国会計基準における現代会計理論の研究
講師	中道 一心	デジタルスチルカメラ産業における地域、国、企業の競争力の分析

教育学部 学校教育教員養成課程 教育科学コース		
教授	内田 純一	成人の自己教育活動の組織化としての社会教育学・生涯学習論研究
教授	馬場園 陽一	認知・メタ認知に関する理論的・発達の・実践的研究
教授	藤田 尚文	親子関係、学力問題、触覚・力覚の感性情報処理
准教授	岡谷 英明	ドイツの教育人間学に関する研究
准教授	金山 元春	ソーシャルスキル教育、教育相談
准教授	柳林 信彦	アメリカ教育改革政策に関する研究、地方教育行政機構に関する研究
准教授	加藤 誠之	現象学—実存主義哲学に基づく思春期問題の理解

教育学部 学校教育教員養成課程 障害児教育コース		
教授	稲富 眞彦	障害児の教育方法、ASDの行動特性の変容過程、障害の早期発見
教授	寺田 信一	脳発達障害の生理心理学的機能評価法・指導法の開発と実践研究
准教授	是永 かな子	北欧における特別ニーズ教育システムと実践についての研究

教育学部 学校教育教員養成課程 教育方法コース		
教授	上野 行一	対話による意味生成的な美術鑑賞教育の開発
教授	金子 宣正	日本とドイツの美術教育の理論と実践に関する研究
教授	刈谷 三郎	体育授業の日韓比較研究および陸上競技指導論
教授	川崎 謙	科学教育の理念・なぜ理科を学ばせなければならないか
教授	菊地 るみ子	家庭科教育および生活環境教育に関する理論的・実証的研究
教授	國本 景亀	生命論に立つ数学教育の理論構築と実践をテーマとしている
教授	中野 俊幸	数学的認識の記号論的研究および算数・数学学習指導法の研究
教授	那須 恒夫	英語の教授・学習過程、外国語教育の国際比較、異文化教授
教授	藤田 詠司	意思決定能力育成のための社会科の学習内容構成
教授	増尾 慶裕	児童生徒の学力を育成するための構成主義学習指導に関する研究
教授	山 中文	音楽科の授業構成研究、音楽活動中の子どもの発話研究
教授	渡邊 春美	国語科の授業活性化の研究、および国語科教育の歴史的研究
准教授	北 吉郎	新美南吉童話の研究および児童文学教材の学習指導研究
准教授	多良 静也	変種英語発音が非英語母語話者の理解に与える影響の研究
准教授	道法 浩孝	ニューロコンピューティング、電気・情報に関する教育

教育学部 学校教育教員養成課程 教育内容コース		
教授	市村 高男	中世日本社会を政治・経済・文化の諸側面から総合的に考察する
教授	遠藤 隆俊	中国の歴史、宋代以降の家族と宗族、東アジア交流史
教授	岡田 俊裕	近世および近現代日本の地理学史および地理教育史
教授	織田 進	可換代数の研究、とくに環の不岐拡大、環上の多項式環に関する領域
教授	小比賀 香苗	イギリス文学におけるファンタジーの形状と意味
教授	蒲生 啓司	環境および生体中の微量生理活性物質の化学分析に関する研究
教授	久野 眞	日本語方言の記述的研究
教授	國府 俊一郎	固体の電子系と原子核を対象にした量子力学多体問題
教授	田中 秀文	火山岩による古地磁気の強度と方向の変動に関する研究
教授	谷口 雅基	英語音声学、音声教育、国際コミュニケーションのための英語教育
教授	中西 秀男	半導体特性の非接触評価、触覚・力覚の感性情報処理
教授	中村 治	点や線や円板等々でできた図形の計算機を用いた研究
教授	原崎 道彦	西洋哲学史(ヘーゲル)、快樂論、リラクゼーション論
教授	山田 敦子	ダンスの学習指導方法、念仏・風流系芸能の所作

准教授	佐藤 淳郎	可換代数学、とくにネーター環の拡大についての研究
准教授	高橋 美樹	沖縄のポピュラー音楽に関する研究、レコード産業論
准教授	原田 哲夫	子どもの生活リズム研究、アメンボ類とくに外洋棲ウミアメンボ研究
准教授	藤塚 吉浩	大都市衰退地区の再生と中心市街地の再活性化に関する研究
准教授	松原 史典	統語(文法)理論により様々な言語現象を説明すること
准教授	柳川 平太郎	近世・近代のドイツを中心とするヨーロッパ史研究
准教授	山口 俊博	やわらかい幾何学(トポロジー)の研究

## 教育学部 生涯教育課程 芸術文化コース

教授	北川 修久	書写書道教育の学習方法と古典における表現研究
教授	宮田 信司	ピアノ演奏法、指導法についてロマン派作品を中心に研究
教授	吉光 誠之	木工芸における、指物、挽物、割物の技法および表現に関する研究
教授	脇岡 宗一 (総一)	オーボエを中心とした管楽器奏法及びロマン派作品の研究
教授	土井原 崇浩	油彩画による具象表現の研究と古典インク(没食子インク)の研究
准教授	小原 浄二	J.S.バッハを中心とするバロック期の声楽作品の研究
准教授	玉木 尚之	中国古代の芸術観(おもに音楽観)
准教授	前田 克治	今日の作曲、および芸術表現を技法的、美学的側面から研究
講師	阿部 鉄太郎	塑造による具象彫刻の研究
講師	吉岡 一洋	グラフィックデザインにおけるマス・イメージの創造

## 教育学部 生涯教育課程 スポーツ科学コース

教授	稲田 俊治	地域スポーツの振興条件や学校との関わりについて
教授	神家 一成	スポーツ運動の学習過程および指導過程に関する研究
教授	駒井 説夫	全身持久力に関する研究、身体運動と健康・体力について
教授	本間 聖康	生活習慣(とくに運動や栄養)と健康や体力の関係について
教授	野地 照樹	サッカーのコーチングと高知大サッカー部の指導研究

## 教育学部 生涯教育課程 生活環境コース

教授	裏垣 博	超音波による工業材料や構造物の非破壊試験・検査
教授	田村 和子	被服心理、色彩、被服設計と開発、被服教育に関する研究
教授	善喜 満生	宇宙放射線に関するコンピュータシミュレーション
教授	藤本 富一	国籍について、外国人の人権について
准教授	赤松 直	鉱物とその融解物の分子動力学シミュレーション、Web教材開発
准教授	伊谷 行	海産無脊椎動物の自然史学、河口域・干潟域の生態学
准教授	森田 美佐	生活経営学・ジェンダー平等に関する研究

## 教育学部 附属教育実践総合センター

教授	小島 郷子	家庭科教育および消費者教育に関する理論的・実証的研究
准教授	古口 高志	ストレスと心身の健康との関連、心身症への認知行動療法

## 理学部 理学科 数学コース

教授	大坪 義夫	非線形評価関数を伴うマルコフ決定過程論とその応用に関する研究
教授	加藤 和久	力学系の安定性、フラクタル幾何学、エルゴード理論
教授	下村 克己	安定ホモトピー論、球面のホモトピー群
教授	諸澤 俊介	複素力学系、クライン群論
教授	野間口 謙太郎	制約条件下の統計的推測、不完全データの統計的推測
教授	逸見 豊	高次元多面体の研究、代数的方法を用いたトポロジーの研究
准教授	池田 徹	3次元多様体論、結び目理論
准教授	大浦 学	符号、不変式、モジュラ形式の境界部分
准教授	小松 和志	準周期タイリング、分子の立体構造の配置空間
准教授	土基 善文	非可換代数幾何学、非可換環論
准教授	中野 史彦	数理物理学、とくにシュレーディンガー方程式などの諸性質を研究
准教授	福岡 慶明	偏極多様体の不変量による分類とその応用について

## 理学部 理学科 物理学コース

教授	岩崎 正春	クォーク物質の超伝導、ハドロン弦模型、量子多体系の集団運動
教授	大盛 信晴	宇宙線のエネルギースペクトル、組成、時系列の研究
教授	西岡 孝	極低温・高圧下における希土類化合物の磁性研究
教授	松村 政博	核磁気共鳴・核四重極共鳴による磁性、超伝導の研究
准教授	飯田 圭	高密度物質の理論
准教授	加藤 治一	遷移金属酸化物など強相関電子系の合成およびNMR測定
准教授	島内 理恵	燃料電池など電力用電池に必要な機能性セラミックスの開発と物性
准教授	津江 保彦	高エネルギー原子核衝突での物理の理論的研究
准教授	中村 亨	超高エネルギー宇宙線、および低周波自然電磁波の研究
准教授	西澤 均	機能性材料の合成と物性評価

## 理学部 理学科 生物科学コース

教授	石川 慎吾	河川植生の動態と攪乱地に生育する植物の生活様式の研究
教授	佐々木 邦夫	魚類の形態学的研究
教授	種田 耕二	原生动物の走性、魚類の呼吸生理、動物の行動生理
教授	町田 吉彦	アシロ目・ウナギ目・ゲンゲ科の分類、高知県自然史

教授	松岡 達臣	原生动物の環境応答およびクリプトビオシスの分子機構
准教授	遠藤 広光	魚類の分類・系統学に関する研究
准教授	岡本 達哉	地衣学
准教授	松井 透	アブラコケ目蘚類の分類、キンシゴケ科蘚類の分類、四国の蘚類相
准教授	三宅 尚	花粉分析に基づく後期更新世以降の植生史の解明

## 理学部 理学科 地球科学コース

教授	石塚 英男	太古代大陸地殻の形成プロセスと進化に関する研究
教授	臼井 朗	海底鉱物資源の形成過程、形成条件
教授	近藤 康生	二枚貝類の進化古生態学
教授	Santosh Madhava Warrior	変成岩研究による Gondwana 超大陸の集合・分裂・移動過程解明
教授	吉倉 紳一	珪長質マグマ溜まりプロセスと大陸地殻の形成・発展過程の研究
准教授	岩井 雅夫	南極氷床発達史と海洋生態系の形成・進化に関する研究
准教授	中川 昌治	セラミックス原料の鉱物学鉱床学、南インドの鉱物資源
准教授	奈良 正和	野外調査に基づく生痕学的、古生態学的、堆積学的研究

## 理学部 応用理学科 情報科学コース

教授	菊地 時夫	インターネットにおける気象情報提供システムの研究
教授	豊永 昌彦	組合せ最適解の計算機算法(回路の配置・配線自動化)
教授	中込 照明	量子モナド論、情報多体系、オブジェクト指向、統計
教授	村岡 道明	システムおよびLSIのEDA技術の研究、データベースの研究
准教授	伊藤 宗彦	層型空間の開基、多角形の位相的性質
准教授	岡本 竜	知識工学と学習科学
准教授	塩田 研一	暗号、計算代数、実験整数論、グラフ理論、符号理論
准教授	本田 理恵	データマイニング、機械学習、画像認識、惑星情報学
准教授	森 雄一郎	ファジィ工学、バイオメトリクス認証、聴覚障害者支援技術
助教	三好 康夫	学習支援環境デザイン、Webインテリジェンス
助教	藤沢 潤	グラフ理論(閉路問題、因子理論など)

## 理学部 理学科/化学コース、応用理学科/応用化学コース

教授	阿万 智治	アミノ酸を含む光学活性金属錯体・μ-ヒドロキソ多核錯体の研究
教授	清岡 俊一	後期遷移金属による高効率不斉アルドール反応の開発と応用の研究
教授	小槻 日吉三	有機合成化学、高圧有機化学、天然物合成化学、環境調和型合成化学
教授	北條 正司	非水溶媒環境下における溶存化学種の同定と定量
教授	吉田 勝平	発光性色素および金属錯体の創出と光機能材料への応用
准教授	上田 忠治	新規金属錯体の合成および酸化還元反応解析
准教授	金野 大助	有機反応化学および量子化学計算による分子構造・反応解析
准教授	藤山 亮治	反応速度および分子軌道計算による有機反応機構解析
准教授	米村 俊昭	新規機能性錯体および生体系モデル錯体の開発と評価
准教授	渡辺 茂	有機-無機複合ナノ粒子を利用した超高感度バイオセンサーの開発

## 理学部 応用理学科 海洋生命・分子工学コース

教授	市川 善康	天然物化学、生物有機化学、糖化学に関する研究
教授	川村 和夫	出芽ホヤの生殖担当細胞が示す未分化性と分化転換のしくみ
教授	鈴木 知彦	グアニジノキナーゼの構造、機能および進化
教授	藤原 滋樹	動物の胚発生、再生、無性生殖を制御する遺伝子の研究
准教授	湯浅 創	酵素の生化学と分子進化
講師	中野 啓二	有機金属錯体合成、触媒反応の開発、機能性有機化合物の開発
助教	宇田 幸司	酵素の構造と機能の進化に関する研究
助教	砂長 毅	群体ホヤの幹細胞システムを制御する遺伝子の研究

## 理学部 応用理学科 災害科学コース

教授	岡村 眞	地震長期予測研究、高分解能音波探査および高品位コア採取技術の開発
教授	田部井 隆雄	GPSによる地殻変動計測、地殻変動のシミュレーション
教授	東 正治	雲母粘土鉱物の混合層構造解析
教授	横山 俊治	斜面災害の野外科学、テーマ:四国山地は尾根から裂ける
教授	佐々 浩司	模擬実験による竜巻・ダウンバーストの解明、メソ気象擾乱の観測
准教授	橋本 善孝	沈み込みプレート境界地震発生帯物質科学・物質-流体相互作用
准教授	松岡 裕美	浅海底活断層の研究、津波堆積物の研究
准教授	村上 英記	地震火山活動に関連する流体の研究、月内部構造の研究
助教	村田 文絵	バングラデシュに洪水をもたらす降水システムの研究

## 理学部 附属高知地震観測所

准教授	久保 篤規	斜め沈み込みによる四国周辺における地震発生の力学および媒質の研究
-----	-------	----------------------------------

## 理学部 附属水熱化学実験所

教授	柳澤 和道	水熱反応によるセラミックス合成と廃棄物の処理・処分
准教授	梶芳 浩二	水熱法・電気化学法による機能性無機材料の合成と物性評価
助教	恩田 歩武	バイオマス変換に有効な新規固体触媒反応に関する研究

# 教員紹介

医学部	医学科	解剖学
教授	由利 和也	神経情報伝達系とステロイドホルモン
准教授	平野 伸二	神経回路形成および形態形成における細胞接着分子の役割
准教授	三井 真一	発達障害の診断・治療の基礎研究
助教	足立 貴世美	ストレス刺激による疾患誘発機構
助教	大迫 洋治	自閉症における共感障害の診断治療法に関する基礎研究
助教	小林 俊博	活性酸素と酸化ストレス
助教	Zinchuk Vadim S.	毛細管における輸送体の解析

医学部	医学科	病理学
教授	降幡 睦夫	ヒト腫瘍におけるがん関連遺伝子発現異常と腫瘍動態
教授	李 康弘	発がんのメカニズムとその遺伝的修飾の研究
准教授	小山内 誠	実験病理
准教授	竹内 保	腫瘍発生進行の分子メカニズムを病理学的視点より研究

医学部	医学科	病理診断部
准教授	弘井 誠	造血器疾患の臨床病理学的研究
講師	松本 学	人体病理

医学部	医学科	病理学
助教	岡本 純佳	骨軟部腫瘍における臨床病理学および分子生物学的研究
助教	倉林 睦	人体病理

医学部	医学科	病理診断部兼病理学
助教	井口 みつこ	人体病理
助教	戸井 慎	人体病理

医学部	医学科	生理学(統合生理学)
教授	栴 秀人	絆の神経生物学
准教授	奥谷 文乃	化学感覚の中核性情報処理機構
助教	谷口 睦男	香り・フェロモンを感知する脳の仕組み
助教	村田 芳博	化学感覚情報に基づくLTP形成のメカニズム

医学部	医学科	生理学(循環制御学)
教授	佐藤 隆幸	心臓病の新しい治療法の開発
准教授	柿沼 由彦	心臓エネルギー代謝調節因子に基づく新しい循環器治療の研究
助教	有川 幹彦	アセチルコリンの心筋保護作用の分子機序に関する研究
助教	鄭 燦	自律神経制御による心不全等難治性疾患の新治療法開発

医学部	医学科	生化学
教授	本家 孝一	遺伝子を超えた生命の不思議・生体膜の構造とはたらき
准教授	戸田 勝巳	エストロゲンの生理作用の解析
助教	久下 英明	脳性分化の分子機構
助教	宮原 馨	遺伝子発現・調節、精子形成

医学部	医学科	遺伝子機能解析学
教授	麻生 悌二郎	転写(とくに伸長段階)の制御に関する研究
助教	安川 孝史	転写伸長因子Elongin Aの新規機能の解明

医学部	医学科	生体分子構造学
教授	岩堀 淳一郎	構造に基づく分子機能予測、食品微生物リスク評価
准教授	三木 洋一郎	タンパク分子の計算機シミュレーション/医学教育学
助手	月出 章	暗黒物質探索器における低速重粒子と物質との相互作用

医学部	医学科	薬理学
教授	横谷 邦彦	ストレスにおける交感神経—副腎髄質系の脳内賦活機序に関する研究
准教授	岡田 尚志郎	副腎髄質からのカテコールアミン分泌の中核性調節機構
助教	清水 孝洋	ストレス反応に関与する交感神経—副腎髄質系の脳内制御機構の研究
助教	田中 健二郎	交感神経系賦活に関与する視床下部の脊髄投射性ニューロンの解析

医学部	医学科	微生物学
教授	大畑 雅典	ウイルス発癌、微生物と血液疾患、造血器腫瘍の病態解明
准教授	松崎 茂展	バクテリオファージを利用する細菌感染症制御法の開発

医学部	医学科	寄生虫学
准教授	是永 正敬	寄生虫病学、寄生虫感染防御機構の研究
助教	熊沢 秀雄	有害節足動物、および節足動物が介在する寄生虫の生活史

医学部	医学科	免疫学
教授	宇高 恵子	T細胞による抗原認識機構の研究、悪性腫瘍の免疫治療

助教	飯山 達雄	癌ワクチンの研究開発、臨床試験の方法論
助教	福田 絵美	T細胞による抗原認識の分子機構に関する研究

医学部	医学科	法医学
教授	橋本 良明	遺伝性合併優傷病態、法アルコール学、自殺予防に関する研究
助教	古宮 淳一	自殺予防に関する社会病理学的研究
助教	中西 祥徳	法医学分子生物学(個人識別、物体検査、病態病態解析)
助教	西村 拓起	体組織中薬物濃度を指標とした病態解析に関する研究

医学部	医学科	医療学
教授	阿部 眞司	日本社会における死生観の研究
教授	佐藤 純一	医学概論、医療思想史、医療社会学、医学哲学
教授	菅沼 成文	産業医学と環境医学、とくに職業性呼吸器病
教授	安田 誠史	高齢者の健康維持に関連する要因、がん登録の精度向上
准教授	都竹 茂樹	メタボ予防・改善のeラーニングプログラムの開発
助教	栄特 勝光	肺疾患とエビジェネティクスの関連性の研究
助教	弘田 量二	アレルギー進展のメカニズム解明と予防法の開発
助教	宮野 伊知郎	高齢者の生活機能維持に関連する要因

医学部	医学科	医療管理学
教授	小林 道也	消化器癌に対する内視鏡外科手術の開発・教育と癌化学療法臨床試験

医学部	医学科	家庭医療学(寄附講座)
客員教授	阿波谷 敏英	地域における医学教育、プライマリ・ケアの医療経済的意義
講師	松下 雅英	高齢者におけるインフルエンザワクチン接種後の効果に関する研究

医学部	医学科	消化器内科学
准教授	西原 利治	消化器病学/肝臓疾患
准教授	西森 功	消化器病学/胆膵疾患
講師	岩崎 信二	消化器病学/肝臓疾患
講師	小野 正文	消化器病学/胆膵疾患
助教	耕崎 拓大	消化器病学/胆膵疾患
助教	高橋 昌也	消化器病学/肝臓疾患
助教	東谷 芳史	消化器病学/胃腸疾患
助教	野崎 靖子	消化器病学/肝臓疾患
助教	廣瀬 享	消化器病学/肝臓疾患
助教	水田 洋	消化器病学/胃腸疾患

医学部	医学科	内分泌代謝・腎臓内科学
教授	寺田 典生	腎臓病を含めた生活習慣病の病態と新規治療法の研究
准教授	池田 幸雄	インスリン作用の分子機序の解明と糖尿病治療への応用
講師	西山 充	食欲調節機構の解明と新規肥満症治療法の研究
助教	井上 眞理	動脈硬化進展機序と進展抑制についての研究
助教	香川 亨	降圧薬の腎細胞保護効果と慢性腎臓病治療への応用
助教	高田 浩史	インスリン抵抗性の分子機序の解明と新規治療法の研究
助教	田口 崇文	ホルモン産生腫瘍に対する新規分子標的療法の確立
助教	次田 誠	ステロイドホルモンの分子機序の解明と新規治療の開発
助教	堀野 太郎	腎細胞障害に影響する因子の同定と予防に関する研究
助教	森田 達仁	慢性腎臓病の進行に関する分子生物学的機序の解明

医学部	医学科	血液・呼吸器内科学
教授	横山 彰仁	呼吸器病、アレルギー疾患の病態、診断および治療
講師	窪田 哲也	肺癌の治療
講師	砥谷 和人	造血器腫瘍の治療
助教	池添 隆之	新規白血病治療法の開発
助教	岩本 博志	閉塞性肺疾患の治療
助教	大西 広志	閉塞性肺疾患および間質性肺炎の病態、診断および治療
助教	小松 直樹	肺癌における癌抑制遺伝子の新規候補の発見とその機能解析
助教	塩田 直樹	呼吸器疾患の治療
助教	谷口 亜裕子	血液疾患の治療
助教	坂東橋 聖太郎	造血器腫瘍とウイルス
助教	山根 高	呼吸器疾患の治療

医学部	医学科	老年病・循環器・神経内科学
教授	土居 義典	心筋症および老年者の心血管病に関する研究
准教授	西永 正典	寝たきり予防と健康寿命を延ばすための研究
助教	北岡 裕章	虚血性心疾患、心筋症
助教	松村 敬久	心エコー図学、心筋症

医学部	医学科	内科(老年病科・循環器)
講師	高田 淳	高齢者の心血管疾患に関する研究
講師	矢部 敏和	高齢者の心血管疾患に関する研究



## 医学部 医学科 内科(老年病科・神経)

助教	大崎 康史	パーキンソン病・類縁疾患
助教	森田 ゆかり	パーキンソン病・類縁疾患

## 医学部 医学科 小児思春期医学

教授	脇口 宏	小児血液・腫瘍性疾患／感染症／臨床免疫
准教授	藤枝 幹也	移植後の感染症とPTLDの発症に対する予防と対策
講師	久川 浩章	小児癌に対する免疫療法、化学療法後の免疫能
講師	前田 明彦	ヘルペス科ウイルスの潜伏、発症に関する研究
助教	荒木 まり子	造血幹細胞移植における二次性免疫不全の病態について
助教	佐藤 哲也	ヘルペスウイルス感染と宿主免疫応答
助教	篠原 示和	小児アレルギー疾患の発症と寛解における免疫機序の解明
助教	堂野 純孝	小児悪性疾患患者の免疫能について
助教	細川 卓利	小児の血管炎と動脈硬化での好中球関与についての病理学的検討

## 医学部 医学科 (周産母子C)

助教	高杉 尚志	こどもの循環器疾患と救急医療に関する研究、国際医療貢献活動
助教	松下 憲司	合併症妊娠から出生した新生児の成長と発達

## 医学部 医学科 神経精神科学

教授	加藤 邦夫	ストレスが脳機能に及ぼす影響の生理学的研究
准教授	下寺 信次	統合失調症、気分障害の心理教育、早期発見・早期治療
講師	泉本 雄司	発達障害の早期発見と早期介入
講師	上村 直人	認知症と自動車運転
助教	掛田 恭子	精神腫瘍学、緩和医療、リエゾン精神医学、医学教育
助教	西原 真理	精神障害におけるドーパミン神経伝達の役割
助教	藤田 博一	統合失調症、気分障害の心理教育
助教	諸隈 一平	精神疾患における心理教育
助教	山内 祥豪	統合失調症の発症メカニズムの生物精神医学的研究

## 医学部 医学科 皮膚科学

教授	佐野 栄紀	乾癬、皮膚癌、膠原病、アトピー性皮膚炎
助教	高石 樹朗	乾癬発症に関わる分子機構の解明、上皮細胞の生物学
助教	三好 研	Stat3阻害による乾癬の治療

## 医学部 医学科 皮膚科

講師	中島 喜美子	乾癬、アトピー性皮膚炎における免疫変調の研究
助教	中島 英貴	メルケル細胞癌におけるポリオーマウイルスの関与
助教	山本 真有子	関節症性乾癬
助教	横川 真紀	日光角化症、皮膚癌、皮膚美容

## 医学部 医学科 放射線医学

教授	小川 恭弘	放射線増感剤の開発
准教授	西岡 明人	頭頸部癌・食道癌・膵臓癌等の放射線治療
助教	刈谷 真爾	放射線による癌細胞死のメカニズム、前立腺癌の放射線治療
助教	山西 伴明	放射線増感剤併用動脈塞栓療法の開発

## 医学部 医学科 放射線部

准教授	福本 光孝	がんの糖代謝によるイメージング診断、慢性疼痛と脳機能の可塑性
-----	-------	--------------------------------

## 医学部 医学科 放射線科

講師	久保田 敬	画像診断、超音波診断(乳腺、甲状腺)
----	-------	--------------------

## 医学部 医学科 外科学講座外科1

教授	花崎 和弘	肝胆膵、新しい人工臓器の開発
准教授	杉本 健樹	乳腺・内分泌
講師	岡林 雄大	肝胆膵
講師	並川 努	胃・小腸・大腸、消化器腹腔鏡手術
助教	岡本 健	大腸、消化器腹腔鏡手術
助教	緒方 宏美	小児外科
助教	北川 博之	食道、一般外科
助教	駄場中 研	乳癌、大腸、消化器一般外科
助教	雨宮本 憲弘	乳腺・内分泌
助教	前田 広道	肝胆膵
助教	船越 拓	乳腺・内分泌

## 医学部 医学科 外科学講座外科2

教授	笹栗 志朗	心臓と血管外科手術の開発
助教	穴山 貴嗣	肺癌薬剤感受性決定遺伝子に関する研究
助教	岡崎 泰長	内視鏡手術とロボット手術
助教	福富 敬	腹部動脈瘤手術時の血圧調節

## 医学部 医学科 外科(二)

講師	西森 秀明	胸部大動脈手術の低侵襲化
講師	前田 博教	細胞組織移植の医療への応用に関する研究
助教	石川 忠則	食道癌治療と癌化過程についての研究
助教	川田 通広	血管内レーザー治療についての研究
助教	久米 基彦	ヒト肺癌細胞株の生物学的特徴に基づく予後予測の試み
助教	栗山 元根	皮弁の虚血再灌流障害に関する研究

## 医学部 医学科 麻酔科蘇生科

講師	北岡 智子	緩和ケアにおけるがん性疼痛に関する研究
助教	矢田部 智昭	周術期血糖管理における人工臓器の有用性に関する研究

## 医学部 医学科 麻酔科学

助教	島津 朱美	安全な産科麻酔に関する研究
助教	井本 明伸	周術期管理におけるアミノ酸の有用性に関する研究

## 医学部 医学科 産科婦人科学

教授	深谷 孝夫	生殖・生理学・生殖内分泌学
准教授	前田 長正	子宮内膜症の発症に関わる子宮内膜抗原と腹腔免疫環境の解析
講師	小栗 啓義	婦人科がんの診断・治療および緩和ケアの研究
講師	池上 信夫	周産期(出生前診断)、更年期(ホルモン補充療法)
講師	泉谷 知明	子宮内膜症に関する研究～基礎から臨床まで～
助教	山田 りこ	卵巣癌の腫瘍内溶液を用いた悪性度診断

## 医学部 医学科 整形外科

教授	谷 俊一	圧迫性脊髄・神経障害の機能診断法と治療法の開発
講師	池内 昌彦	関節・スポーツ関連疾患の診療および関節痛の基礎研究
助教	川崎 元敬	MRガイド下集束超音波治療(FUS)の臨床研究
助教	谷脇 祥通	手の外科、マイクロ手術の臨床研究

## 医学部 医学科 整形外科

講師	谷口 慎一郎	脊椎脊髄病、脊髄機能評価
講師	武政 龍一	脊椎脊髄病、骨粗鬆症、人工材料、脊柱変形、脊椎スポーツ障害

## 医学部 医学科 眼科学

教授	福島 敦樹	眼免疫疾患発症機序の解析
助教	西野 耕司	低侵襲網膜硝子体手術、眼内血管新生
助教	松下 恵理子	網膜硝子体疾患、血管新生黄斑症の治療
助教	山添 健二	腫瘍、眼瞼下垂、外眼一般

## 医学部 医学科 眼科

講師	岸 茂	眼循環
助教	小松 務	緑内障
助教	中茎 敏明	網膜硝子体疾患、血管新生黄斑症の治療
助教	西内 貴史	網膜硝子体疾患

## 医学部 医学科 耳鼻咽喉科学

教授	兵頭 政光	発生および嚥下の機能解析と治療、喉頭機能の加齢変化
准教授	中谷 宏章	頭頸部癌の低侵襲治療、顔面神経麻痺の早期予後診断
助教	西岡 利恵	内耳の水代謝に関する研究

## 医学部 医学科 耳鼻咽喉科

講師	柿木 章伸	めまい・難聴の診断と治療
講師	比野平 恭之	鼻副鼻腔内視鏡手術、中耳炎に対する手術治療
助教	弘瀬 かほり	唾液分泌機能の中枢調節機能について
助教	西窪 加緒里	音声障害と嚥下障害の診断と治療
助教	宋 碩柱	睡眠時呼吸障害、扁桃病感染症

## 医学部 医学科 脳神経外科学

教授	清水 恵司	脳腫瘍に対する標的・遺伝子治療、神経再生医療、てんかん
助教	東 洋一郎	脳内免疫応答におけるグリア細胞の機能解析
助教	八幡 俊男	ゲノムの可塑性の制御に着目した発ガン機構の解明

## 医学部 医学科 脳神経外科

講師	田村 雅一	悪性脳腫瘍に対する遺伝子治療等新規治療の開発
講師	中林 博道	脳腫瘍、脳疾患への分子生物学的アプローチ
助教	井川 直樹	脳血管障害、機能的脳神経外科
助教	中居 永一	ヒトGlioblastoma由来の腫瘍幹細胞の分析

# 教員紹介

## 医学部 医学科 泌尿器科学教室

教授 執印 太郎 VHL病遺伝子抑制遺伝子の異常の解析  
 准教授 井上 啓史 癌浸潤、癌転移、血管新生における分子生物学  
 助教 幸島 尚 癌の浸潤、転移に関わる血管新生の役割と抗血管新生治療  
 助教 西川 宏文 バクテリオファージを用いた感染症治療研究

## 医学部 医学科 泌尿器科

講師 鎌田 雅行 腎細胞癌におけるVHL遺伝子の機能解析  
 助教 田村 賢司 前立腺癌における分子標的治療候補遺伝子の解析  
 助教 深田 聡 腎細胞癌の転移における血管新生の研究  
 助教 山崎 一郎 CGH等の分子生物学的手法を用いた前立腺癌研究

## 医学部 医学科 歯科口腔外科

教授 山本 哲也 口腔癌の集学的治療、口腔粘膜疾患の免疫学的検討  
 講師 山田 朋弘 顎顔面の先天異常および変形症に関する研究  
 助教 佐竹 秀太 顎運動とストレスとの関係  
 助教 北村 直也 口腔癌のセンチネルリンパ節同定法の開発  
 助教 吉村 友秀 アンドロゲンレセプターを標的とした唾液腺癌の新規治療戦略  
 助教 笹部 衣里 口腔癌におけるHIF1 $\alpha$ の機能解析

## 医学部 医学科 病態情報診断学

教授 杉浦 哲朗 循環器内科学、臨床検査医学  
 准教授 公文 義雄 内分泌・代謝学、リウマチ学  
 助教 上岡 樹生 呼吸器学、血液学

## 医学部 医学科 輸血部

講師 今村 潤 輸血学、血液内科学

## 医学部 医学科 検査部

講師 竹内 啓晃 感染症学  
 助教 山崎 文靖 循環器内科学

## 医学部 医学科 手術部

助教 山本 正樹 心筋虚血再灌流障害のメカニズム

## 医学部 医学科 救急部

准教授 山下 幸一 周術期における呼吸・循環・代謝管理に関する研究

## 医学部 医学科 集中治療部

講師 割石 精一郎 心臓血管外科における低侵襲化に関する研究  
 助教 阿部 秀宏 モニタリングによる周術期輸液管理についての検討  
 助教 神元 裕子 麻酔業務における質と量の評価、安全で効率的な手術部運営の検討

## 医学部 医学科 リハビリテーション部

准教授 石田 健司 リハビリテーション医学と介護福祉機器の研究  
 助教 永野 靖典 地域医療におけるリハビリテーション医学の研究

## 医学部 医学科 総合診療部

教授 瀬尾 宏美 臨床技能トレーニングにおける教授法や評価法に関する研究  
 准教授 武内 世生 感染対策、心のケア、HIV診療、医学教育、総合診療  
 講師 浅羽 宏一 一般内科学、内分泌代謝・糖尿病学、漢方医学、医学教育学  
 助教 上原 良雄 細菌—細菌間の相互干渉に関する研究、市中黄色ブドウ球菌の疫学調査  
 助教 北村 聡子 不整脈の治療および予後に関する研究

## 医学部 医学科 薬剤部

教授 宮村 充彦 臨床薬理学、天然物化学

## 医学部 医学科 英語

講師 ダニエル・リブル  
 日本の古典音楽とアイルランドの民族音楽の比較

## 医学部 医学科 体育

講師 野田 智洋 学習者が運動経過を把握する能力に関する研究

## 医学部 医学科 医学情報センター

教授 奥原 義保 医療情報システム、医療情報データの解析  
 准教授 畠山 豊 医療情報解析、医療画像処理に関する研究  
 講師 渡部 輝明 予防医学におけるデータベースを利用した研究  
 助教 片岡 浩巳 医療情報データベースからの知識発見に関する研究  
 助教 中島 典昭 医療情報データベース解析

## 医学部 看護学科 基礎看護学

教授 吾妻 健 感染症のコントロール対策に関する研究  
 教授 栗原 幸男 保健医療分野でのIT活用と保健医療データベース解析  
 教授 坂本 雅代 看護技術の教育方法および脊髄損傷者の看護に関する研究  
 講師 平瀬 節子 看護技術教育方法、看護師のキャリア発達に関する研究  
 助教 岡田 久子 知的障害のある青年期女子のセクシュアリティに関する研究  
 助教 野村 晴香 便秘緩和の看護ケアおよび看護技術教育に関する研究

## 医学部 看護学科 臨床看護学

教授 尾原 喜美子 子どもの発達と看護、障害児の家族看護に関する研究  
 教授 高橋 永子 看護学生の自己受容性および医療安全に関する研究  
 教授 溝淵 俊二 自然免疫(身体の抵抗力)を活性化するための食品の研究・開発  
 准教授 戸田 由美子 精神科熟練看護師の看護介入と患者理解の仕方についての研究  
 講師 青木 早苗 がん看護・緩和ケア・ターミナルケアに関する研究  
 講師 川島 美保 慢性疾患をもつ子どもの居場所、小児家族看護における調和、コーチング  
 講師 濱田 佳代子 豊かな出産体験を促進するケアに関する研究  
 講師 山脇 京子 胃がん手術体験者の職場復帰に伴うストレスコーピング  
 助教 北村 亜希子 早産による低出生体重児の母親の育児不安、看護学生の自己受容性と不安  
 助教 高橋 美美 健康と看護職(保健師・看護師)について  
 助教 安川 和希 周手術期看護、がん看護(消化器系癌)

## 医学部 看護学科 地域看護学

教授 片岡 万里 高齢者のQOLに関する研究  
 教授 高尾 俊弘 ストレスと生体反応に関する研究  
 講師 齋藤 美和 慢性疾患患者に関する研究、看護管理学に関する研究  
 講師 藤田 晶子 病院から在宅への移行期の看護、チームケアと看護の役割  
 助教 小笠原 木綿 看護師における嚔下障害患者の効率的な看護ケアに関する研究  
 助教 笠原 聡子 医療ワークフローおよび医療需給バランスに関する研究  
 助教 杉本 加代 高齢者が地域で生活継続するための福祉に関する研究

## 農学部 農学科 暖地農学コース

教授 尾形 凡生 果樹の成長制御機構の解明とケミカルコントロール技術の開発  
 教授 島崎 一彦 花卉の生長と発育の制御・植物の器官研究・県特産花卉の生産研究  
 教授 村井 正之 稲の収量性等の遺伝研究、早生、晩生、多収品種の開発  
 准教授 西村 安代 野菜の養液栽培・生理障害と対策・環境保全型農業に関する研究等  
 准教授 松川 和嗣 発生工学および分子生物学的手法による土佐赤牛の生産技術の研究  
 准教授 宮内 樹代史 収穫後農産物の貯蔵・品質評価、太陽光エネルギーの農業への利用研究  
 准教授 宮崎 彰 食用作物の窒素および炭素代謝、熱帯作物の栽培生理  
 准教授 安武 大輔 植物の輸送現象・生理機能等の研究、園芸施設省エネルギー化  
 講師 濱田 和俊 果樹の開花・果実発育の制御およびメカニズムの解明  
 講師 松島 貴則 労働力問題と農業サービス、土地利用型農業の研究  
 講師 山根 信三 スイカの肉質、水耕栽培によるトマト、果菜の研究

## 農学部 農学科 海洋生物生産学コース

教授 足立 真佐雄 海産有害プランクトンの開発・発生機構の解明、赤潮・貝毒の研究  
 教授 川合 研兒 魚病の診断・感染機構・防除法、魚病細菌の性質  
 教授 關 伸吾 鮎の有形質探査の研究、放流種苗・野生集団の研究  
 教授 森岡 克司 養殖魚の品質、鮮度保持に関する研究、未利用資源の有効利用  
 准教授 足立 亨介 魚介類色素の生化学的解析  
 准教授 深田 陽久 魚類の成長に関する内分泌学的研究、養魚飼料の評価  
 講師 山口 晴生 海洋植物プランクトンに関する研究、内湾赤潮の解明

## 農学部 農学科 食料科学コース

教授 受田 浩之 食品成分の分析技術の開発、健康維持成分の検索  
 教授 康 峪梅 土壌・水の有害金属汚染、草原退化の機構解明と対策  
 教授 八木 年晴 ビタミンの新規機能、酵素の構造と機能に関する研究  
 教授 吉田 徹志 暖地水稲の栄養生理と収量構成要素の関係  
 准教授 芦内 誠 バイオ新素材の開発、D-アミノ酸合成酵素の解析  
 准教授 柏木 文弘 食品中の生体調節物質の探査、食品の香り成分の有効利用  
 准教授 島村 智子 乳製品の品質管理技術、食品成分反応、生体調節機能物質の検索  
 講師 村松 久司 産業用酵素の探査・機能解析・応用技術の開発

## 農学部 農学科 生命化学コース

教授 岩崎 貢三 土壌—植物生態系、植物の物質吸収・蓄積機構、環境保全型農業開発  
 教授 枝重 圭祐 動物の生殖細胞の凍結保存技術の開発と耐凍性に関わる遺伝子の探査  
 教授 葛西 孫三郎 動物の生殖細胞および初期胚の保存法開発、低温保存した細胞の解明  
 教授 金 哲史 昆虫行動を制御する化学因子・植物の生理活性物質に関する研究  
 教授 永田 信治 食と健康と環境に役立つ有用微生物探査と産業利用  
 教授 曳地 康史 植物細菌・ウイルスと植物の相互作用の解明、植物病害防除技術開発  
 准教授 木場 章範 植物の病原体に対する防御応答機構、植物細菌病の発病機構  
 准教授 手林 慎一 生理活性物質化学、園芸作物の対虫性、貯蔵害虫の化学生態学

## 農学部 農学科 自然環境学コース

教授	荒川 良	天敵昆虫を利用した農林・衛生害虫の防除の研究、害虫管理技術開発
教授	石川 勝美	パン適性小麦、天然資源・麦飯石の高度利用、水の構造化、植物工場
教授	笹原 克夫	森林斜面からの降雨と土砂の流出、斜面崩壊発生メカニズム
准教授	河野 俊夫	食品原料生産技術および食品製造技術に関するプロセス科学
准教授	福田 達哉	マメ科植物の蝶形花を用いた相対性に関する進化発生学的研究
准教授	森 牧人	広域農林生態系の気象環境学的評価

## 農学部 農学科 流域環境工学コース

教授	大年 邦雄	雨水の挙動・河川に関する土木工学的研究、地下水、水防災
教授	篠 和夫	水利施設の維持・管理・更新に関わる技術の展開
教授	藤原 拓	地下水・河川の水質汚濁のメカニズム、排水の高度処理法
教授	松本 伸介	農業施設の構造設計、土木材料の新規開発
准教授	紙井 泰典	水資源学、太陽エネルギー、水文学
准教授	佐藤 周之	流域水環境管理および流域社会基盤管理に向けた総合的な工学的研究
准教授	佐藤 泰一郎	中山間地域の水・土・里環境保全、環境型傾斜地農業の推進
講師	齋 幸治	地域水環境悪化の原因メカニズム解明と改善

## 農学部 農学科 森林科学コース

教授	大谷 慶人	きのこ、木材・非木材パルプ・紙、木材保存
教授	後藤 純一	林業機械の開発、林業作業計画のための森林空間情報システムの開発
教授	塚本 次郎	ヒノキ人工林の密度管理、森林の大型土壌動物と物質循環の分布研究
教授	藤原 新二	林木の成長と材質の変動、生育環境と木材組織構造の変動、年輪解析
准教授	市浦 英明	環境浄化できるシート状素材開発、シート状素材に関する開発・研究
准教授	柴山 善一郎	グリーンルネサンス、さし木ひのき、小面積林家の経営について
准教授	鈴木 保志	林道の維持管理施設、木質バイオマス資源の収穫方法
准教授	古川 泰	林業や山村・中山間地域における労働市場、労働問題と林業の実態
講師	松本 美香	林業経済など中山間地域の経済構造について

## 農学部 農学科 国際支援学コース

教授	益本 俊郎	魚に必要な栄養素を調べ体内での栄養素の働き、より良い飼料開発
教授	宗景 志浩	内湾の海水交換と物質収支、沿岸養殖場の残留化学物質の残留性
教授	山本 由徳	水稲の多収性に関する生理・生態学的研究
准教授	市榮 智明	樹木種子の発芽時の資源分配と定着特性、成長や繁殖に対する役割
准教授	市川 昌広	人や村落の土地利用・森林利用と暮らし
准教授	松岡 真如	リモートセンシングデータを用いた陸域(土地被覆や植生)の解析

## 黒潮圏総合科学専攻 流域圏資源科学領域 生物資源生産分野

教授	山岡 耕作	黒潮圏における魚の生態と幸の形の関係に関する研究
助教	中村 洋平	魚類生息場の機能解明、海産魚類の生態

## 黒潮圏総合科学専攻 流域圏資源科学領域 生物構造機能分野

教授	奥田 一雄	植物の細胞の形を決めるしくみを明らかにする研究
准教授	大島 俊一郎	微生物の病原性発現に関わる分子的基盤の解明と予防
准教授	峯 一朗	藻類の細胞形態形成と細胞壁の微細構造と性質
助教	関田 諭子	渦鞭毛藻の細胞外被の形態構築機構

## 黒潮圏総合科学専攻 流域圏環境科学領域 環境保全分野

助教	田中 壮太	熱帯土壌学、土壌生態学、持続可能な農業
----	-------	---------------------

## 黒潮圏総合科学専攻 流域圏環境科学領域 環境変動・社会分野

教授	飯岡 芳明	山間地域における活性化の分析、農業政策の国際比較
教授	千葉 修	大気境界層を基に局地風(海陸風、夜間冷気流)循環の研究
教授	諸岡 慶昇	黒潮圏諸国における沿岸環境保護の比較社会経済分析
准教授	新保 輝幸	黒潮圏の地域環境資源の持続可能な利用に関する経済学的研究

## 黒潮圏総合科学専攻 海洋健康医科学領域 海洋健康医科学分野

教授	大谷 和弘	生物活性天然化合物の探索と地域保健への応用
教授	富永 明	免疫担当細胞、サイトカインによる生体制御機構の解明
准教授	久保田 賢	住民の健康づくりを支援する地域統合栄養ケアシステムの構築
准教授	田口 尚弘	腫瘍遺伝子解析、サル・寄生虫染色体マーカー作製

## 総合教育センター(人文学部)

教授	塩崎 俊彦	17・18世紀日本文学の注釈的研究、文学受容と社会変動に関する研究
准教授	大槻 知史	持続的な地域運営ビジョンの形成支援:防災、地域活性、遺産保全
准教授	立川 明	脱水反応過程の無溶媒化によるエステルおよびアミド合成
准教授	玉里 恵美子	中山間地域における集落の変容と再生および地域福祉に関する研究
講師	俣野 秀典	経営戦略、大学経営、高等教育、ナレッジ・マネジメント

## 総合教育センター(教育学部)

准教授	大塚 薫	日本語教授法、メディア教育研究、日本語教育教材開発研究
-----	------	-----------------------------

准教授	神崎 道太郎	読解と論述・作文との教授法における関連付け
准教授	林 翠芳	日本語の語彙に関する研究、日中対照研究

## 総合教育センター(医学部)

教授	八木 文雄	脳損傷患者の高次機能回復に関する認知神経科学的研究
助手	大塚 智子	入試data解析、学力・適性など評価方法の研究

## 共通教育実施機構(人文学部)

教授	辻田 宏	日米スポーツ法および判例の比較研究、スポーツビジネスとマネジメント
----	------	-----------------------------------

## 総合研究センター(理学部)

教授	上田 拓史	黒潮流域圏の動物プランクトンの分布、生産、分類
教授	木下 泉	魚類の初期生活史および個体発生に関する研究
准教授	平岡 雅規	海藻類の生殖、生態、増養殖に関する研究
准教授	岩崎 望	海洋生物の分類と生態に関する研究

## 総合研究センター(医学部)

教授	谷口 武利	細胞分化機構の研究
准教授	津田 雅之	発生工学的手法を用いたマウス生殖細胞確立機構の解明
助教	坂本 修士	癌・免疫に関する非翻訳RNAの産生調節に関する研究
助教	都留 英美	自然免疫系細胞を中心とした感染防御システムの解析
助手	中山 高一	実験機器器具修理・開発経験を社会に還元する方法の研究
助手	白石 一成	動物実験器具開発および細胞間の生体活性物質の研究

## 総合研究センター(農学部)

教授	大西 浩平	病原細菌の病原性関連遺伝子の発現調節機構の解明
講師	加藤 伸一郎	含硫化合物の生合成に関与するタンパク質の機能解析

## 国際・地域連携センター(人文学部)

教授	坂本 世津夫	地域情報学、地域政策および人材育成
助教	エバ ガルシア デル サス	国際交流・協力・支援、海外との産学官民連携の推進

## 国際・地域連携センター(黒潮圏総合科学)

准教授	石塚 悟史	産学官民連携、地域再生事業、科学技術振興、環境保全学
-----	-------	----------------------------

## 総合情報センター(理学部)

准教授	佐々木 正人	状況に適応したアプリケーションに関する研究
助教	石黒 克也	量子色力学における真空構造の解明、格子上の量子色力学
助教	斎藤 卓也	格子QCD理論を用いたハドロン物理の研究

## 海洋コア総合研究センター(理学部)

教授	小玉 一人	古地磁気学・岩石磁気学、および磁性測定全般
教授	安田 尚登	底生有孔虫を用いた深層水循環及び海洋環境変動の研究
准教授	池原 実	新生代における地球環境システム変動の解明
准教授	岡村 慶	海底鉱床探査のための現場型化学センサ開発
准教授	村山 雅史	放射性同位体を用いた物質循環の解明と過去の海洋環境復元
助教	山本 裕二	地質試料の残留磁気記録に基づく古地球磁場変動の解明

## 海洋コア総合研究センター(黒潮圏総合科学)

教授	津田 正史	海洋微細藻からの有用物質の探索と開発
教授	渡邊 巖	船舶海洋工学・流体工学

## 保健管理センター(医学部)

教授	岩崎 泰正	ストレス分子機構の解明と肥満・生活習慣病治療への応用
准教授	渋谷 恵子	医学部学生、医療従事者のメンタルヘルス支援体制の構築
講師	北添 紀子	児童期・青年期の精神保健に関する研究

## 国立大学法人では日本初! 一元化された文理統合型の大学院

高知大学では、平成20年度から日本の国立大学法人では初となる一元化された文理統合型の大学院「総合人間自然科学研究科」を開設しました。

本研究科の修士課程では、人文社会科学、教育学、理学、医科学、看護学、農学という6つの学問領域を包括しており、新しい履修システムや教育プログラムによって領域横断型の学びを効果的に実現します。

博士課程では、応用自然科学、医学、黒潮圏総合科学の各専攻の専門性を保ちつつ、これまでは他研究科の科目であった近接分野の科目を履修することができます。これにより、本研究科に進学した学生はそれぞれの基礎的学問分野の専門性を深めると同時に、幅広い素養や研究視点を修得することができます。

### 履修の特徴

#### 修士課程

目的・目標に応じて、異分野科目も無理なく履修

所属する専攻の専門科目を学ぶ「主専攻履修」と、専門科目に異分野科目を取り入れた「準専攻履修」の2つの履修システムから履修方法を選択できます。

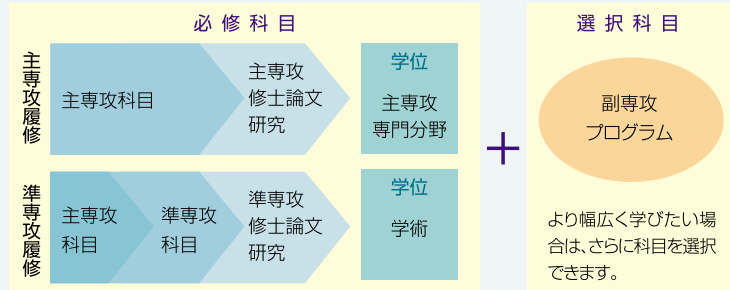
また、高知大学のフィールド特性を活かした横断的科目群「副専攻プログラム」を、目的に応じて履修できます。

#### 博士課程

他分野・近接分野を学び、より高度な専門性を獲得

各専攻における専門性を深める一方で、他分野知識の修得を目的とする共通科目の導入や、近接分野の履修を可能にします。

#### 修士課程の履修システム



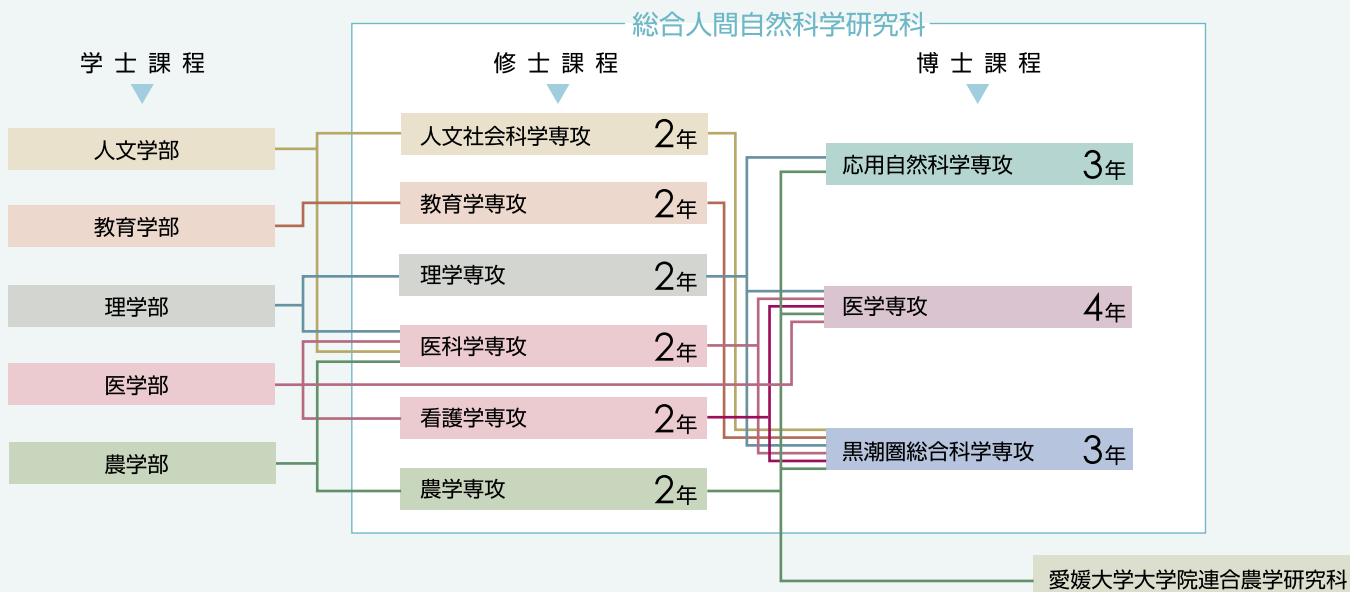
#### <副専攻プログラムについて>

特定のねらいのもとに用意されたレディーメイド副専攻プログラムと、個々の目的に応じて構成し認定を受けるオーダーメイド副専攻プログラムがあります。

#### ■レディーメイド副専攻プログラム例

「環境科学」「医療福祉学」「高(知・智・地)の科学(ISK)」「現代教育学」

### 進学イメージ図



## 修士課程

### 人文社会科学専攻

グローバル化の進展とそれに伴って進行する日本社会の構造転換を背景として、経済・社会・文化・生活のすべての領域において、地域社会の主体的発展を保障する高度な専門知識と柔軟な判断力を持った人材が必要とされています。本専攻は、地域社会の要請に応え、人文科学・社会科学諸分野の学際的結合を基盤に、多彩で柔軟な教育プログラムを創出し、変貌する地域社会の発展に貢献しうる人材を養成します。

- 地域・日本研究コース
  - 国際交流研究コース
  - 人間学研究コース
- } 定員10名

### 教育学専攻

社会構造の急激な変化は学校教育現場に様々な深刻な問題を引き起こしており、教員にはそれらの複雑な問題に対応するための資質がより深く求められています。本専攻では、学校教育現場の抱える課題を正確に判断し、それに適切に対応できる実践力のある教員、また人間発達や教科内容に関わる深い学問的で実践的な知識を有しながら、それを教育現場において応用し展開できる創造的な資質を持った教員の養成を目指します。

- 学校教育コース
  - 特別支援教育コース
  - 授業実践コース
- } 定員30名

### 理学専攻

学術研究の高度化、多様化、情報化、グローバル化やIT革命に代表される社会の急激な変化に柔軟に対応できる大学院教育を目指します。理学コースは、数学、物理学、生物科学、地球科学の諸分野、さらに学内・外の研究施設や機関と連携し、多様で創造的な教育・研究を推進し、新しい先端的な基礎理学をつくり出すことを目標とします。応用理学コースは、情報科学、応用化学、海洋生命・分子工学、災害科学の諸分野を含み、科学・技術における国際的な激しい競争の中で基礎研究から応用研究までを見据え、高度な課題探求能力を発揮することのできる人材を育成します。

- 理学コース
  - 応用理学コース
- } 定員75名

### 医科学専攻

先端医療が進歩する一方で、医学・医療を取り巻く社会環境は大きく変革しています。そうした状況に的確に対応するためには、自然科学のみならず人間主体の人文科学と医学の調和を目指した医科学の発展・充実が望まれます。そこで本専攻では、自然科学系学部(理学・農学・薬学・工学など)や人文科学系学部(心理学・社会学・経済学・教育学など)を含む幅広い学部修了者を医科学へと導き、高度に専門化した知識と技術を身につけた医科学分野の研究者、さらには社会的諸問題を医科学を基礎として包括的にとらえうる人材を育成します。

- 医科学コース 定員15名

### 看護学専攻

健康で文化的な生活を送るという国民の権利を支援することが医療者には求められています。看護学専攻においては、高知大学の教育理念に鑑み「現場主義」を重視し、社会の一員として求められるソーシャルスキルを基盤とした、課題解決能力を身につけた人間力豊かな人材を育成します。さらに、医療の場を含む日常生活の場で人間にとって最も重要な健康の増進を目指しつつ、生活者の視点で包括的な支援を行う高度に専門的な知識・技能を身につけた論理的・創造的な看護の実践者・看護学教育者・看護管理者の育成を目指します。看護学専攻は、看護教育・管理学・母子看護学、成人・老人看護学の3分野(選択)で構成されています。

- 看護学コース 定員12名

### 農学専攻

地域社会及び国際社会の健全な発展に貢献するために「安全・安心な食料の確保」「生物資源の高出力利用」「地域・地球環境の保全と修復」に関する教育・研究を展開することは、農・林・水産学分野の使命です。本専攻では、多様化した社会の要請や研究分野へ柔軟に対応できる教育システムにより、個々の学生の資質や進路に応じた個別の履修計画に基づく教育を行って、高度な知識と技術をあわせ持つ人材を養成します。

- 農学コース 定員59名

## 博士課程

### 応用自然科学専攻

海洋高知の持つ自然環境の特性を活かして、自然科学の諸分野を海洋・資源・環境に特化した「海洋自然科学」と物質・情報・量子に特化した「物質機能科学」のもとに結集し、基礎理学を包含した応用自然科学の幅広い分野で、高度な専門性を養います。また、文理統合の教育理念に基づいた大学院教育を行うことで、健全な自然観、地球観、人間観を備え、自ら課題を探索し解決できる高度専門職業人を養成します。

- 海洋自然科学コース
  - 物質機能科学コース
- } 定員6名

### 医学専攻

医学専攻では、高い倫理観と豊かな人間性の涵養ならびに高度な医学的知識と技能の習得を教育理念とし、黒潮圏総合科学専攻、応用自然科学専攻との緊密な連携のもとに、両専攻における自然科学と人間科学のパラダイムをも取り入れた教育研究体制を構築することにより、高知県の地域特性に根差した医学・医療の推進に寄与できる人材、国際的に通用する優れた医学研究者、リサーチマインドを持つ優れた臨床専門医(良医)を養成し、多様な社会的ニーズに対する柔軟な対応が可能で、底辺が広くレベルの高い医学研究及び医療の達成を目指します。

- 生命科学コース
  - 医療学コース
- } 定員30名

### 黒潮圏総合科学専攻

人口問題、食料問題、資源の枯渇や環境変化など人類が直面している諸問題の多くは我々にとって未曾有の経験であり、その解決には従来型の学問だけでなく、分野を横断して物事を把握するなど新しいアプローチが必要であることが世界的に認識されています。そこで、文理融合の新しい視点でこうした問題の解決に取り組み、それを通して資源の持続的有効活用と循環型社会の発展による自然と人間の共存・共生系の確立を強く意識した人材を養成します。

- 人間科学コース
  - 共生科学コース
- } 定員6名

## 愛媛大学大学院連合農学研究科 博士課程(後期3年)

連合農学研究科は、愛媛大学、香川大学及び高知大学によって構成され、各大学の連携により、個々の大学では期待し難い広い分野にわたり、水準の高い教育研究を行うことを目的として設置された博士課程大学院(3年)です。生物資源の生産と利用に関する諸科学について高度の専門的能力と豊かな学識、広い視野を持った研究者を養成しており、国内の大学院修士課程修了者はいうまでもなく、外国人にも門戸を開いています。

# 国際交流

## International Exchange

外国の大学に留学し学ぶことは、学位や単位の取得だけでなく日々の生活体験を通じて異文化に触れ、同時に日本文化を伝える上で大きな意義を持ちます。

また学内においても、外国人留学生との交流をはかることで、国際的な視野を広げることができます。

高知大学は、大学独自の奨学金制度を設け、海外への留学・外国人留学生を支援しています。

### 国際交流協定校 (大学間協定) 2009.1.31現在

現在高知大学では、アメリカや中国など16の国と地域、39大学などと学生交流協定を結んでいます。



### 留学室

外国人留学生に対する修学及び生活上の指導助言を行うとともに、海外留学を希望する学生に対して交流協定校の情報提供や、留学先の修学及び生活上の指導助言を行っています。個人相談も受けることができますので、留学に興味のある方は気軽に訪ねてみてください。

#### ▶ 留学室からアドバイス

大切なのは、何のために留学するのか、どういうことを学びたいのかという目的意識です。それさえしっかり持っていれば、あとはスタッフが精一杯サポートします。まずは気軽に相談しに来てください。

### 留学生の派遣実績

<6カ月以上の派遣>

	2006年度	2007年度	2008年度
公費留学	1名	1名	1名
私費留学	4名	9名	13名

<6カ月未満の派遣(研修を含む)>

	2006年度	2007年度	2008年度
派遣数	116名	111名	121名

派遣国 オーストラリア、中国、カナダ、タイ、韓国、フィリピン、スウェーデンなど

### 外国人留学生の受入状況(2008.10.1現在)

受入学生数: 131名



外国人留学生と日本人学生との交流は、学内外で盛んに行われています。来日後間もない外国人留学生に、上級生が1対1で学習指導や日常生活のアドバイスをするチューター制度や、パートナー(友人)となってアドバイスをするパートナーシップなどがあります。

### 国際交流会館

外国人留学生・研究者の専用住居施設として平成5年度末に国際交流会館が岡豊キャンパス(医学部)及び物部キャンパス(農学部)に設置されました。

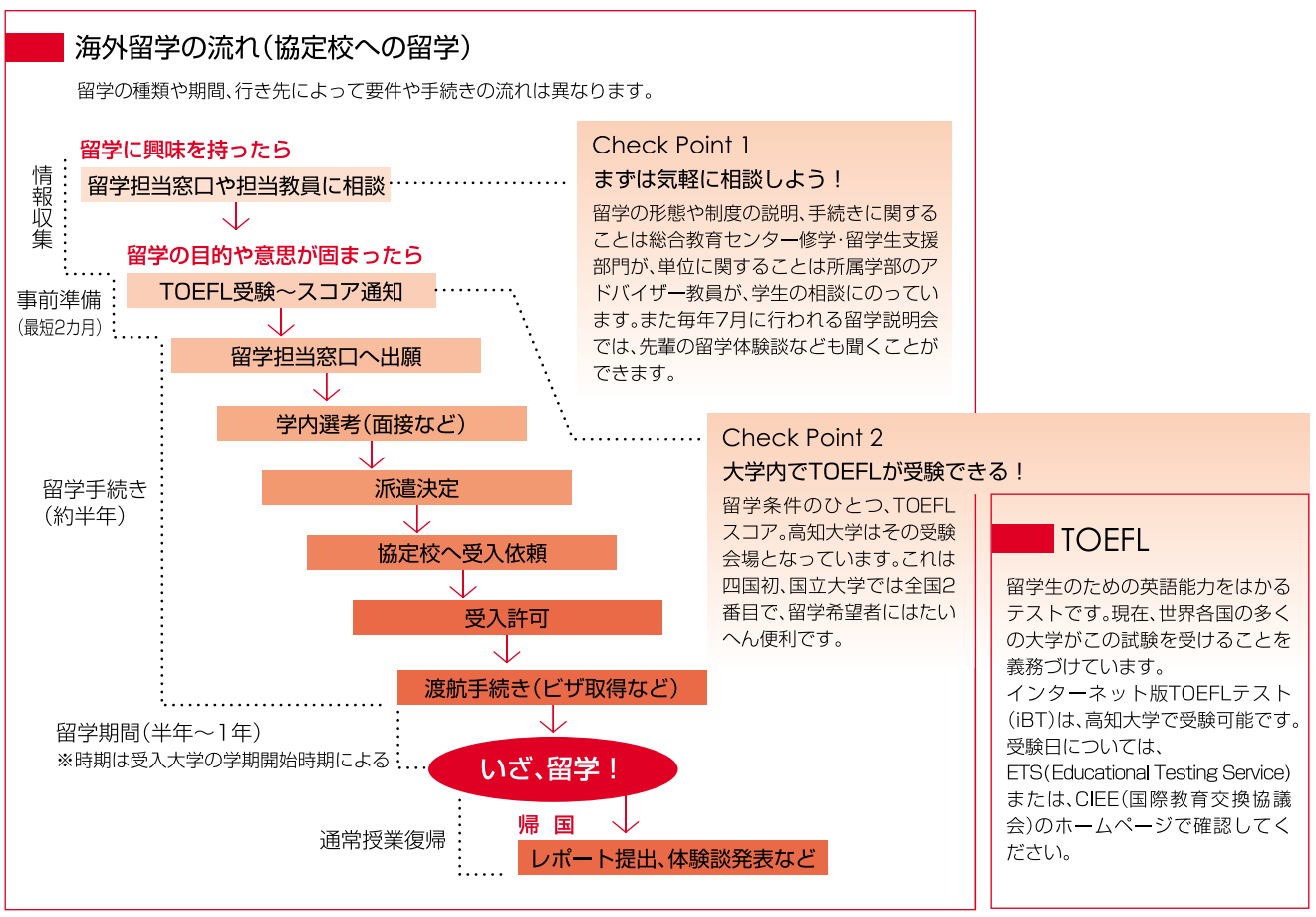
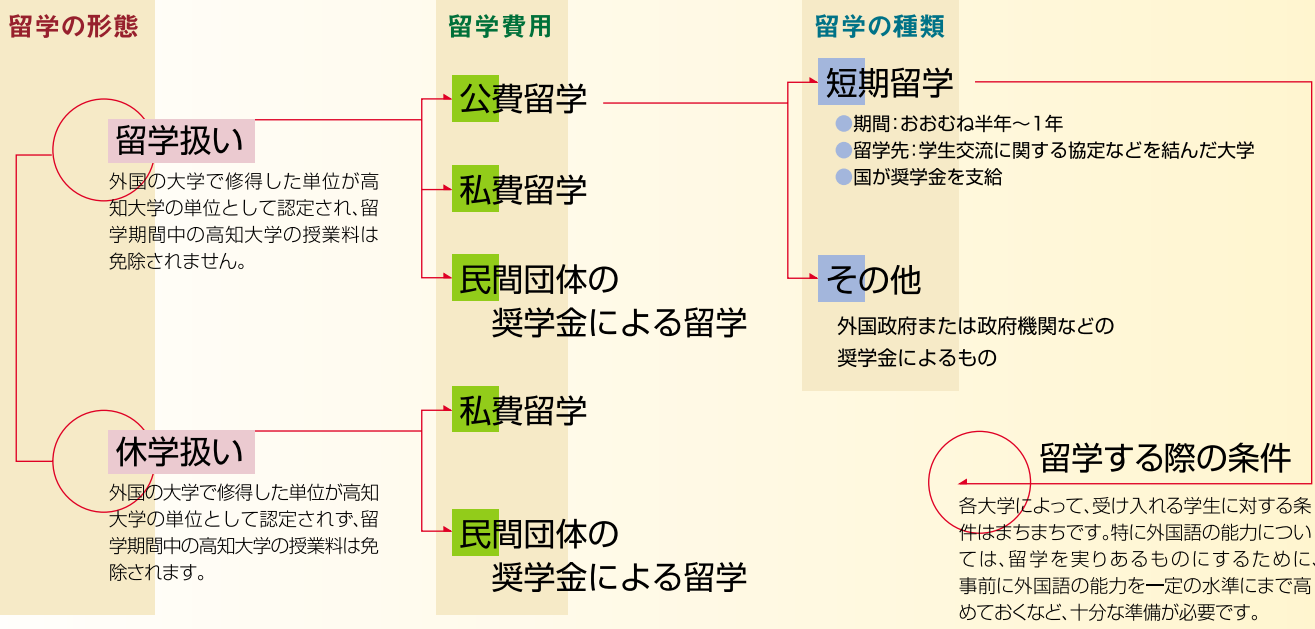


岡豊キャンパス



物部キャンパス

# 海外留学について



# 留学における学び

異文化の中に身を置き学ぶことは、人生においてかけがえのない経験となります。ここでは、海外留学を体験した学生の留学レポートを紹介します。



フィリピンの子どもたちと。左から3人目が中野さん



寮にて

## フィリピン国立大学 University of the Philippines

1908年創立のフィリピン共和国唯一の国立大学であり14人の歴代大統領のうち半分を輩出している。大学のほかに、キャンパスの中に様々な国立研究機関があり、フィリピンのシンクタンクとしても重要な役割を持っている。

- 学生数 約5万人
- キャンパス 国内中に7つ
- 学部コースの数 246

## Where there is a will, there is a way

人文学部  
国際社会コミュニケーション学科4年生  
中野 恵里

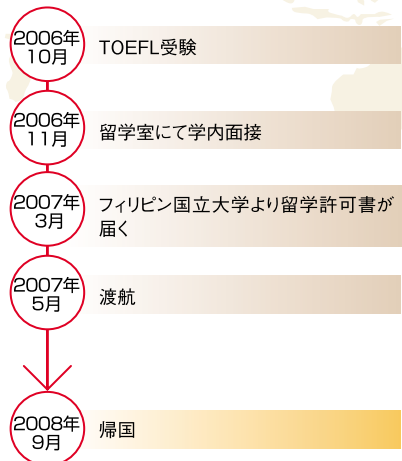
私は2007年6月から、交換留学生としてフィリピン国立大学にて一年間勉強しました。「なぜ、世界の人口の半分の人々は飢えているのか?」という疑問を高校生のとき抱き、大学に入ったら開発学を開発途上国で学びたいという思いをはっきりと心の中で描いていました。だから、交換留学生としてフィリピン共和国に派遣されたことは、私にとって生涯にわたり影響を与えるだろうとても意義のあるものでした。

まず授業についてですが、200ページもの論文を一学期間、毎週読んだり、毎週発表をしたり、毎日起きてから寝るまで勉強漬けの毎日でした。フィリピンをよりよい国にしようという意欲に励んでいるクラスメイトたちの授業に対する真面目な姿勢は今でも忘れられません。地域開発の授業でマニラの最貧困地区へフィールドトリップで行ったことも記憶に残っています。家も無く毎日ぎりぎりの生活をしている家族が暮らすエリアでの聞き取り調査では、まさに貧困に苦しむ人々が何を求めているか、そして、私たちに何ができるかを考えるいい経験になりました。

次に毎日の生活についてですが、私は世界40カ国からの留学生が150人住む International Center という留学生専用寮に住んでいました。宗教や文化が全く異なる仲間たちと暮らす上で衝突もありましたが、勉強というひとつの目的を持つ留学生と日付けが変わるまで勉強したり、生活をともにすることは、とても刺激的でした。

留学を終えて帰った今も、キャンパスの美しさ、教授やクラスメイトとの議論、寮での毎日の生活、フィリピン国立大学で過ごした全ての刺激的な日々は忘れられません。私の座右の銘である 'Where there is a will, there is a way' 意思のある所に道は通ずる、この言葉を常に胸に、留学生生活を活かし、社会に貢献できる人になりたいと思います。

### 中野さんの留学スケジュール



フィールドトリップにて



村での保健管理施設の調査

## これから留学を希望する人へ先輩からのメッセージ

自分の将来についての明確な目標を持ち、それに近づくための計画を立て、勉強してほしいです。



# 海外実習での学び

留学以外にも、世界の実状に触れる機会はたくさんあります。  
授業として行われている海外実習の一部を紹介します。

## グローバル社会における問題を体感 ～スタディツアー～

担当教員: 岩佐 和幸教授  
人文学部 国際社会コミュニケーション学科

### 異文化フィールドワーク実習

人文学部 国際社会コミュニケーション学科・専門科目

授業テーマは、タイを舞台に、社会経済情勢の理解や異文化交流を目的とするスタディツアーです。学生による自主的な企画・実践が大きな特徴で、約2週間かけて、ホームステイやNGO訪問、工場・コミュニティ見学など、都市・農村の各地を歩き回ります。こうした体験を通じて、アジアの実情や日本とのつながりを五感で感じ取れるようになることを目指します。帰国後は、多くの人に伝えるために報告会や支援活動を行うなど、グローバル社会の中で主体的な意識や行動が芽生えてくるようになります。



農村ホームステイ  
トラクターでの移動



小学校訪問



スラム街訪問

### Voice

古本 湖美 国際社会コミュニケーション学科2年

タイで過ごした2週間は、多くの人と出会い、タイという土地と文化に触れ、仲間と語り合うことができた、とても濃いものでした。東北タイの小さな村のホームステイで出会った優しい子どもたち、大都会・バンコクのスラム街で暮らす人々、そして夏休みからともに計画を練り、勉強してきた仲間たち。そんな人間の真の優しさを感じながら、先進国とは、日本とは何なのか。それを考えるきっかけを得ることができました。机上の勉強では学び得ないことを、五感で体感し、考え、学ぶことができたことは、私にとって人生の転機ともいえるスタディツアーでした。

高市 みづほ 国際社会コミュニケーション学科1年

この先自分は何を勉強していきたいのか、キーワードだけでも見つけようと参加したスタディツアー。最初は、ただの旅で終わってしまいそうで不安だらけでした。でも、日を重ねるにつれて、こんな私でもいろんなことに問題意識を持つようになりました。また、テレビで見て私なりにイメージしていたタイと実際のタイは異なる部分がたくさんあり、自分の足で現地にも足を運び実態を知ることが本当に大事なんだなと思いました。スタディツアーで得た貴重な経験を無駄にせず、これからの自分に活かしていきたいと思っています。

## 熱帯・亜熱帯の農、林、水産の現場を巡る ～海外FS実習～

担当教員: 益本 俊郎教授  
農学部 農学科 国際支援学コース

### 海外フィールドサイエンス実習

農学部 農学科 国際支援学コース・専門科目

この実習では、高知大学と交流協定を結んでいるアジアの大学を訪問し、農林水産業に関する実習を行いながら、その国の環境や文化についての知見を深めます。平成20年度は国際支援学コースの2年生14名がタイを訪問し、タイ・ベトナム・マレーシア・インドネシアの5つの大学と合同で実習を行いました。



熱帯の植物について学ぶ



マングローブの林を進む



農場のひまわり畑にて

### Voice

吉田 昌平 農学科 国際支援学コース2年

私がタイでの実習を通して感じたのは、英語でコミュニケーションをとることの難しさです。ある程度の英語力を持っていたつもりですが、いざ英語で話されるとどう返してよいかわからず、口ごもってしまうことが多々ありました。発音の仕方も違うので聞き取るのにも苦労しました。今回の実習は高知大学の学生とタイの学生だけでなく、マレーシア、ベトナムなどの学生も実習に参加していたのですが、私たち高知大学以外の学生は堂々としていて、英語もとても上手でした。私たちが一番気後れしていたように思います。まず何より私たちが身につけなければならないもの、それは自信だと思います。それを今回の実習を通して感じました。

松崎 沙耶 農学科 国際支援学コース2年

今回の実習で、日本では目にしないものを多く見ることができました。異文化を実際に見たり体験したりすることで、今まで自分が当たり前だと思っていたことは、国が違えば当たり前でなくなるということを強く実感させられました。他の国の学生の話や聞き取ることによって、タイのことだけでなく他のアジアの国のことも知ることができました。他の国を知ることによって日本というものも知ることができたように思います。学んだことも多くありましたが、一方で今後の課題もたくさんできました。自分の伝えたいことや相手の言っていることを理解するために、もっと語学力が必要だということもわかりました。また、受身になるのではなく、自分から積極的に行動するということが必要だと感じました。今回の実習の経験を今後の生活に活かしていきたいです。

# 就職活動支援

Support of job hunting

大学で得た様々な知識や経験を活かし、自分の個性を十分に発揮しながら職業人として社会の中で人々に貢献していく。これが就職することの意義です。

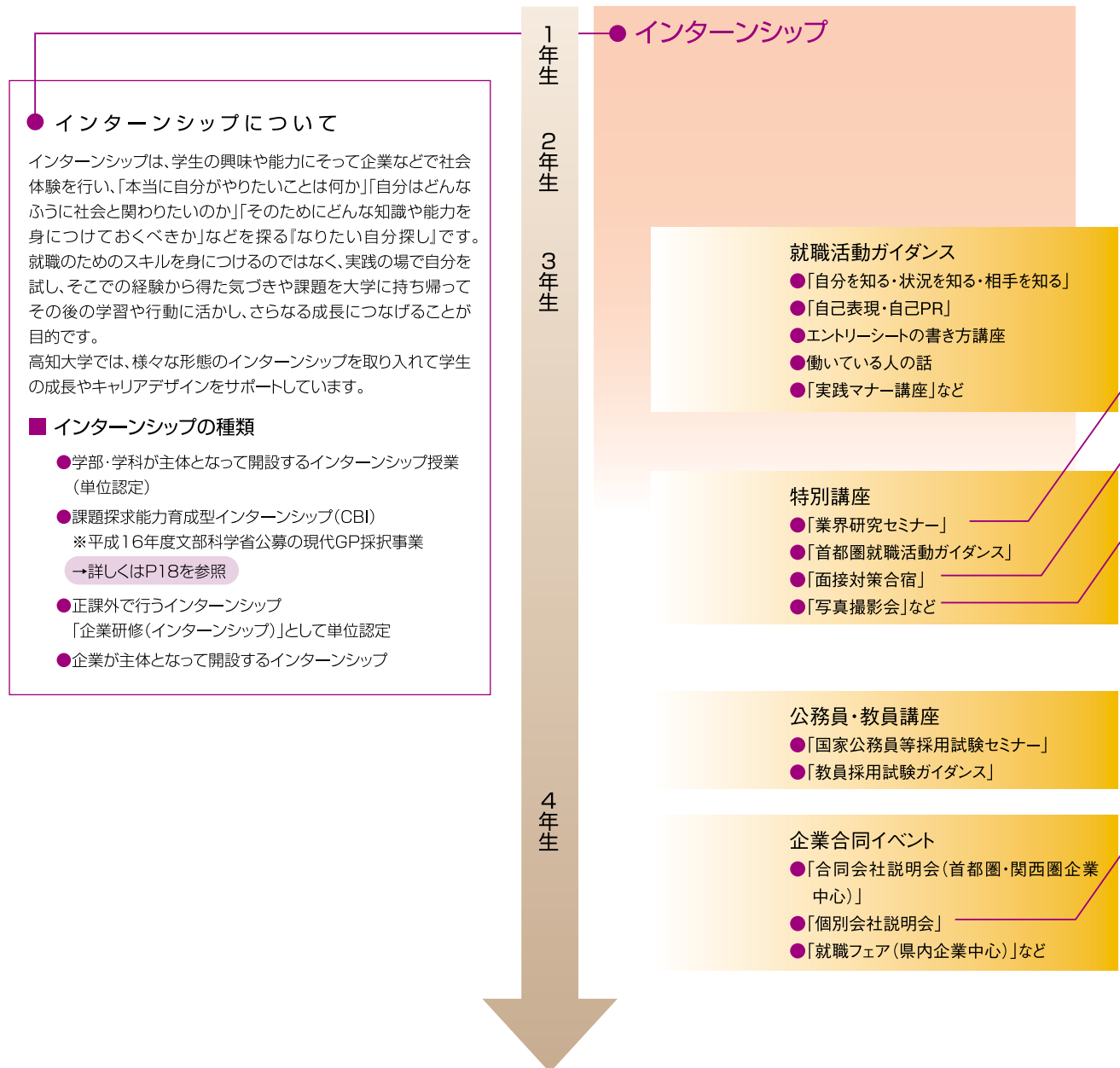
高知大学では、総合教育センターキャリア形成支援部門と学務部学生支援課就職室が連携してそのサポートにあたっています。

## キャリアサポートの取り組み

## Career Support

学生一人ひとりが高いモチベーションで社会人・職業人として社会に貢献できるよう、4年間を通して段階的にサポートを行っています。自己分析や職業理解、業界研究、実践対策など、年次に応じた内容の講座やセミナーを開催。県外出身者が多い現状も踏まえ、首都圏からの講師招聘や全国規模の企業合同説明会の実施など体制の充実をはかっています。

### キャリアサポートの主な流れ



#### ● インターンシップについて

インターンシップは、学生の興味や能力にそって企業などで社会体験を行い、「本当に自分がやりたいことは何か」「自分はどんなふうに関わりたいか」「そのためにどんな知識や能力を身につけておくべきか」などを探る『なりたい自分探し』です。就職のためのスキルを身につけるのではなく、実践の場で自分を試し、そこでの経験から得た気づきや課題を大学に持ち帰ってその後の学習や行動に活かし、さらなる成長につなげることが目的です。

高知大学では、様々な形態のインターンシップを取り入れて学生の成長やキャリアデザインをサポートしています。

#### ■ インターンシップの種類

- 学部・学科が主体となって開設するインターンシップ授業(単位認定)
- 課題探求能力育成型インターンシップ(CBI)  
※平成16年度文部科学省公募の現代GP採択事業  
→詳しくはP18を参照
- 正課外で行うインターンシップ  
「企業研修(インターンシップ)」として単位認定
- 企業が主体となって開設するインターンシップ

### 業界研究セミナー



平成20年度は、各業界から人気企業6社の参加による業界研究セミナーを開催。3年生だけでなく2年生の姿もかなり目立った。

### 面接対策合宿



グループディスカッションや面接を通して個別の指導が行われる。こういった講座はマニュアルを学ぶためのものではなく、よき社会人、よき先輩と出会い、自分の成長に対して貪欲になるためのひとつの機会。

### 写真撮影会



首都圏で活躍するブロカメラマンによる履歴書用の写真撮影会は、毎年人気の高いイベントである。

### サブルームでの個別の会社説明会



企業が少人数の学生に対して行う説明会などの際は、就職室の隣に新設されたサブルームが活用される。学生と企業の距離もぐっと縮まると好評だ。



### 入学したら就職室をのぞいてみよう！

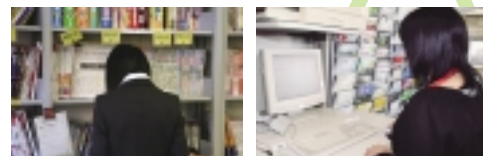
就職室は、学生一人ひとりの個性を活かしたキャリアデザインをサポートしているので、1年生だから早すぎるということはありません。入学したら一度訪ねてみてください。

### 就職のこと気になるけれど、どうすればいいの？

まずは気軽に声を掛けてください。いつでもスタッフが丁寧に対応します。また、相談員として企業担当、教職担当、自己分析担当という外部の専門家もいるので、個々の状況に応じて必要な専門的アドバイスを提供できます。

### 求人状況が知りたい

就職室では企業からの求人票を閲覧できます。情報はパソコンに入力してあるので、自分の興味のある企業が簡単に検索できます。



### ガイダンスなどの開催情報が知りたい

就職室ではメールアドレスを登録した方には、セミナーや会社説明会など必要な情報を送信するサービスを行っています。

# 頑張る先輩から頑張る後輩へ 成功体験をつなげ!

自己のポテンシャルを高め、それを活かせる業界、企業に就職し社会に貢献したい——そんな高い志を持って学生たちは就職活動に取り組んでいます。そんな中、意中の企業に内定した先輩学生が、同じ思いで頑張る後輩たちを応援したいと始まったのが「就活会」。自分たちの体験や人とのつながりを後輩のために役立てようと、自発的に様々な活動に取り組んでいます。就活会の活動は大学が主催するキャリアサポートと連携して行われ、後輩たちの大きな刺激となっています。

## 就活会の先輩に聞け!



**市川 哲 (2008年度就活会代表)**  
人文学部 社会経済学科  
三幸グループ内定 高知県出身



**今西 麻裕**  
人文学部 人間文化学科  
スターバックスコープジャパン株式会社内定  
高知県出身



**今田 和男**  
理学部 物質科学科(現・理学科)  
積水ハウス株式会社内定 愛媛県出身



**鶴岡 美春**  
人文学部 国際社会コミュニケーション学科  
エムケイ株式会社内定 大分県出身

### Q1:みなさんが就職について意識し始めたのはいつ頃ですか?

**市川** 最初に意識したのは3年生の夏休み前です。その後、10月に「3大学コラボ」という龍谷大学・中央大学・高知大学の合同の就活イベントがあり、他大学の学生から刺激を受けて具体的に行動を起こすことができました。

**今田** 僕は入学時からずっと大学院進学を考えていたのですが、3年生に入って自分の中で意識が変化し始めました。就活に積極的に動き出したのは3年生の12月頃でした。

### Q2:就活会のサポート活動の中で、あなた自身にとってよかったものは何ですか?

**鶴岡** 私は「内定塾」と「マナー講習」です。両方とも外部から専門の講師の先生に来ていただいて、就活の基本となる部分を教えてもらうものです。就活といっても何から始めていいのかかわらなかったので、最初は手当たり次第に参加していました(笑)

**今田** 僕は「内定者座談会」です。これは優良企業などに内定した先輩たちから個々の体験談を聞くというもので、就活の流れなど大きなイメージを掴むことができました。

### Q3:あなたの就活エピソードを教えてください。

**今西** 大学入学当初から、私のやりたいことは「音楽」だったり「何かを創ること」でした。だから仕事とは直接つながらない、就職活動自体をやめようと思っていました。でも、就活会の座談会がきっかけで、仕事って実は自分次第で、何かを生むことにはかわりない気づくことができました。音楽だって、仕事だって、結局は何かを通じて人にプラスを与えたいという気持ちが根本。そうシンプルに考えることができました。

**今田** 僕は大学で学んでいくうちに、研究対象として好きな分野と、仕事としてやっていきたいことは違うんじゃない



どういった内容のセミナーや勉強会が後輩たちのために役立つだろうか——真剣に検討しよう。

いかと感じるようになりました。それで学部や大学の枠を超えていろいろな人と関わり合って話を聞いたり、自分の好きなインテリアコーディネーターの資格の勉強を始めたりと、活動を広げていきました。そのプロセスのおかげで自分の道が見つかったと思います。

**鶴岡** 私は1年生の春休みにオーストラリアに1ヶ月の語学留学をしましたが、その時、語彙の問題だけでなく根本的な知識不足から日本のことをうまく紹介することができませんでした。自分でも愕然として、帰国してから日本についてすごく勉強しました。このことをきっかけに、日本のことを広く知ってもらいたいという思いが芽生え、観光業界に興味を持ちました。自分が本当に好きなことを見つけたら、その軸をずらさないことが大切だと思います。強く望む気持ちがあれば、うまくいかなくても周囲も応援してくれるし、自分もまた頑張ろうと思えます。

**市川** 就職活動って、つらいとか大変というイメージがあるかもしれませんが、そうではなく本当に意識次第なんです。僕の場合は、会社説明会に行っても周りはライバルではなく仲間だと思って、積極的に仲良くなって情報交換したり、都市部の企業セミナーなどに参加した夜は学生だけの交流会をやったりと、自分なりに就活を楽しむことができました。そんな中でいつしか成長している自分に気づいたり…。大学生生活も就職活動も、マニュアルや正解はありません。人それぞれのやり方や楽しみ方があります。このことに気づいてもらおうと始まったのが就活会の活動。多くの後輩たちに活用してもらえればうれしいですね。

# 大切なことに気づけた高知での4年間

日下 雄正  
 理学部 数理情報科学科  
 (現・応用理学科)  
 情報科学コース4年  
 株式会社デンソー内定  
 愛知県出身



僕が情報科学の分野に進もうと考えたきっかけは、数学が好きだったこともうひとつ、ちょうど高校生の頃に台頭してきたITベンチャー企業の活躍がありました。アイデアとパソコンがあれば勝負でき、成功すればお金も儲かり有名にもなれる、これはすごいと感じ、もともと人とは違うことがしたいと考えていた自分にはぴったりに思いました。

しかし、高知大学で学んでいくうちに、少しずつ考えは変わっていきました。例えば高知の美しい自然は、僕に都会の便利さだけがすべてではないと実感させてくれました。また、大学2年生の時に2つ下の弟が工業高校卒業後そのまま就職したことで、自分の力でお金を稼ぎ生活するということがものすごく大変で大切なことだと気づかされました。そして弟に刺激を受けるかたちで「就職」を強く意識するようになっていきました。

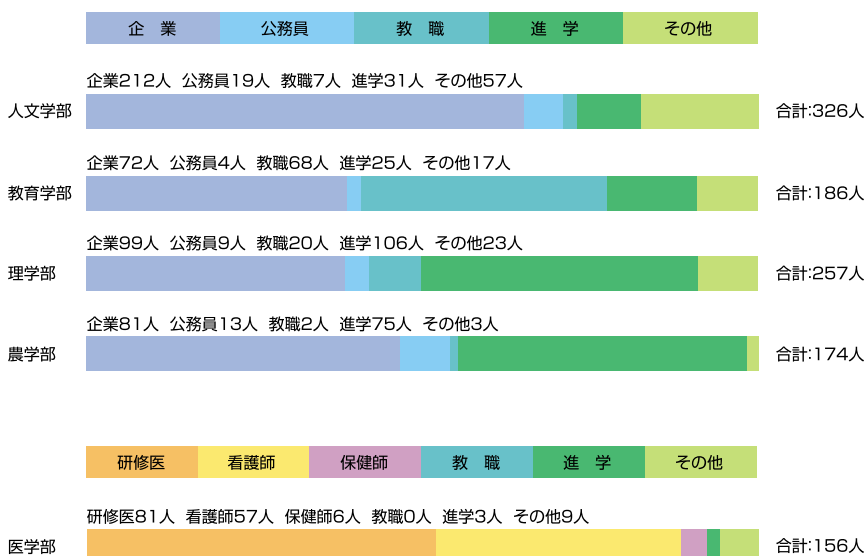
こうして足を踏み出した就職活動の中で、僕は幾度となく自分自身と向き合う機会をもらいました。一番印象に残っているのは「他己分析」です。これは仲のいい友人に自分の良いところと悪いところを指摘してもらうというのですが、その時友人からもらった言葉は、自分自身をあらためて見つめ直すいい材料になったと思います。

就職先企業を考える際も、最初は好きな自動車関係の仕事につきたいと単純に思っていました。しかし自己分析を重ねる中で、車だけでなく車を取り巻く人々の暮らし、車社会全体のことを考える仕事がしたいと思うようになりました。だから自動車メーカーではなく自動車部品の会社を選びました。

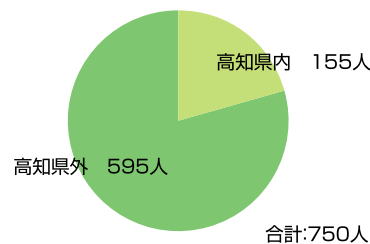
僕が携わっていく仕事は、自動車のエンジン出力を制御するプログラムの開発です。将来はエンジンをうまく制御して排気ガスを減らし低燃費を実現することで、車と環境が仲良く共存できるような方向を探っていきたく考えています。エンジンが相手でも、その先にいる人や自然の存在を常に意識していたと思っています。

高校生の時感じていた人と違うことがしたいという思いは、言い換えれば自分のポリシーを大事にした生き方をしたいということです。その気持ちは今も変わりません。ただ今は、「自分らしさ」だけでなく「自分の社会に対する思い」も大事にしたいと考えようになりました。大切なことに気づくチャンスを与えてくれた就職活動、大学生活に本当に感謝しています。

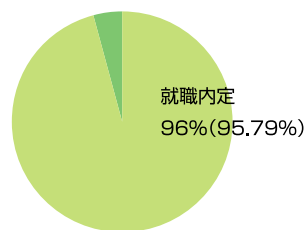
■ グラフ1. 学部別就職状況(2008年3月卒業生)



■ グラフ2. 就職先の県内外比率(2008年3月卒業生)



■ グラフ3. 就職希望者数に対する就職内定者数(2008年3月卒業生)



# 先輩からのメッセージ

あなたは大学卒業後の自分を想像したことがありますか？

職業や働き方へのイメージを持つことは、大学生活をより有意義なものにする大切な指針となります。

高知大学を卒業し社会で活躍している先輩方から、ご自身の経験を振り返って話していただきました。

## 「自由な風土」が育ててくれた今の自分

岸本 能彰

京セラ株式会社  
移動体通信機器第一統括事業部

人文学部 社会経済学科を  
2007年度卒業

兵庫県出身

私の仕事は主に、客先との新製品に関する仕様の調整です。新しい携帯電話を客先に納めるまでには、1年以上前からその製品に関して客先や自社の技術者との打ち合わせを何度も行います。技術的な話はまだまだ難しいですが、自分の関わった製品が世の中に出て使用されている光景を見られることが、私の大きなやりがいとなっています。

大学時代には、ここにはあげることができないくらい多くのことを学ばせてもらいました。ゼミでの活動を通してプレゼンテーションのスキルや、エクセルに関する知識をつけることができました。大学時代に学んだパソコンに関する知識が、入社以降とても私の助けとなっています。講義に関しては、高知大学には多くの学部、学科があり、自分の専門以外の講義についても学べる仕組みがあります。「広く浅く」とはよくいいますが、自分の分野以外にも「広く」学べ、自分の専門知識も「深く」学ぶことができました。サークル活動では、よさこいチームの代表を務め、多くの人をまとめることの大変さとやりがいを知るとともに、地域の方との交流も図ることができました。このような多くの人と接する機会は、人間関係を築くという点で、今の営業という仕事にも大きく貢献してくれていると思います。

高知大学には「自由な風土」があります。何かをしようとすればできる風土があります。大学のイベントで学生主

体のものが多くあるのがその根拠です。特に、就職活動の支援に関しては、主に3年生を対象に就職活動を終えたばかりの4年生が主体となり就職活動支援を行っているのですが、その年の生の声を聞くことができます。大学をあげて就職活動を支援してくれることは、大学内で就職活動を一緒に頑張る仲間を見つける機会はなかなか難しいため本当に助かりました。

今後は、使う人のことを考えた「使ってみよう」と思わせる製品を、世の中に出していきたい。そのために、今の業務以外にももっと知識をつけて、自分が中心となって計画を進めていけるような人になりたいと考えています。皆さんの「やりたいこと」が「できること」へ変わる場所。それが高知大学です。

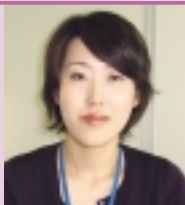


右が岸本さん。写真は、在学中に学内表彰を受けた時のもの。左は友人の荒川さん。

### ■ 主な就職先企業一覧(医学部を除く) ※青字は高知県内企業

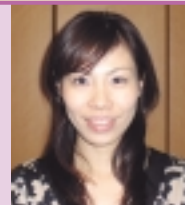
食品関連業界	製造業界	流通、販売、外食産業	金融、証券業	航空・運輸業界
明治製菓	バンダイ	高島屋	野村證券	全日本空輸(ANA)
丸大食品	東芝	イオン	大和証券	日本航空インターナショナル(JAL)
カバヤ食品	再春館製薬所	フジ	国民生活金融公庫	エア・ニッポン
名古屋製酪	YKK ap	旭食品	中小企業金融公庫	JR(東日本、西日本、四国)
ニチレイ	京セラ	三城	損害保険ジャパン	日本通運
	三浦工業	メガスポーツ	四国銀行	日本トランスオーシャン航空
	日本IBM	良品計画	日本銀行	カトーレック
	日本高度紙工業		伊予銀行	
	技研製作所		高知銀行	
	王子製紙		第一生命保険	
	ミズノ		日本生命保険	
	三菱自動車工業		高知信用金庫	

長井 由貴美  
高知市役所 税務管理課  
人文学部 人間文化学科を2006年度卒業  
香川県出身



現在、私は高知市役所にて市税の徴収事務に携わっています。市民の方から厳しい批判をいただくことも多く、その度に無力さを感じます。それでも、その無力さを受け止められるのは人とのつながりの大切さを高知大学で学ぶことができたからだと思います。互いにわかり合うことは、時に困難です。しかし、だからこそ寄り添い、語り合うことの大切さを学べたことは、私にとって大きな財産です。

西井 有香  
三重県教育委員会(中学校教諭)  
人文学部 国際社会コミュニケーション学科を  
2005年度卒業  
三重県出身



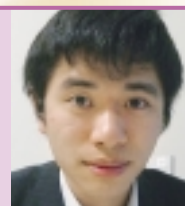
自分とは全く異なった考え方や目的を持った人たちと出会うことができるのが総合大学のよさ。また、高知の独特な風土と風習が人と人をつなげてくれたように思います。そのつながりのおかげで、様々なことを真剣に語り合うことができました。それらの日々が、社会人となった今でも大きな支えとなっています。

原 麻子  
株式会社ダイヤモンドソサエティ  
有馬温泉ソサエティ宿泊部アロマ  
教育学部 学校教育教員養成課程を  
2007年度卒業  
東京都出身



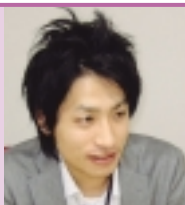
現在、私はホテル内のサロンでアロマセラピストをしています。自分の知識や技術がダイレクトにお客様の満足に通じるところが、この仕事の一番のやりがいです。毎日の仕事そのものが向上心や知識欲をくすぐるいい刺激となっています。高知大学のよさは、学生でないとなかなか挑戦できないイベントがたくさんあること。中でも室戸貫歩は途中リタイアしましたが、多くのものを得ることができました。

古瀬 達馬  
パシフィックコンサルタンツ株式会社  
国土保全技術本部防災部危機管理グループ  
理学部 自然環境科学科  
(現・応用理学科)を2007年度卒業  
神奈川県出身



高知大学では北海道から沖縄、海外の留学生とも一緒に過ごし、いろいろな文化の人と接する楽しさを知りました。様々な人がいる社会に出る前段階のいい経験が積めたと思っています。私は今、大学で学んだ知識を活かし、ハザードマップの作成や図上訓練の運営支援などの仕事に携わっています。取引先は国や自治体で公共性の高い仕事のため、日々とてもやりがいを感じています。

藤本 公浩  
楽天株式会社 楽天市場店舗開発部  
理学部 数理情報科学科  
(現・理学科)を2007年度卒業  
山口県出身



就職活動は人生で1度しかありません。みなさんを採用する企業は、みなさんのこれまでの生き方に非常に興味を持っています。高知大学で、いろいろな先生や友だちと出会い、コミュニケーション能力を培ってください。4年間の大学生活の中で、知らず知らずのうちにこの能力はついてきます。8割が県外人というこの高知大学に、ぜひ参加してみてください。

富岡 健太  
明神水産株式会社 営業部  
大学院 農学研究科  
(現・総合人間自然科学研究科 農学専攻)を  
2005年度卒業  
兵庫県出身



高知大学は自然に囲まれた環境にあり、フィールドに出る研究を行う学生にはとても恵まれています。私自身もスキューバダイビングで海へ潜り、魚に関する研究を行っていました。現在は鰹のタタキを全国へ向けて販売する仕事をしており、こだわりを持って作った商品を「おいしい」と言ってもらえることにやりがいを感じています。

建築・住宅不動産関連業界

ミサワホーム中国  
積水ハウス  
大和ハウス  
ワールド開発工業  
レオパレス  
パーク24

情報・通信関連業界

高知新聞社  
読売新聞  
高知放送  
日本放送協会(NHK)  
ヤフー  
楽天  
NTT西日本  
KDDI  
沖ソフトウェア  
ソフトバンク  
富士通システムソリューションズ  
西日本新聞広告社

サービス業、その他

海洋博覧会記念公園管理財団  
(沖縄美ら海水族館)  
大阪ウォーターフロント開発(海遊館)  
リクルートHRマーケティング  
近畿日本ツーリスト  
JTB中国四国  
JA職員(高知、岡山ほか)  
郵便局  
毎日コミュニケーションズ  
応用地質  
日本産業廃棄物処理

教育関連

国立学校教員  
私立学校教員  
高知大学  
東京大学  
中央出版

公務員

地方公務員  
(岡山県庁、埼玉県庁ほか)  
地方公務員  
(高知市役所、広島市役所ほか)  
警察官  
(高知県、兵庫県、京都府)  
各市町村消防局  
国税庁  
厚生労働省  
国土交通省  
農林水産省  
自衛隊  
防衛省

# 高知発 人と地球の未来 行き

高知大学には学部横断的かつ重点的に進められている研究プロジェクトがあります。高知県というフィールドの中でその特性を活かしてどのような研究が行われているのか——ここで、興味のかげらを手にとってみませんか？

## 現在進行中...4つの研究プロジェクト

### 海洋生態系の解明とその資源の持続的有効利用

#### 海洋生物研究プロジェクトチーム

高知県の気候・風土・生物相は黒潮から大きな影響と恵みを受けている。現代文明と産業の発展は地下資源の大量消費に支えられているが、一方では、環境破壊や地球温暖化などの大きな問題をもたらした。本プロジェクトは、黒潮の持つ持続性と潜在力に注目して「海洋生態系を解明し、その資源を持続的に有効利用する方法と方策」を研究し、その研究成果を自然の持続的な循環システムを基盤とする21世紀型社会への転換・確立に結びつけるものである。黒潮流域圏に、四万十川(人と自然の共生)、サンゴ礁(生物相互作用)、島嶼地域(新しい海洋秩序)という3つのフィールドとテーマを設定している。



### バイオ・ファンクショナルマテリアルを基盤にした環境・先端医療分野への研究展開

#### バイオ・先端医療プロジェクトチーム

人類と環境との共生に対し、物質科学の視点から取り組もうとする先導的研究。物質科学と機能材料工学、生命科学と生命工学、癌・感染症と再生医療の3つで構成され、三者が重なり合う部分はグリーンサイエンス&テクノロジーとして共有される。以下の4つの課題を重点的に進めている。

**課題1** 本学が顕著な業績を上げている水熱化学、合成化学、天然物化学、材料科学などを基盤に、環境調和型の物質変換科学の確立を目指す。

**課題2** 生命基本素子の構造と機能、細胞内外のシグナル(環境)に対する細胞応答を研究する。また生体分子の機能開拓を重点的に行う。

**課題3** 悪性腫瘍の発生・転移抑制・浸潤制御、更に診断・治療に関連した研究が進行中で、PETの活用、ペプチド療法や遺伝子治療の開発が進展中である。また、悪性腫瘍との関連において細菌、真菌などの感染制御も重要な問題である。

**課題4** 特に匂いの記憶・学習における分子生物学的研究や神経系発達と特定の遺伝子との関連性のほか、パーキンソン病などの脳脊髄疾患に対する神経細胞移植、血管新生に関する細胞の再生についての臨床応用を目指した研究が進行中である。

### 地球掘削コアを用いた地球環境・地球ダイナミクス・地下圏微生物の総合的研究

#### コア研究プロジェクトチーム

地球深部の物理・化学的性質や未知の地殻内微生物圏を探るための貴重な研究試料である掘削コアを用いて、地球科学・化学・生物学などの専門基礎研究や関連分野での応用研究を行う。掘削コアの国際的研究拠点として設置された海洋コア総合研究センターを中心に、3つの課題研究が行われている。

**課題1** 地域の特性を活かした「人と自然の共生」のために、黒潮圏の自然史(地盤や自然環境、生命の成り立ちや維持のしくみ)を解明する。

**課題2** グローバルからローカル、数十万年から数十年と様々な時空スケールで密接に絡みあう地球環境変化を、海洋掘削コアから解き明かす。

**課題3** 深海底などに生息する生物の生命戦略を解明し、それらの遺伝情報や遺伝子資源を様々な分野で有効利用するための研究を行う。

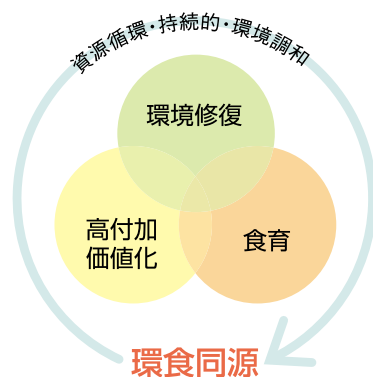
### 環食同源

#### ～環境保全型食料生産システムの構築～



#### 環食同源(フィールドサイエンス)プロジェクトチーム

安全な食料を生産することで同時に健全な環境をつくり、地球環境を修復・維持していこうというのが目標。そのために地産地消(※)をベースに、循環型の食料生産と食料の高付加価値化を両立させ、それを持続させるため食育を推進している。



※ 地産地消:ある限られた地域で生産した食物を、その地域で消費すること





本家 孝一教授

バイオ・先端医療プロジェクトチーム

<主な研究テーマ>

- 膜マイクロドメイン(脂質ラフト)の構築と機能
- 硫酸化糖鎖の発現制御と生物機能
- 精子形成における糖鎖の役割
- ミエリン形成における糖鎖の役割
- 新規糖鎖機能解析法の開発

## Project Interview プロジェクト・インタビュー

# 医療の最先端に挑む ~バイオ・先端医療プロジェクトチーム【課題3・4】の取り組み~

### 分野を超えた連携が、最新技術を生む

当プロジェクトは、バイオ・ファンクショナルマテリアルをキーワードに様々なアプローチ方法を持つ研究者が分野を超えて集結し、情報交換や共同研究をしながら環境や医療に貢献できる先端技術を確立することを目的としています。バイオ・ファンクショナルマテリアルとは「身体の中で生命活動を支える物質」のこと。中でも医学系の課題3と課題4ではこれらの物質の持つ機能やメカニズムを解明し、それを活用した先駆的な医療技術の開発・研究を目指しています。

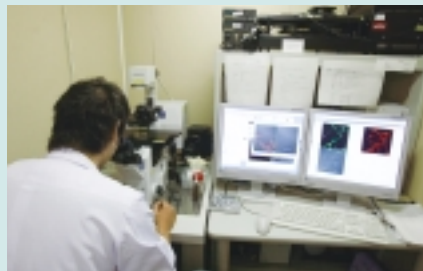
### 「世界初」を体験できるおもしろさ

こういった基礎研究は、医学や科学の発展には欠かせない重要な役割を担っています。ノーベル化学賞を受賞した光クラゲの緑色蛍光たんぱく質(GFP)

の発見などはその顕著な例といえるでしょう。

基礎研究の魅力は、何といっても世界で初めて自分がそれを発見できることです。私自身もある酵素の遺伝子のクローン化に世界で初めて成功した経験がありますが、高知大学の大学院生にもそういった経験を持つ人がいます。プロジェクト研究や共同研究の中で

は、教員の指導のもと学生も一定の役割を果たします。知識や経験の少ない学部生でも、手伝いをしたり自分から積極的に意見交換の場に入ったりと、やる気だけで様々な関わりを持つことができるのです。自由度の高い高知大学で、ぜひこういったチャンスを掴んで大きく成長してほしいと思います。



共焦点レーザー顕微鏡で数十マイクロメートルという小さな細胞の断層写真を撮影



クリーンベンチでの培養実験

## 研究の中から「がん治療」に応用された成果を紹介!



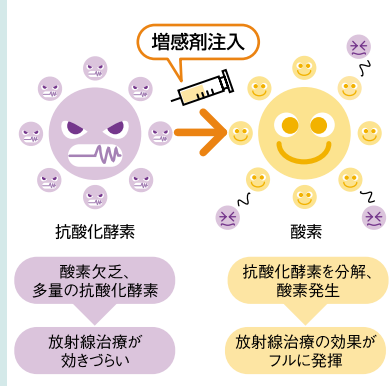
### プロジェクト研究例 1

#### 世界から注目される 高知式・放射線治療法

#### 小川 恭弘教授(放射線医学)

これまでの放射線治療における課題は、がん細胞だけでなく正常細胞にもダメージを与えてしまうこと、そして多量の線量を必要とすることでした。それを解決するだけでなく非常に高い治療効果を実現したのが「高知式 酵素標的・増感放射線療法」。放射線の効果を高める増感剤にある特殊な薬剤を使うことで、がん細胞だけに選択的に増感剤を集めることに世界で初めて成功しました。これからのがん治療の新たなスタンダードとして脚光を浴びています。

#### ■新しい酵素標的・増感放射線療法の概念



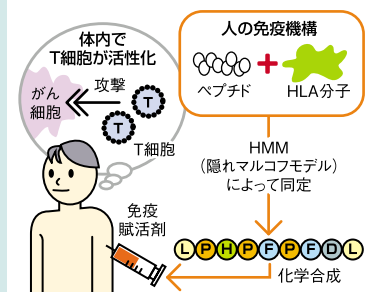
### プロジェクト研究例 2

#### 組織の血液型「HLA」を用いた全く新しいがんのワクチン

#### 宇高 恵子教授(免疫学講座)

人の免疫機構であるT細胞は、がん細胞の持つ抗原——つまり、がんに特異的なたんぱく質のかけら「ペプチド」を目印にがんを攻撃していきます。一方、人の細胞には遺伝で決まる「HLA」という細胞の血液型のような分子があり、がん細胞のペプチドはHLAと結合しています。つまりT細胞を活性化させ、がんを効果的に撃退していくためには、人によって異なる「HLA結合性ペプチド」を予想することが必要となるのです。今までの方法を大幅に改善する予想技術を確認し、ワクチンを開発したのが「HLA分子結合性がん抗原ペプチドを用いたがん治療(ペプチド免疫療法)」。さらにその効果を高める免疫賦活剤の開発も進められています。

#### ■ペプチド免疫療法の概念



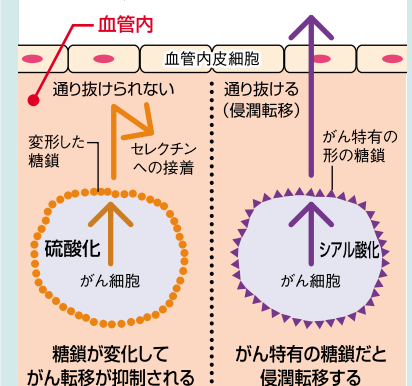
### プロジェクト研究例 3

#### がん治療の概念を変える?! 糖鎖によるがん細胞転移の制御

#### 本家 孝一教授(生化学講座)

タンパク質は、糖鎖という衣を着ることでその機能を高度化させます。例えば白血球が異物を攻撃するため血管内から抜け出す際も、白血球表面の糖鎖と血管内皮細胞の糖鎖認識タンパク質との相互作用によって移動が可能になりますが、同じ仕組みが、がん細胞の転移の際にも使われています。この糖鎖のメカニズムを解明し、がん細胞表面の糖鎖を変えることでがんの浸潤や転移を制御する研究が現在進行中。がん細胞の無力化という、新しい視点を持った研究です。

#### ■がん細胞表面の糖鎖を変えるメカニズム



# 教育研究施設

## Educational Research Facilities

### 総合教育センター

総合教育センターには、「大学教育創造部門」・「入試部門」・「キャリア形成支援部門」・「社会協働教育部門」・「修学・留学生支援部門」の5部門が置かれ、本学における教育・入試・学生支援のあり方などについて研究・開発・試行・点検・評価を実施し、有為な人材を育成するための仕組みを総合的に作り出すことを目指しています。

#### 大学教育創造部門

共通教育と専門教育とを体系化した新しい大学教育プログラムの研究・開発・試行や、教育システムの開発などを行っています。また、自己点検及びFDの企画や実施に関すること、学習支援のあり方に関することなどについて取り組んでいます。



#### キャリア形成支援部門

首都圏や関西圏の大学、また学外の諸団体と協働し、キャリア形成に関わる教育などの企画・実施を行ったり、県外での就職活動支援企画を立案・試行しています。



#### 入試部門

入試部門では、入学者の入学後における動向を長期間にわたって追跡的に調査・解析することにより、アドミッションポリシーに基づく入学者選抜方法の妥当性について検証するとともに、選抜方法の妥当性を高めるための方策に関する検討を精力的に推進しています。こうした種々の研究成果はその都度、学術論文として広く社会に公表することにより、入学者選抜方法に関する社会的説明責任を果たす努力を積み重ねています。



#### 社会協働教育部門

社会協働教育部門では、社会協働教育プログラム及び社会と協働して行う学生支援などの調査研究・開発・試行に関する業務を行います。



#### 修学・留学生支援部門

学生生活(修学支援、健康管理及び正課外教育など)に関わる諸課題の調査研究及び企画立案を行っています。また、留学生の受け入れから帰国までの支援(日本語教育、生活支援など)ならびに海外に留学を希望する日本人学生の支援などを行っています。



修学・留学生支援部門(1階)

### 総合研究センター

総合研究センターは、人的資源、知的財産、設備・施設を最大限活用して、全学的な重点研究プロジェクトなどへの支援強化をはかるとともに、本学の研究・教育の進展に寄与することにより、個性豊かな地域の大学をつくり出すことに貢献します。

本センターは、海洋部門、生命・機能物質部門、防災部門からなり、

- 1) 海洋に関わる研究の遂行とその支援、教育及び地域連携
  - 2) 生命・機能物質に関わる研究の遂行とその支援、教育及び地域連携
  - 3) 自然災害発生と防災に対する研究、教育及び地域連携
- の3つの機能を持っています。

#### 海洋部門

##### ■ 海洋生物研究教育施設

海洋生物学、水産学及びそれらの学際領域に関する広い分野の研究を行っています。研究・実習用施設、設備、機器類のほかには海洋調査実習船「豊旗丸」(19t)、「ねぶちゅーん」(5t)を所有し、フィールド調査や飼育実験、臨海実習の基地として、学内だけでなく学外さらには海外からの研究者も利用しています。主に黒潮に関する共同研究の場となっています。



■ 遺伝子実験施設

遺伝子実験施設は、遺伝子に関する基礎的・応用的研究の助長・促進と、遺伝子実験技術の教育・訓練を行うことを目的とした施設です。組換えDNA実験指針に準拠したP-1、P-2、P-3の設備を持ち、放射性同位元素も使用できる実験室と、組換えDNA実験に必要な機器を揃えており、高知大学のみならず、四国地域における遺伝子関連の実践的研究推進のためのセンターとして重要な役割が期待されています。



■ 実験実習機器施設

生命科学の教育、研究に必要な設備、機器を整備し、共同研究の効率化をはかり、本学における教育及び研究の向上、発展に貢献しています。施設には、生化学系、形態系、生理系、免疫系、バイオハザード系の5つの系があり、それぞれの研究に必要な大型機器が完備されており、大学内の研究者がいつでも利用できます。配属職員は、機器の維持管理のほか若手研究者、大学院生向けの技術研修会の開催、地域貢献の一環として毎年高校生を対象にしたサイエンス体験学習教室を開催しています。塩基配列測定などは、学内から送られて来たサンプルを測定し、データをWeb配信するサービスも行っています。



■ RI実験施設

放射性同位元素を用いた実験に関する研究、教育、安全管理を行い、医学・生命科学の研究の発展に貢献しています。

■ 動物実験施設

生命科学分野の研究は、医学や医療の発展、遺伝子治療や医薬品の開発、環境破壊や環境汚染への対応、遺伝子組換え食品の開発や食料増産など幅広い分野と関係しており、これらの教育と研究を推進する上では動物を用いた教育実習や実験は必須です。実験動物の尊い命の犠牲の上に成り立っているという事実を踏まえ、学生・院生に対しては動物と接する際に必要な実験動物に関する基礎知識、人獣共通感染症、動物福祉と生命倫理を中心に教育を行い、今世紀の生命科学分野を担う人材の養成に貢献します。



防災部門（南海地震防災支援センター）

南海地震をはじめとする自然災害に関する研究を行うとともに、その研究成果を活用して地域の関係機関と連携をはかり、防災の問題解決及び支援を行い、地域に貢献することを目的として活動しています。

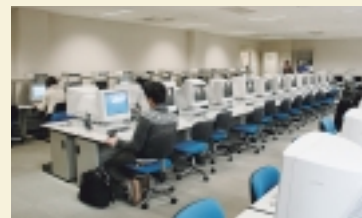
総合情報センター



メディアの森



図書部門



情報部門

総合情報センターには図書部門と情報部門が設けられ、図書と情報を融合させることによって学内の大学情報基盤を一元的に管理運用し、大学における情報活動を高度に支援しようとしています。さらに、学習・教育・研究活動の活性化と大学運営業務の効率化を促進し、地域社会に対する情報化の支援とデータウェアハウスとして学術情報などの提供及び公開などを通じて地域に貢献していくことを目的としています。

図書部門

図書部門は、朝倉キャンパスの中央館、岡豊キャンパスの医学部分館、物部キャンパスの農学部分館に分かれています。蔵書数約75万冊、学術雑誌19,000種を備え、資料は全て手にとって見ることのできる全面開架方式を採用しています。所蔵図書はオンライン検索ができます。

情報部門

大容量・高速演算処理、インターネットの利用、情報教育の支援、電子図書館の機能の支援など、情報処理のための機器を配備し、大学のあらゆる情報活動を高度に支援します。特に情報教育関連の授業で使用されており、さらに、e-Learningによる自主学习や、グラフィック処理ソフトの利用、各周辺機器の利用など、授業外での自習でも利用できます。

## 国際・地域連携センター

### “敬地愛人”—— 地域を敬い、人を愛する

国際・地域連携センターは、高知大学における教育研究の進展に寄与するとともに、高知大学の有する人的資源、知的財産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携を推進することにより、地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、生涯学習、地域文化交流、健康福祉の向上及び地域課題の解決支援に資することを使命とします。また、その地域社会との連携で培ったノウハウを、アジア・太平洋地域を中心とした国々との連携に活用し、あわせて国際社会に貢献していくことを目指します。



#### 生涯学習部門

地域社会における高等教育の享受のための機会拡大と、生涯教育に資する場や学術情報の提供を行うとともに、地域社会の文化的交流のための取り組みを推進します。

#### 知的財産部門

高知大学の創出した知的財産を、自らの責任のもとに保護、管理、活用し、本学、教職員等、学生、地域社会が受ける利益の最大化を目指します。

#### 産学官民連携部門

教育研究、共同研究、受託研究及び生涯学習研究を通じた教育研究成果を地域社会に還元し、地域の活性化を支援します。

#### 国際交流部門

教育研究などの国際的な連携及び国際的な大学間交流を推進し、地域の国際化にも寄与します。

## 全国共同利用施設

### ■ 海洋コア総合研究センター

海洋コア総合研究センターは、海洋コアの総合的な解析を通して地球環境変動要因の解明や海洋底資源の基礎研究を行うことを目的として、海洋研究開発機構(JAMSTEC)との共同運用体制のもと設立されました。本センターは、海洋コアの冷蔵・冷凍保管をはじめとし、コア試料を用いた基礎解析から応用研究までを一貫して行うことが可能な研究設備を備える、国内唯一の研究機関です。この卓越した研究環境を全国の大学・研究機関の研究者や学生に公開し、地球掘削科学を中心とした様々な共同研究を行っています。2007年からは、国際協力プロジェクトである統合国際深海掘削計画(IODP)における世界3拠点のひとつとして、本格的な活動を開始しました。



## 保健管理センター



保健管理センターは、学生の皆さんが心身ともによりよい健康状態で学生生活を送ることができるように様々な支援業務を行っています。毎年春に健康診断を実施し、病気の早期発見や予防、自主管理のための指導を行い、皆さんの健康保持と増進に努めています。また、専任の医師及び看護師などが、授業中や課外活動中の不慮のケガや、病気に対する応急手当て、学生生活に関する様々な悩み事の相談にも応じています。課外活動などの行事には、事前の申し込みがあれば救急カバンを貸し出しも行っています。さらに、メンタル面の相談にも応じています。どんな些細な心配事や悩み事でもかまいません。相談内容などの秘密は厳守としていますので、安心して気軽に相談に来てください。

## 総合研究棟



総合研究棟は、本学の教育研究活動の進展に寄与し、学部・研究科などの枠を超えた施設共有化の新しい構想により、学生の学びの環境整備・充実及び創造的・先駆的なプロジェクト研究拠点の設置などを目的として整備され、学生及び教職員に利用されています。

1階の学生ゾーンは、学部学生及び大学院生が学部などを超えて集い、相互交流・寛ぎの場として利用できる“学生ラウンジ”、各机に情報コンセントを設備し、自学のためにいつでも自由に利用できる“自学自習室”及び少人数での学習・演習・会合などに利用できる“グループ演習室”があります。

2階の多目的スペースゾーンは、教職員が全学共通で利用する“会議室”、“プレゼンテーション室”などがあり、3階のプロジェクト共同研究室ゾーンは、共同研究プロジェクトで利用する大小の研究室があります。

# 学部附属施設

## Special Facilities Affiliated with Faculties

### 教育学部附属教育実践総合センター

教育実践の理論的研究と実践的指導を推進する研究機関であり、地域との教育研究の交流の場として、大きな役割を果たしています。当センターでは、専任教員に学部内外の研究スタッフが加わって、教育実践、教育臨床、教育情報の3つの分野で様々な活動を行っており、同時に教育学部学生の教職実践力向上や、県内の現職教員の研究・研修の場としても役立てられています。具体的な活動内容は、各種の研究会・研修会、公開講座やシンポジウムなどの開催、教育に関する講習会の実施、研究紀要や定期刊行物の発行による学部内外の研究交流促進などです。



### 教育学部附属小学校/附属中学校 附属特別支援学校/附属幼稚園

附属学校園は、教育研究と教育実習指導を主な使命としています。現在の4校園は、各校園種の教員免許状を取得する教育学部学生にとっては適切な実習校であり、大学院生にとっては学習教育、教科教育実践研究のフィールドとしての役割も果たしています。今や教育学部にとっては、一層不可欠な教育と研究のパートナーです。



附属小学校



附属中学校



附属特別支援学校



附属幼稚園

### 理学部附属水熱化学実験所

高温高压下の水が関与する水熱反応について専門的に研究を行うために設立された、全国唯一の研究機関です。水熱反応は物理・化学・地学の分野にまたがり、理学的な基礎の上に立った応用範囲の広い研究分野です。国内外の大学や公立研究機関、民間企業と共同で研究を行い、機能性セラミックス粉末や薄膜合成、光学材料用単結晶育成、フロンなどの環境汚染物質の分解、産業廃棄物の処理処分と有効利用など、様々な分野で多くの研究成果をあげてきました。研究分野が広いだけでなく、理学部の4年生や博士前期・後期課程の学生のほかに、外国人博士研究員や民間企業の研究者も実験所で一緒に研究を行うため、学生諸君は幅広い学力や国際性を身につけることができます。



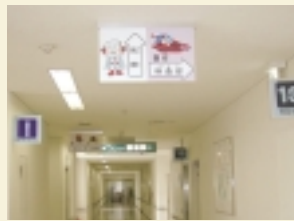
### 理学部附属高知地震観測所



四国地方ではプレートの沈み込みによって繰り返し南海大地震が発生したり、中央構造線を横ずれさせたりしています。これらに関係した四国地方の地震現象を解明するため、本所を含めて四国内に8ヶ所の定常観測を実施しています。得られたデータを他大学、気象庁及び防災科学技術研究所などの関係研究機関との間で交換し、統合されたデータを用いて四国地方を中心に紀伊半島、中国地方、九州地方付近までの微小地震の活動を定期的に調べています。必要とあれば臨時的な野外地震観測も行っています。主な研究テーマは南海地震と関係した地震活動の時空的变化、地震のメカニズム解分布、地震波速度構造などであり、災害科学コースの卒業研究テーマにもなっています。

## 医学部附属病院

附属病院玄関では、アンパンマンの人形が皆さんをお迎えしています。院内の掲示でもアンパンマンと仲間たちがご案内します。たとえば、病棟には食パンマン、放射線部にはカレーパンマンの表示を追いかけると行き着くことができます。アンパンマンがあらわしているのは親しみやすいチーム医療です。医師、看護師、医療技術職、事務職、ボランティアなど、手を携えて皆さんの平和と安全を守る正義の仲間がどんどん増えています。また、投書などでいただいたご意見を大事にして、アンパンマンのように地域の方々とともにいい病院づくりをしています。学生のみなさんにもお手伝いだけできればと思います。



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV



## 医学部附属医学情報センター

医学情報センターは、昭和56年の附属病院開院時に自主開発による我が国初の総合医療情報システム(IMIS: Integrated Medical Information System)を稼働させて以来、附属病院業務の改善に大きく貢献してきました。IMISはその後の我が国におけるモデルケースとなり、他大学や病院における医療情報システムの広範な普及の発端となりました。



この功績により日本科学技術連盟による昭和58年度の「石川賞」を受賞し、昭和60年には文部省令による医学部附属医学情報センターとなり今日に至っています。

このIMISは平成14年に全面更新され、我が国の医学界をリードする新IMISとして電子カルテシステムや医療工程管理システムとなりました。IMISには、開院以来日々の診療に伴って発生する様々なデータが全て蓄積され、この世界的にも例を見ない25年以上にわたる貴重なデータは様々な研究に活用されています。

また、医学情報センターは情報教育に積極的に取り組み続けており、現在では情報科学体験学習、情報科学、医学統計学、医療情報を担当しています。



## 農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター

フィールドサイエンスに関する教育研究の推進と共同研究などによる地域及び国際社会への貢献を目的に、旧農学部附属農場と同演習林を統合して平成15年4月に設置されました。

### 循環型暖地農業生産部門

物部キャンパス内にある南国フィールド(農場、総面積約18ha)には、稲、野菜、花、果樹、飼料作物、褐毛和種牛などが栽培・飼育されており、環境保全を考慮した循環型農業生産に関する実習教育・研究、技術開発、技術支援を行います。

### 森林生産環境部門

四国山地の南側に位置する嶺北フィールド(演習林)は、約127haを有し、スギやヒノキの植林地とモミや広葉樹の天然林が広がり、多様な森林を形成しています。森林環境や循環型生産に関する実習教育・研究、技術開発、技術支援を行います。



## 課外活動施設

体育施設が朝倉キャンパス・岡豊キャンパス及び物部キャンパスの3か所にあり、体育系の課外活動などに利用されています。その概要は下記の通りです。朝倉キャンパス・岡豊キャンパスには、課外活動共同施設もあり、サークルの部室などに使用されています。また文化系の課外活動には、朝倉キャンパス内の学生会館を利用することができます。大小の集会室や談話室、和室などがあります。

### 朝倉キャンパス



運動場(サッカー・野球)=10,506m<sup>2</sup>  
陸上競技場=18,723m<sup>2</sup>  
弓道場=90m<sup>2</sup>  
柔・剣道場=400m<sup>2</sup>  
北体育館=1,649m<sup>2</sup>  
(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ダンス・体操)  
プール=1,540m<sup>2</sup>  
テニスコート=7面  
南体育館=1,094m<sup>2</sup>

### 岡豊キャンパス



陸上競技場(サッカー)=14,440m<sup>2</sup>  
野球場=12,286m<sup>2</sup>  
体育館=1,092m<sup>2</sup>  
武道場=363m<sup>2</sup>  
弓道場=129m<sup>2</sup>  
テニスコート=5面  
プール50m 7コース



### 物部キャンパス

運動場(サッカー・ラグビー・野球)=15,892m<sup>2</sup>



テニスコート=3面  
体育館=1,077m<sup>2</sup>



# キャンパスライフ

## Campus Life

キャンパスライフは皆さんが、良き社会人、地球人として自立する知識、技術を学び、体験し、体得するためにあるもの。そういう意味で本業の学業はもちろん、様々なサークル活動、そして学外での生活も含め、全てが同じように大切だと考えます。

本学に在籍する数年間が、皆さんにとって豊かな、輝かしい人生の数年間であってほしい・・・。

本学ではそのキャンパスライフをできる限り支援する体制を整えています。

## 学内厚生施設 Public welfare facilities



喫茶(朝倉キャンパス)



大学生協購買部(朝倉キャンパス)



購買部PC修理コーナー(朝倉キャンパス)



書籍部(朝倉キャンパス)

### 食堂・喫茶

朝倉キャンパスには学生会館に食堂と喫茶が、岡豊キャンパス(医学部)には医学部会館に食堂と喫茶が、また、物部キャンパス(農学部)には日章会館に食堂がそれぞれあります。高知大学生活協同組合(生協)の運営で、組合員は安い価格で利用できるようになっています。また、岡豊キャンパスには附属病院内に病院食堂もあります。

### 購買部・書籍部

全てのキャンパス内に、学生や教職員が必要となる商品を品揃えした書店と売店があります。書店では教科書、参考書、専門書、一般書、辞典、雑誌などを、売店では文房具、日用品、食料品など各種商品を取り扱っています。朝倉キャンパスの売店には、パソコンなどの電化製品や航空券、JR切符、電話取り付け、自動車教習所、引越しサービス、各種チケットなどを取り扱うコーナーがあり、運営は生協が行っています。

また、朝倉キャンパスには正門付近に郵便局・銀行のキャッシュコーナーや理容サービスが、岡豊キャンパスには附属病院内に売店、薬店、簡易郵便局、さらに郵便局・銀行のキャッシュコーナーや理容美容室もあります。

## Voice

森 敏寛さん  
大学生協食堂部



大学生協はキャンパスライフの様々な場面に関わっています。食堂、書籍部、購買部があり、共済や下宿紹介、パソコンの販売・修理、インターネット回線の接続などもやっています。

食堂で好評なのは「ミールカード」。これは1年間使える学食カードで、1日1,000円まで食べ放題。16万円(2008年度)で販売していますが、年間営業日数が約270日なので全営業日使えばなんと24万円※分ほど食べられお得です! 栄養価を考えた豊富なメニューは、地域の「食育」拠点高知大学ならではの、食事歴のレポートを1カ月ごとにお送りしているので、食べたメニューやカロリーもわかり親御さんも安心ですよ。

また、カフェ横の学生広場では昼休みにブレイクダンスのパフォーマンスがあったりよさこい踊りの練習をしていたりと、大学生協付近は楽しいことがいっぱい。上手に利用して下さい!

※夏期・春期休暇中は、1日利用上限600円です。



学生さんに聞くと、「ミールカードでいかに食べ尽くすかに執念を燃やしている学生も多い」のだそう。

## Topics.....

### 大人気! 高知大学せんべい



購買部で今一番人気の高知大グッズと言えば、この「大学せんべい」。何でも、春に日本水産学会が高知大学で開かれた時、何かおみやげになる食べ物は何と聞かれたのがきっかけとか。やってみよう! と思い立ったらすぐに実行するのが土佐人気質。生協職員、大学広報室、学生と一緒に、素材の検討から試食アンケートまで一気に進み、9月には商品化したというからスゴイ。さらに第二弾として、農学部の教授陣が参画して「環境と健康にいいせんべい」づくりが進行中とのこと。あなたも、高知大学に来たらこの大学せんべいをぜひお試しあれ!

※パッケージは、人文社会科学研究所2007年度卒の藤浦五月さんのデザインです。



# 学生寮 Accommodation

4つの学生寮がありますが、入寮希望者は定められた手続きによって入寮し、入寮後は管理運営規則に従うこととなります。各寮の概要は以下の通りです。

かつら寮



## Voice

おじま  
小島 佳代さん  
南溟寮 寮母



学生寮には寮母、会計、栄養士、調理師などがおり、寮生活のお手伝いをしています。一番気を遣っているのは健康面で、病気が流行しないよう衛生面や体調管理のサポートをしたり、食事もおいしくて栄養もボリュームもたっぷりのもを用意しています。

学生さんたちはふだんからよく規律を守って生活していて、廊下では必ず大きな声で挨拶を交わしていますね。お互いに尊重しあい、何かあってもよく話し合いをしながら自分たち自身で解決しているようです。そういう過程も大切。学問と同じくらい価値があると思っています。突拍子もない出来事?そりゃあ数え切れません!(笑)でも学生らしくていい。どこの寮も活気があって、きっと楽しい学生生活が送れると思いますよ。

寮名	性別(定員)	月額寮費	部屋・その他	大学までの通学時間
南溟寮	男子 (242人)	約20,000円	2人部屋(洋室) 3食 食事付 (土・日・祝、長期休暇中はなし)	朝倉キャンパス正門 から徒歩約5分
かつら寮	女子 (60人)	約20,000円	2人部屋(和室) 昼・夕 食事付 (土・日・祝、長期休暇中はなし)	朝倉キャンパス正門 から徒歩約10分
ときわ寮	女子 (80人)	約7,500円 別途電気代(自室分)	個室(洋室) 食事なし(自炊設備あり)	朝倉キャンパス正門 から自転車で約10分
日章寮	男子 (60人)	約9,000円 別途電気代(自室分)	個室(洋室) 食事なし(自炊設備あり)	物部(農学部)キャン パスに隣接

■ 学生寮に関するお問い合わせ先:学務部学生支援課(学生寮担当) TEL 088-844-8565



ときわ寮



日章寮



南溟寮



# サークル活動 Circle Life

大学生活において学業を人間形成の縦糸とするならば、同好会やサークル活動はそこに彩りや厚み、深みを織り込んでくれる横糸のようなもの。高知大学では100以上あるサークルに学生の約半数が所属し、充実した毎日を送っています。

## Campus News

### 2008年度に活躍したサークル、同好会を紹介

#### サークル 体育系代表

#### サッカー部 総理大臣杯で栄誉の3位!

##### Data

監督は、JFA(日本サッカー協会)公認A級コーチで全日本大学選抜やユニバーシアードのコーチ、監督を歴任している野地照樹。部員数は毎年約80名前後でプロを目指す選手も多く、Jリーグとして現在3人が活躍している。練習日は月曜以外の毎日。総理大臣杯は8年連続18回、天皇杯は6年連続13回出場。「サッカーを通じての豊かな人間形成」がモットーで、学業との両立、地域貢献なども重視している。



全国大会の常連チームとして名を馳せる高知大学サッカー部。2008年度も、第32回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントで6年ぶりの準決勝進出を果たし、見事3位という好成績を収めました。2009年度はさらなる高みを目指し、日々練習に励んでいます。



▶ 野地 照樹 教授 監督

指導にあたっては、JOCや国の在外派遣などで世界を回った経験から、効果的・効率的な練習と選手一人ひとりの自立の精神を大切にしています。試合では相手がどんなチームであろうと、全力で自分たちのサッカーをすることが大事。また一流の選手であり続けるために、食事、睡眠など正しい生活習慣の実践も指導しています。



▶ 中野 圭 教育学部3年

常に言われているのは「考える」という言葉。状況判断や、勝つために何をすればいいのかわかり、自分たちで考え行動することが求められます。強制がない分、高い意識を持って自己管理する必要があり、サッカーはもちろん人間的にも成長できる環境だと思います。

#### 同好会 文化系代表

#### こどもの森 「ストップ温暖化!」の地域リーダー

##### Data

教育学部生を中心に、部員は約30名。活動内容はCO<sub>2</sub>や太陽、ソーラーパネルなどが親しみやすいキャラクターとなって登場する環境劇や、自転車発電機などを使った電気づくり体験、節電クイズなどの出前公演が主。活動実績は2年間で延べ約20回。学生たち自ら県の助成金制度に応募して資金を得たり、他の団体と交流をはかるなど、行動力は抜群!



太陽ちゃん

地球温暖化防止に向けて様々な活動が広がる中、省エネの大切さを子どもたちに楽しく伝える「環境劇」で、高知県「CO<sub>2</sub> CO<sub>2</sub>(コツコツ)勝つコツコツキャンペーン」大賞を受賞。環境省主催の全国大会にも出場しました。地域の幼稚園・小学校に環境劇を届けるなど、県内の草の根エコ活動をリードしています。



▶ 倉内 久里 こどもの森代表 教育学部3年

活動の目的は、「教育現場のニーズを踏まえた環境教育の実践を通して、自分たちがよりよい教育者に成長していく」こと。小学校・幼稚園で環境問題・エネルギー問題に関する授業や環境劇を行うことを通じて、教育現場体験を積み重ねています。学部の垣根を超えて学生同士が交流できるとともに、社会人と触れ合う機会も多いため、多様な経験を積み、成長できる場となっています。



環境劇の内容をわかりやすく伝える「絵本」も作成した。



## ▶ サークル

### バスケットボール部

#### Data

部員数は男女あわせて毎年20名ほど。県リーグに加盟しており、リーグ戦や四国内の各大会など月一回のペースで一年を通じて対外試合を行っている。練習は週5日。決して設備が整っているとはいえない環境の中、練習内容や練習量を工夫し、インカレ出場を目指している。



### チームプレーの醍醐味を満喫したいなら

バスケ歴10年以上という部員から全く初心者という部員までメンバーはそれぞれだが、みんな楽しんで練習に取り組む。チーム全員で勝利を掴むことが目標だ。



### 野球部

#### Data

私学が圧倒的優勢の大学野球界で、国立大学の強豪チームとして異色の輝きを放つ。大学野球の最高峰、全日本選手権大会(神宮球場)には過去3回出場したが、まだ勝ち星がないため、合い言葉は「神宮での一勝」。率いるのは就任から30年以上となる小松清祥監督で、練習は週6日。



### 神宮を狙える、数少ない国立大学チーム

チームの一番の特徴は「考える力」。試合における戦略・戦術はもちろん、試合後の反省から自分たちの課題を見だし練習メニューに取り入れるといった過程も、主体的に実践している。高校野球部監督などとして活躍するOBも多く、尊敬できる先輩の存在が部員の高いモチベーションにつながっている。



2006年には、ベースボールマガジンで大学野球の強豪チームの一つとして、特集も組まれた。国立大学の野球部としては異例のこと。



### ヨット部

#### Data

全日本学生ヨット選手権大会には個人、団体ともにほぼ毎年出場。土・日・祝日は香南市や、シバパークにあるハーバーで練習を行っている。経験者はもちろん、初心者も参加OK。NPO法人YASU海の駅クラブに加盟し、海と浜辺の環境保全や情報発信にも力を入れている。

### 海を介して広がる、人と地域との交流



ヨットの醍醐味は何といっても走っている時の爽快感。特に雄大な太平洋は、セーラーたち憧れの海なのだそう。シーカヤックやサーフィンなどほかのマリンスポーツを並行して楽しむ部員も多く、地域住民と一緒に海の清掃や小学生のヨット教室を行うなど活動は幅広い。

## ▶ サークル

### 奇術部

#### Data

鳩を出したりジャグリングをしたりと、様々な演目をこなすパフォーマンス集団。1回生は1月、2回生は6月、3回生は12月にステージを開催。特に3回生のステージ「マジシャンズパーティー」はコンサートホールで行われる本格的ステージで、地元の人気イベントとなっている。部員数は約35名。



### 相手に楽しんでもらうことが楽しい!

入部時は大半が初心者だが、1回生、2回生とステージを経るたび成長し、3回生ではプロ顔負けの腕前に! 地域にボランティア公演に出向くことも多く、相手に楽しんでもらうことが何よりの喜び。



### 吹奏楽団 | 音楽に垣根はない! 女子大と一緒に活動

#### Data

定期演奏会やコンテスト出場といった演奏活動のかたわら、地元小学生への指導や人数の足りない高校ブラスバンド部への助っ人など、垣根のない音楽活動を展開。吹奏楽部のない高知女子大学の学生も受け入れ、一緒に吹奏楽を楽しんでいる。

個性的なメンバーが多く、楽器の音色に負けにくいくらい笑い声も絶えない雰囲気だが、定期演奏会には地元の固定ファンもつくほどの実力派。

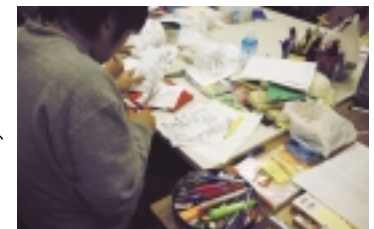


### 子ども倶楽部 | 子どもたちの笑顔が一番の喜び

#### Data

ふだんの活動は毎週土曜日、地域で3つの子ども会を運営する。イベントは年2回。春は教育学部主催の「子どもまつり」で巨大迷路を、秋は子ども倶楽部主催で午前中は工作とゲーム、午後には運動会というメニューの「子ども広場」を開催している。

部室の中には、活動に必要な大工道具や調理器具、作ったおもちゃやイベント飾りなどで埋まっている。メンバーは教育学部を中心に人文、理、農学部など様々だが、子どもが好きで日常的に子どもたちと関わり合うことを大切にしているという姿勢を共有している。



## 文化系サークル一覧

- ▶ 朝倉キャンパス 交響楽団、吹奏楽団、合唱団、マンドリンクラブ、邦楽部、フォークソング部、フォークフォーク、軽音楽部 BLUE SKY、SEA BREEZE、美術部、裏千家茶道部、表千家不白流茶道部、華道部、囲碁部、映画文化研究会、演劇研究会、星の会、野生生物研究会、学術探検部、ユースホステル部、E.S.S.、写真部、児童文化研究会、子ども倶楽部、児童文化研究会、総合映像研究会、放送研究会、園芸部、奇術部、ニューシネマ☆パラダイス、Hand to hand
- ▶ 岡豊キャンパス 医学部ESS、医学部囲碁・将棋部、医学部映画研究会、医学部合唱団、ACT-K、ACLS南国、医学部管弦楽団、医学部軽音楽部、医学部JAZZ研究会、小原流華道部、医学部裏千家茶道部、医学部写真部、医学部天文部、医学部美術部、アウトドア・HAM・サークル、パソコンサークル DOS/V、医学部アジア僻地医療を支援する会、医学部漢方研究会(うどん部)、フィールド医学研究会、医学部ボランティア部、Peer部、高知大学 Mental Health Care Club、医学部ダンス部



## ▶ 同好会

### 宮沢賢治研究会

#### Data

日本全国の大学に宮沢賢治に関する研究会は数多く存在するが、教員でなく学生が主催しているのは本学だけ。発足も古く、草分け的存在として全国の研究会から一目置かれている。活動は週一回。

### 知人ぞ知る、宮沢賢治研究の草分け



ふだんは持ち寄ったテーマに添って様々な角度から議論を交わしている。また宮沢賢治の生地・花巻に研究旅行に行く計画などもあり、少人数ながら活動は活発だ。

## ▶ よさこいチーム

### 旅鯨人(たびげいにん)

#### Data

高知大学を代表するよさこいチームの一つ。高知女子大の学生も参加している。よさこい祭り本祭で踊ることを第一の目標として、踊りのテーマづくりから音楽、振り付け、衣装、地方車など一連のチーム運営を学生主体で行っている。毎年約150名の踊り子が参加。本祭以外にも日本各地から海外の祭りまで遠征しており、2008年度は愛知や福岡、 Guam など6ヶ所を踊った。

### 最高の一体感!!



### よさこい祭りって?

高知の夏の風物詩で、毎年8月9～12日に開催されています。それぞれ趣向を凝らした150以上のチームが、市内9ヶ所の競演場と6ヶ所の演舞場を回り、踊りや衣装、個性を競い合います。土佐の自由の精神を象徴するような祭りです。

基本練習は週3回、午後6時からキャンパス内で行う。県外出身者が多い高知大学なので、入学して初めてよさこいを知った、初めて踊った、というメンバーも多い。高知に来たからには一度は経験してみては?!



## ■ 体育系サークル一覧

- ▶ 朝倉キャンパス 陸上競技部、水泳部、ヨット部、サイクリング部、Free Climbing Club、サッカー部、ワンダーフォーゲル部、モダンダンス部、硬式庭球部、ソフトテニス部、ラグビー部、硬式野球部、バレーボール部、ハンドボール部、バスケットボール部、バドミントン部、体操競技部、ソフトボール部、アメリカンフットボール部、ライフル射撃部、柔道部、剣道部、合気道部、空手道部、少林寺拳法部、弓道部、洋弓部、卓球部、軟式野球部、芦原空手道部、フットサル部、ラクロス部
- ▶ 岡豊キャンパス 医学部合気道部、医学部空手道部、医学部弓道部、医学部剣道部、医学部柔道部、医学部硬式庭球部、医学部ゴルフ部、医学部サッカー部、医学部準硬式野球部、医学部水上運動部、医学部ダイビング部、医学部卓球部、医学部バスケットボール部、医学部バドミントン部、医学部バレーボール部、医学部ヨット部、医学部ラグビー部、医学部ワンダーフォーゲル部、医学部蹴球会、水泳部(朝倉キャンパスと合同)、陸上競技部(朝倉キャンパスと合同)



## 学生の暮らし Student's living

高知県は気候が温暖で、住まう人々も気さくで  
 大らかな気性の土地柄といわれます。  
 どのキャンパスに通う学生も、それぞれの地域で見守ってくれる近隣の人々や  
 四季折々の自然・風物に囲まれ、  
 のびのびとした学生生活を送ることができるでしょう。  
 学生生活にかかる費用は学部や学科、学内外での活動など  
 個々の状況に応じて様々ですが、  
 奨学金制度をはじめとする諸制度も導入されていますので  
 気軽に学務部学生支援課までお問い合わせください。



## 入学料・授業料

入学料・授業料	
入学料	282,000円
授業料 [年額]	535,800円 (前期・後期分各 267,900円)

※入学料及び授業料について改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

■入学料・授業料に関するお問い合わせ先  
 財務部財務課資金・出納グループ  
 TEL 088-844-8125

## Entrance fee & Tuition

### 奨学金制度

奨学金制度としては、日本学生支援機構(旧日本育英会)の奨学金が主なものですが、そのほかに地方公共団体や民間育英団体などの奨学金があります。

奨学金の貸与を受けることができる者は、学業・人物ともに優秀で、健康であって経済的理由により、学資の支弁が困難と認められる者です。

日本学生支援機構奨学金には、無利子の第一種奨学金及び有利子の第二種奨学金があり、両方を併用することも可能です。貸与月額(平成21年度入学生)は、第一種の場合30,000円、自宅通学(45,000円)、自

### Scholarship

宅外通学(51,000円)から選択することができます。第二種の場合は30,000円・50,000円・80,000円・100,000円・120,000円の中から自由に貸与月額を選択することができます。

なお、本学独自の奨学金としては、医学部の「岡豊奨学会奨学金」及び農学部の「池知奨学金」があります。

■奨学金制度に関するお問い合わせ先  
 学務部学生支援課(奨学金担当)  
 TEL 088-844-8565

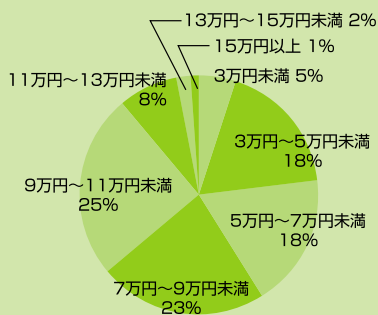
## 生活費

学生生活を送るのに必要な費用は、個々様々ですが、10万円前後の者が25%を占めています。全体的な平均金額は8万程度であると思われ、家庭からの仕送りは10万円前後の者が27%を占める一方で、3万円未満の者も22%います。

また、約3割が何らかの奨学金により、4万円前後を受給しています。

アルバイトについては、約72%が月額3万円未満の収入となっています。

学生の月平均の生活費 ※医学部学生は除く



### 生活費の内訳例

1 学生寮に入寮している理学部男子学生の場合	
<b>収入</b>	
仕送り	40,000
バイト代	20,000
計	60,000
<b>支出</b>	
寮費(寄宿費・食費・光熱費等)	20,000
教材費(学費を除く)	10,000
部活動費(ワンダーフォーゲル部)	10,000
交通・交際費	10,000
計	50,000
繰り越し (就職活動※や部活の長期合宿などのために貯金)	10,000
※学生によっては就職活動に多くの費用がかかるケースもあります。(出身地や都市部への企業訪問に必要な交通費など)	

2 アパートで一人暮らしの農学部女子学生の場合	
<b>収入</b>	
仕送り	50,000
奨学金	50,000
バイト代	50,000
計	150,000
<b>支出</b>	
住居費	50,000
食費・光熱費	25,000
教材費(学費を除く)	5,000
交通・交際費(携帯電話料金含む)	20,000
雑費(洋服・化粧品等)	25,000
計	125,000
繰り越し (進学などのために貯金)	25,000

## アルバイト

学務部学生支援課(岡豊キャンパスは岡豊学務課、物部キャンパスは物部学務課)でアルバイト求人情報の紹介を行っており、これらの情報は各キャンパス担当課及び学生用グループウェアで閲覧できます。また、一般のご家庭からの家庭教師募集の情報は、事前に大学への登録を行っている学生に対して提供しています。

一般アルバイトについては、長期休暇中を除き1週間以上の昼間の業務や深夜に及ぶもの、車両の運転など危険を伴うものや風俗営業など、学生としてふさわしくないものは紹介していません。平成19年度中に取り扱った主なものは、一般アルバイトが延べ770件、家庭教師募集が延べ60件です(朝倉キャンパスのみ)。なお、医学部では教育的配慮のもとに家庭教師に限って紹介を行っています。

なお、新入生については原則として、キャンパスライフに慣れた後期からの紹介としています。

## 住居

下宿、アパートやマンションの紹介は、朝倉キャンパス及び岡豊キャンパスは高知大学生生活協同組合で、物部キャンパスは高知大学生生活協同組合と物部学務課の双方で、それぞれ行っています。料金は建物の新旧や場所などの条件によって異なります。

各キャンパス周辺の賃貸価格は、平成20年4月現在で右表の通りです。なお、最近では食事つきの下宿はあまり希望者がありませんが、その場合の料金は約50,000円となっています。

各キャンパス周辺賃貸価格表

貸間	15,000～25,000円
6畳・8畳 1K・ワンルーム	25,000～50,000円



### 学生何でも相談窓口

この窓口は、修学上のことやキャンパスライフに関してなど、またそれだけに関わらず文字通り何でも、質問・不安・悩みを受け付け、相談内容に応じて相談機関や教職員を紹介し、適切な指導が受けられることを目的としています。質問や悩み事などをどこに相談したらよいかわからない時は、気軽にこの相談窓口を利用してください。

また、窓口以外でも「E-Mail」及び「何でも相談箱」による受付も行っています。

### ■学生何でも相談窓口

朝倉キャンパス TEL 088-844-8149  
 岡豊キャンパス TEL 088-880-2529  
 物部キャンパス TEL 088-864-5116  
 E-Mail(全学共通)gsoudan@kochi-u.ac.jp

## 入学科・授業料減免制度

新入生で、入学前1年以内に学資負担者が死亡したり、風水害などの災害を受けたなどの理由により入学科の納付が困難である学生は、申請により入学科の全額または半額が免除される場合があります。

また、経済的理由によって授業料の納付が困難で、かつ、学業優秀な学生は、申請により授業料の全額または半額の納付が免除される場合があります。

### ※大学院生を対象とした学業等成績優秀者授業料免除

学業等成績が特に優れている者に対して、各専攻からの推薦により授業料年額の4分の1が免除されることがあります。推薦時期は毎年9月を予定しており、各専攻で定めた選考基準により推薦者が決定されます。

■入学科・授業料減免制度に関するお問い合わせ先  
 学務部学生支援課  
 (入学科・授業料免除担当)  
 TEL 088-844-8149

## 学生教育研究災害傷害保険制度

この保険制度は、大学に学ぶ学生が教育研究活動中に被った急激かつ偶然な外来の事故または通学中の事故により身体に被った被害を救済する災害補償制度です。学生は、安心して学業に専念できるよう、全員この保険に加入してください。



# 受験生の皆さんへ

高知大学 学長 相良祐輔

受験生の皆さんは、いま、生徒から学生になろうと勉学に励んでおられることでしょう。

大学生になろうと強く希望して、努力を重ねられている皆さんに、ぜひ理解しておいていただきたいことがあります。

大学に進む、学生になる、ということの基本は、あなた方自身の意志によって、教えてもらう生徒の時期に訣別し、受験し、何を学ぶかをあなた方自身が求め、決定する生活を始めるということなのです。

あなた方が真剣に求め続ける限り、高知大学は誠実にあなた方の問いかけに答え続けます。

高知大学は、地域の大学として、21世紀の日本の大学改革という要請を絶好のChanceと捉え、大学変革Changeに勇気を持ってChallengeし、21世紀にふさわしい新しい時代の智を創造Createしようとしています。

この四つのCを目標として、グレード・アップした大学に進化しつつあります。

受験生の皆さん!

この進化し続ける高知大学を目指してください!

この新しく生まれ変わった高知大学への入学のChanceを確実に捉え、生徒から学生へのChangeを果たして、21世紀の社会に十分Challengeできる能力を、みんなで一緒に開発Createしようではありませんか。

高知大学は、学生とともに進化する大学なのです。

あなた方の人生において、今、このときに求めておかねば、二度と手にすることのできないものは何か、それは、高知大学のキャンパスのどこかに必ずあります。私たち教職員は、そのようなあなた方と、共に進もうと考え、待っている、それが高知大学であります。



# データ

Data

## ■過去3年間の志願状況 全選抜方法（平成19年度～平成21年度）

志願者数(人)

区分	19年度	20年度	21年度
人文学部	1,149	1,174	987
教育学部	804	661	763
理学部	1,218	1,111	912
医学部	1,223	715	779
農学部	548	660	665
合計	4,942	4,321	4,106

志願倍率(倍)

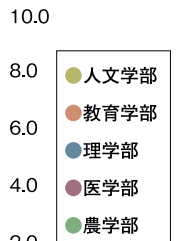
※志願倍率=志願者数/入学定員

区分	19年度	20年度	21年度
人文学部	3.9	4.0	3.3
教育学部	4.7	3.9	4.5
理学部	4.5	4.1	3.4
医学部	8.2	4.8	4.9
農学部	3.2	3.9	3.9
合計	4.7	4.1	3.9

志願者数(人)



志願倍率(倍)



### <詳細:前期日程>

志願者数(人)

区分	19年度	20年度	21年度
人文学部	569	568	443
教育学部	341	303	332
理学部	483	507	593
医学部	285	391	452
農学部	223	258	237
合計	1,901	2,027	2,057

志願倍率(倍)

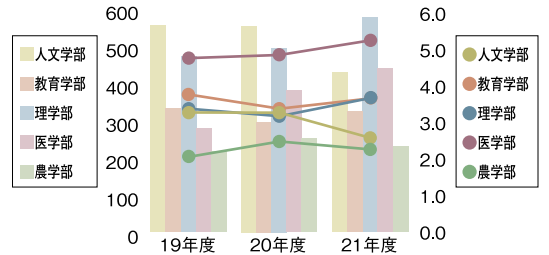
※志願倍率=志願者数/入学定員

区分	19年度	20年度	21年度
人文学部	3.3	3.3	2.6
教育学部	3.8	3.4	3.7
理学部	3.4	3.2	3.7
医学部	4.8	4.9	5.3
農学部	2.1	2.5	2.3
合計	3.3	3.4	3.4

志願者数(人)



志願倍率(倍)



### <詳細:後期日程>

志願者数(人)

区分	19年度	20年度	21年度
人文学部	312	267	199
教育学部	290	221	297
理学部	599	509	116
医学部	596	67	64
農学部	223	274	314
合計	2,020	1,338	990

志願倍率(倍)

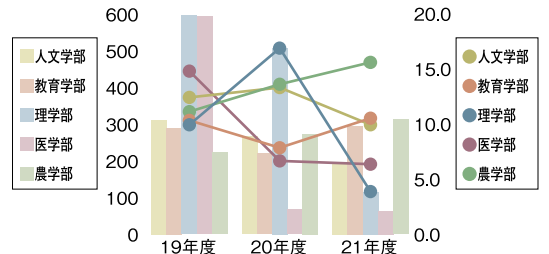
※志願倍率=志願者数/入学定員

区分	19年度	20年度	21年度
人文学部	12.5	13.4	10.0
教育学部	10.4	7.9	10.6
理学部	10.0	17.0	3.9
医学部	14.9	6.7	6.4
農学部	11.2	13.7	15.7
合計	11.7	12.4	9.2

志願者数(人)



志願倍率(倍)



# 平成20年度入学者選抜実施状況

学部	学科・課程等	入学定員	一般選抜										A O 入試			推薦入試						
			前期日程					後期日程					募集人員(人)	志願者数(人)	合格者数(人)	推薦入試Ⅰ			推薦入試Ⅱ			
			募集人員(人)	志願者数(人)	受験者数(人)	合格者数(人)	実質倍率(倍)	募集人員(人)	志願者数(人)	受験者数(人)	合格者数(人)	実質倍率(倍)				募集人員(人)	志願者数(人)	合格者数(人)	募集人員(人)	志願者数(人)	合格者数(人)	
人文学部	人間文化学科	94	58	234	223	73	3.1	5	119	119	5	23.8				30	109	30				
	国際社会コミュニケーション学科	83	36	101	91	45	2.0	10	102	42	18	2.3				A選抜	20	62	24			
																B選抜	15	41	16			
																小計	35	103	40			
	社会経済学科	118	77	233	218	88	2.5	5	46	46	5	9.2	5	43	6	一般	15	49	17			
専門																15	34	19				
小計	295	171	568	532	206	2.6	20	267	207	28	7.4	5	43	6	95	295	106					
教育学部	学校教育教員養成課程	100	55	162	137	70	2.0	15	91	91	18	5.1							30	59	33	
	生涯教育課程	30	15	56	56	16	3.5	6	74	39	6	6.5				一般	9	25	10			
																専門	7	42	9			
																小計	16	67	19			
	生活環境コース	20	10	46	42	17	2.5	4	14	14	4	3.5				6	11	9				
小計	170	90	303	273	113	2.4	28	221	169	31	5.5				22	78	28	30	59	33		
理学部	理学科・応用理学科	270	数学受験	50	138	131	60	2.2	30	509	508	30	16.9				数学分野	25	46	30		
			理科受験	110	369	352	159	2.2									理科分野	50	49	47		
	小計	270	160	507	483	219	2.2	30	509	508	30	16.9				75	95	77				
医学部	医学科	90	50	322	306	63	4.9						30	171	26				10	11	2	
	看護学科	60	30	69	68	34	2.0	10	67	32	10	3.2				20	75	21				
	小計	150	80	391	374	97	3.9	10	67	32	10	3.2	30	171	26	20	75	21	10	11	2	
農学部	農地農学コース	170	104	258	223	109	2.0	20	274	92	32	2.9				一般	4	23	6			
																専門	2	4	2			
																小計	6	27	8			
	海洋生物生産学コース																一般	4	18	7		
																	専門	2	0	0		
																	小計	6	18	7		
	食料科学コース																一般	6	15	8		
																	専門	6	10	6		
	生命化学コース																一般	3	15	6		
																	専門	2	1	0		
自然環境学コース	170	104	258	223	109	2.0	20	274	92	32	2.9						一般	4	13	6		
																	専門	2	2	2		
																	小計	6	15	8		
流域環境工学コース																	一般	3	7	3		
																	専門	1	1	1		
																	小計	4	8	4		
森林科学コース																	一般	3	8	4		
																	専門	2	1	1		
																	小計	5	9	5		
国際支援学コース																	一般	3	8	4		
																	専門	2	1	1		
																	小計	5	9	5		
小計	170	104	258	223	109	2.0	20	274	92	32	2.9				2	10	3	44	118	52		
合計	1,055	605	2,027	1,885	744	2.5	108	1,338	1,008	131	7.7	35	214	32	214	553	235	84	188	87		

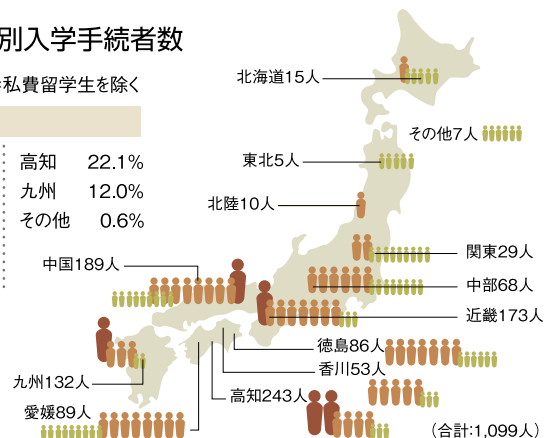
※□は募集なし  
 ※特別選抜:中国引揚者等子女(志願者=1、合格者=1)  
 ※私費外国人留学生の選抜は、志願者=53名、合格者=23名でした。  
 ※実質倍率=受験者数/合格者数

## 平成20年度の地域別入学手続者数

地域・入学手続者数(志願者数)\*私費留学生を除く

### 地域別入学手続者割合

北海道 1.4%	近畿 15.7%	高知 22.1%
東北 0.5%	中国 17.2%	九州 12.0%
関東 2.6%	徳島 7.8%	その他 0.6%
北陸 0.9%	香川 4.8%	
中部 6.2%	愛媛 8.1%	



# 平成21年度入学者選抜実施状況

学部	学科・課程等	入学定員	一般選抜										A O 入試			推薦入試						
			前期日程					後期日程					募集人員(人)	志願者数(人)	合格者数(人)	推薦入試Ⅰ			推薦入試Ⅱ			
			募集人員(人)	志願者数(人)	受験者数(人)	合格者数(人)	実質倍率(倍)	募集人員(人)	志願者数(人)	受験者数(人)	合格者数(人)	実質倍率(倍)				募集人員(人)	志願者数(人)	合格者数(人)	募集人員(人)	志願者数(人)	合格者数(人)	
人文学部	人間文化学科	94	58	161	141	81	1.7	5	52	52	6	8.7				30	112	31				
	国際社会コミュニケーション学科	83	36	88	83	45	1.8	10	78	30	15	2.0	A選抜	20	84	24						
													B選抜	15	22	16						
													小計	35	106	40						
社会経済学科	118	77	194	179	96	1.9	5	69	69	5	13.8	5	36	6	一般	15	54	17				
小計	295	171	443	403	222	1.8	20	199	151	26	5.8	5	36	6	専門	15	36	16				
			30	90	33										小計	30	90	33				
			95	308	104																	
教育学部	学校教育教員養成課程	100	55	190	164	72	2.3	15	131	131	19	6.9							30	70	31	
	生涯教育課程																					
	芸術文化コース	30	15	54	48	16	3.0	6	86	32	10	3.2				9	20	9				
	スポーツ科学コース	20	10	40	38	11	3.5	3	29	13	3	4.3				7	29	8				
	生活環境コース	20	10	48	40	14	2.9	4	51	51	4	12.8				6	15	9				
小計	170	90	332	290	113	2.6	28	297	227	36	6.3				22	64	26	30	70	31		
理学部	理学科・応用理学科	270	数学受験	50	146	138	58	2.4	30	116	116	30	3.9	数学分野	25	75	28					
			理科受験	110	447	419	135	3.1						理科分野	50	127	63					
	小計	270	160	593	557	193	2.9	30	116	116	30	3.9				75	202	91				
医学部	医学科	100	55	408	379	64	5.9						30	172	30				15	45	9	
	看護学科	60	30	44	43	33	1.3	10	64	24	14	1.7				20	46	20				
	小計	160	85	452	422	97	4.4	10	64	24	14	1.7	30	172	30	20	46	20	15	45	9	
農学部	暖地農学コース	170	104	237	200	119	1.7	20	314	108	25	4.3				一般	4	13	6			
																専門	2	5	2			
																小計	6	18	8			
	海洋生物生産学コース	一般	4	13	8																	
		専門	2	1	0																	
		小計	6	14	8																	
	食料科学コース	一般	6	16	6																	
		専門	6	21	6																	
		小計	5	6	4																	
	生命化学コース	一般	2	2	2																	
専門		2	2	2																		
小計		4	4	4																		
自然環境学コース	一般	3	5	3																		
	専門	1	3	1																		
	小計	4	8	4																		
流域環境工学コース	一般	3	11	5																		
	専門	2	1	0																		
	小計	5	12	5																		
森林科学コース	42	99	45																			
国際支援学コース																						
小計	170	104	237	200	119	1.7	20	314	108	25	4.3				4	15	6	42	99	45		
合計	1,065	610	2,057	1,872	744	2.5	108	990	626	131	4.8	35	208	36	216	635	247	87	214	85		

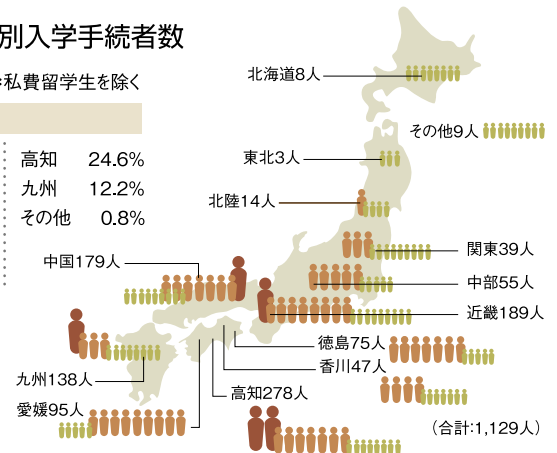
※□は募集なし  
 ※特別選抜:帰国子女(志願者=1、合格者=1)  
 社会人(志願者=1、合格者=1)  
 ※私費外国人留学生の選抜は、志願者=50名、合格者=19名でした。  
 ※実質倍率=受験者数/合格者数

## 平成21年度の地域別入学手続者数

地域・入学手続者数(志願者数) \*私費留学生を除く

### 地域別入学手続者割合

北海道 0.7%	近畿 16.7%	高知 24.6%
東北 0.3%	中国 15.9%	九州 12.2%
関東 3.5%	徳島 6.6%	その他 0.8%
北陸 1.2%	香川 4.2%	
中部 4.9%	愛媛 8.4%	



# Let's open the door!

～入試課からのお知らせ～

Open Campus

## オープンキャンパス

高校生の皆さんに大学を様々な角度から体験してもらえるオープンキャンパス。

高知大学では、教員はもちろん学生生活の先輩である大学生たち自身も参画して、充実した内容の説明会や体験型イベントを行っています。

あなたもぜひ、高知大学を感じに来てください。



### 夏季オープンキャンパス(第1回)

平成21年

■ 8月2日(日) 10:00～16:00

— 岡豊キャンパス:医学部

■ 8月8日(土) 10:00～15:30

— 朝倉キャンパス:人文学部、教育学部、理学部  
— 物部キャンパス:農学部

### 秋季オープンキャンパス(第2回)

平成21年

■ 10月3日(土) 10:00～15:00

— 朝倉キャンパス:人文学部  
— 教育学部  
— 理学部  
— 物部キャンパス:農学部



各学部とも  
盛りだくさんのメニューで  
お待ちしております!

各学科/コース紹介、入試相談  
模擬授業、施設見学  
在校生の体験談/質問コーナーなど

## Information

[対象] 高校生、高等学校教諭、保護者

[申込方法] 高等学校を通じてお申し込みください。

[お問い合わせ先] 入試課

☎ 088-844-8766

FAX 088-844-8147


※その他の詳細などについては大学HPでもご覧いただけます。

高知大学入試情報サイト

<http://www.kochi-u.ac.jp/nyusi/index.html>



1 本学のホームページから資料請求する場合  
<http://www.kochi-u.ac.jp/JA/>へアクセス → 入試情報 → 学生募集要項の公表及び請求方法

2  テレメール(インターネット・電話)にて資料請求する場合  
 テレメール インターネット(携帯電話・パソコン)または電話をご利用ください。

インターネット(携帯電話・パソコン)の場合

<http://telemail.jp>

パソコン・携帯電話各社とも  
 共通アドレスです。



QRコード

※携帯電話でQRコードを読み取りアクセスした場合は、資料請求番号の入力は不要です。

電話の場合

IP電話：050-2015-0555

※一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約11円です。

下記の資料番号を入力またはプッシュし、音声ガイダンスに従ってください。

資料名	資料請求番号	予定送料	発送開始
入学者選抜要項	586970	180円	7月中旬
一般選抜募集要項	586900	290円	11月上旬
推薦入学I募集要項	586910	210円	7月中旬
推薦入学II募集要項(教育学部・農学部)	586920	180円	11月上旬
人文学部社会経済学科AO入試募集要項・人文学部案内	547020	210円	5月上旬
医学部AO入試募集要項・医学部案内	547060	290円	6月上旬

※発送開始日までのご請求は予約受付となり、発送開始日になりましたら一斉に郵送します。

※送料は、お届けした資料に同封されている支払方法に従いお支払いください。

3 郵便局にて資料請求する場合

※10月より案内開始、取り扱っているのは一般選抜募集要項のみです。

全国の郵便局(普通局、特定局)に設定されている国公私立大学・短期大学及び通信教育課程、大学校募集要項(願書)請求申込書(郵便局用願書請求カタログ)に必要事項を記入の上、送料と払込手数料120円を添えて、最寄りの郵便局の窓口で申し込んでください。受付から1週間程度で送付されます。

●1~3についてのお問い合わせ先

**テレメールカスタマーセンター**

**☎ 050-2015-5050**

受付時間 9:30~18:00

4 本学に郵送で直接資料請求する場合

※直接配布を受ける場合の入試課窓口受付時間は、平日8:30~17:00です。

封筒の表に「○○選抜学生募集要項請求(○○学部)」と朱書き、返信用の封筒(角形2号封筒に請求者の郵便番号・住所・氏名を明記し、290円の郵便切手を貼ったもの)を同封の上、右の送付先にご請求ください。

●送付先 〒780-8520

高知市曙町二丁目5番1号  
 高知大学学務部入試課  
 ☎ 088-844-8153

AO入試(医学部)・推薦入学II(医学部)の学生募集要項は、封筒の表に「AO入試学生募集要項請求(医学部)」もしくは「推薦入学II学生募集要項請求(医学部)」と朱書き、返信用の封筒(角形2号封筒に請求者の郵便番号・住所・氏名を明記し、290円の郵便切手を貼ったもの)を同封の上、右の送付先にご請求ください。

●送付先 〒783-8505

南国市岡豊町小蓮  
 高知大学医学部入試担当  
 ☎ 088-880-2295

## 現役高知大生も皆さんを応援しています!

### 合格発表



緊張と喜びの合格発表当日には、合格した受験生たちを讃え、歓迎しようと、アメリカンフットボール部の猛者たちが掲示板前に大集合! 合格者を次々に胸上げて回り、みんなで一緒に喜びを分かち合います。



合格者を胸上げ、歓迎する部員たち。



## 各施設の所在地及び交通アクセス

**1 朝倉キャンパス(人文学部・教育学部・理学部)**/高知市曙町2-5-1  
事務局、学生会館、各学部棟(人文/教育/理)、附属特別支援学校、附属教育実践総合センター、附属高知地震観測所、附属水熱化学実験所、国際・地域連携センター、メディアの森[総合情報センター(図書館)]、保健管理センター

朝倉キャンパスまでの所要時間は次の通りです。

- 高知龍馬空港から 車で約45分  
空港バスで約50分、「朝倉(高知大学前)」下車
- 高知駅から 車で約20分  
バスで約25分  
路面電車で約30分、「朝倉(高知大学前)」下車  
JR土讃線約15分、「朝倉駅」下車、徒歩3分
- 高知インターチェンジから 車で約30分
- 伊野インターチェンジから 車で約5分

**2 岡豊キャンパス(医学部)**/南国市岡豊町小蓮  
医学部、メディアの森[総合情報センター(図書館)]医学部分館、附属病院、動物実験施設、実験実習機器施設、RI実験施設、附属医学情報センター、国際交流会館、保健管理センター(医学部分室)

岡豊キャンパスまでの所要時間は次の通りです。

- 高知龍馬空港から 車で約20分
- 高知駅から 車で約20分  
バスで約30分  
JR土讃線約20分、「後免駅」下車、車で約15分
- 南国インターチェンジから 車で約10分
- 高知インターチェンジから 車で約20分

**3 物部キャンパス(農学部)**/南国市物部乙200  
農学部、メディアの森[総合情報センター(図書館)]農学部分館、農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター(南国フィールド)、大学院黒潮圏総合科学専攻、遺伝子実験施設、海洋コア総合研究センター、日章寮、国際交流会館、留学生寄宿舎

物部キャンパスまでの所要時間は次の通りです。

- 高知龍馬空港から 徒歩約15分
- 高知駅から 車で約30分  
空港行きバスで約35分、「高知大学農学部前」下車  
JR土讃線約20分、「後免駅」下車、車で約15分
- 南国インターチェンジから 車で約20分

**4 男子学生寮(南溟寮)**/高知市朝倉丙252

**5 女子学生寮(かつら寮)**/高知市曙町1-16-1

**6 女子学生寮(ときわ寮)**/高知市朝倉東町46-33

**7 教育学部附属小学校・中学校・幼稚園**  
高知市小津町10-13・高知市小津町10-91・高知市小津町10-26

**8 農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター**  
(嶺北フィールド)教育実習実験研究施設/  
香美市土佐山田町上穴内字栗石20-2

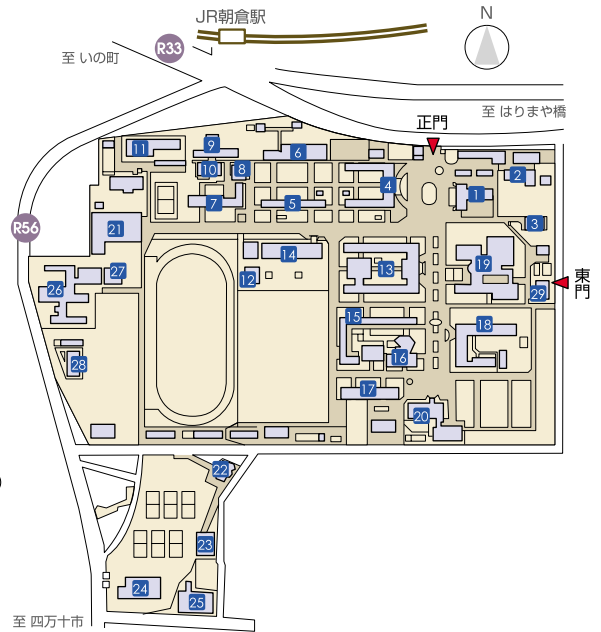
**9 宇佐野外活動施設**/土佐市宇佐町東町浜3159-5

**10 海洋生物研究教育施設**/土佐市宇佐町井尻194

**11 艇庫**

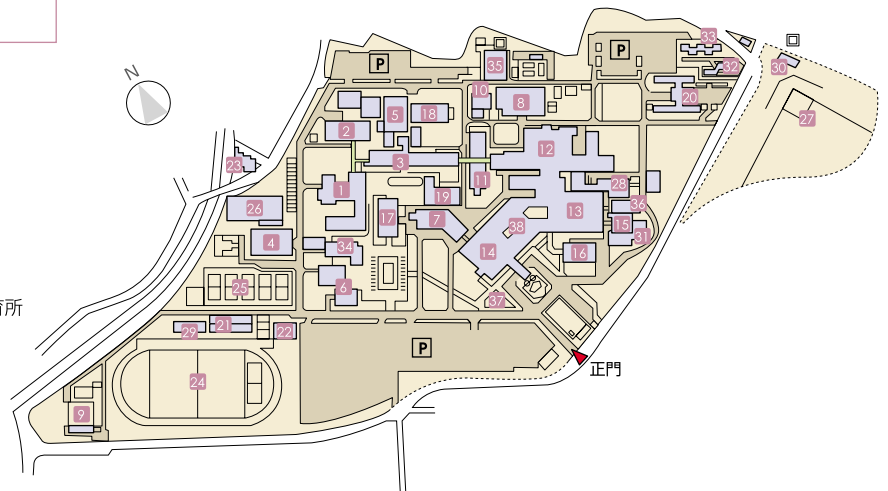
## 朝倉キャンパス (人文学部/教育学部/理学部)

- |   |   |
|---|---|
| 1. 本部管理棟(学務部入試課)                          | 19. メディアの森<br>[総合情報センター(図書館)]                 |
| 2. 非常勤講師宿泊所                               | 20. 学生会館(福利厚生施設)                              |
| 3. 保健管理センター                               | 21. 北体育館                                      |
| 4. 総合研究棟                                  | 22. 理学部附属高知地震観測所                              |
| 5. 教育学部2号館                                | 23. 理学部附属水熱化学実験所                              |
| 6. 教育学部3号館                                | 24. 国際・地域連携センター                               |
| 7. 教育学部4号館                                | 25. 南体育館                                      |
| 8. 教育学部51番教室                              | 26. 教育学部附属特別支援学校校舎                            |
| 9. 教育学部音楽棟                                | 27. 教育学部附属特別支援学校<br>日常生活訓練施設(くじらの家)           |
| 10. 教育学部附属教育実践総合センター                      | 28. プール(附属特別支援学校)                             |
| 11. プール                                   | 29. 学生支援課留学室<br>総合教育センター(修学・留学生支援部門)<br>施設企画課 |
| 12. 理学部情報科学棟                              |   |
| 13. 実験系総合研究棟・理学部1号館                       |   |
| 14. 理学部2号館                                |   |
| 15. 共通教育1号館                               |   |
| 16. 共通教育2号館                               |   |
| 17. 共通教育3号館・学生サービスセンター(学生支援課・就職室)         |   |
| 18. 人文学部管理棟・学生サービスセンター(学務課・共通教育)・総合教育センター |   |



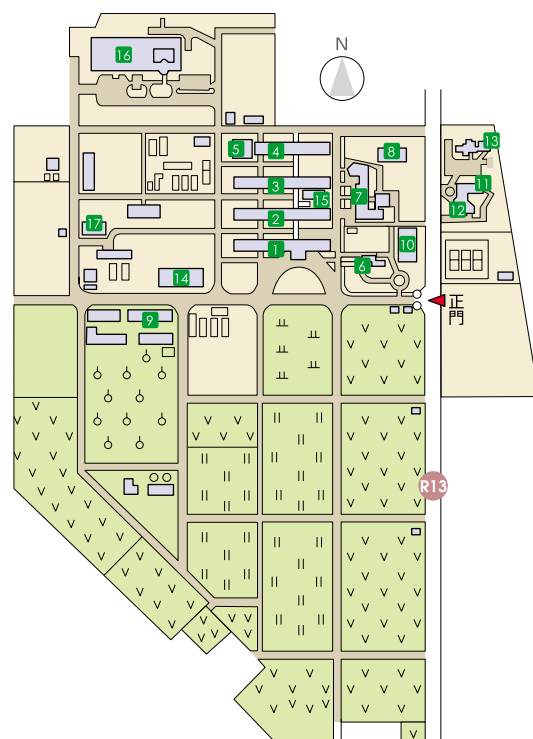
## 岡豊キャンパス (医学部)

- |  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 講義棟                                 | 20. 職員宿舎           |
| 2. 実習棟                                 | 21. 課外活動共用施設       |
| 3. 基礎・臨床研究棟                            | 22. 武道場            |
| 4. 体育館                                 | 23. 非常勤講師宿泊施設      |
| 5. RI・動物実験施設                           | 24. 陸上競技場          |
| 6. 医学部会館(福利厚生施設)                       | 25. テニスコート         |
| 7. 管理棟(学生・研究支援課)<br>保健管理センター(医学部分室)    | 26. プール            |
| 8. 中央機械室                               | 27. 野球場            |
| 9. 廃水処理施設                              | 28. RI治療施設・院内保育所   |
| 10. 車庫                                 | 29. 弓道場            |
| 11. 臨床講義棟                              | 30. 野球場附属施設        |
| 12. 病棟                                 | 31. MRI-CT装置棟      |
| 13. 中央診療棟                              | 32. 国際交流会館(単身・共用棟) |
| 14. 外来診療棟                              | 33. 国際交流会館(世帯棟)    |
| 15. 高エネルギー治療施設                         | 34. 看護学科棟          |
| 16. 食堂棟                                | 35. 発電機棟           |
| 17. メディアの森<br>[総合情報センター(図書館)]<br>医学部分館 | 36. PETセンター        |
| 18. 大学院研究棟                             | 37. ホスピタルローソン      |
| 19. 医学情報センター                           | 38. スターバックスコーヒー    |



## 物部キャンパス (農学部)

1. 農学部1号棟
2. 農学部2号棟
3. 農学部3号棟
4. 農学部4号棟
5. 実験研究棟
6. 厚生会館
7. メディアの森[総合情報センター(図書館)]農学部分館  
及び講義室棟
8. 日章会館(福利厚生施設)
9. 農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター
10. 体育館
11. 日章寮
12. 留学生寄宿舍
13. 国際交流会館
14. 遺伝子実験施設
15. 共同利用機器分析室棟
16. 海洋コア総合研究センター
17. 黒潮圏総合科学専攻棟



インターネット 高知大学ホームページアドレス

<http://www.kochi-u.ac.jp/JA/>

インターネットを利用して高知大学ホームページにアクセスしてください。  
入試情報や各学部・学科が独自に作成したホームページを見ることができます。

携帯電話サイト <http://daigakuic.jp/kochi-u/>  
イベントトピックス情報、入試情報などを携帯電話から見ることができます。



入学者選抜に関するお問い合わせ先(ご意見・ご質問などお寄せください)

学務部入試課 TEL 088-844-8153

〒780-8520 高知市曙町2-5-1  
E-mail [nys-web@kochi-u.ac.jp](mailto:nys-web@kochi-u.ac.jp)

入試に関する様々なデータや最新情報を提供しています。  
<http://www.kochi-u.ac.jp/nyushi/index.html>

キャンパスライフに関するお問い合わせ先

学務部学生支援課 TEL 088-844-8149

〒780-8520 高知市曙町2-5-1  
E-mail [gs03@kochi-u.ac.jp](mailto:gs03@kochi-u.ac.jp)

高知大学案内

発行日 2009年5月 / 発行 高知大学広報室 〒780-8520 高知市曙町2-5-1  
TEL 088-844-8643 E-mail [kh13@kochi-u.ac.jp](mailto:kh13@kochi-u.ac.jp)  
エディトリアル・デザイン FACTORY Co.,Ltd

